二月二十五日發行
發行人 鈴木昇
編輯人 橋本喜代治
印刷人 村本武盛
大連市東公園町三十一番地
發行所 株式會社滿洲日報社

滿洲國の熱河肅淸に皇軍の協力する理由
武藤軍司令官の宣言書

滿洲建國こゝに一周年、內、庶政革まり、群匪掃蕩され民衆和平に樂しまんとし、外、日滿の親善はいよ／＼敦厚を加へ列國は聯盟の名によつて滿洲國の獨立承認を政治的に回避する傾向あるも、新國家の現實的成立に對しては經濟的において事實上諒解するの已むを得ざる現勢にあり、この秋に方りひとり熱河省の疆域のみ舊態依然として軍閥の跋扈に委し、匪賊また跳梁し、加ふるに北支政權の軍隊紊りに省內に侵入し、今や同地方の住民は苛斂誅求に生色なく、しかも熱河混亂の餘波は全滿民衆の安定を阻害すること尠少にあらず、事態かくのごときを以て今次滿洲國政府はその國軍をして大擧熱河省の肅淸を斷行せしむることゝなれり、惟ふに同省が滿洲國の疆域たる事實は同省の地理的位置たる悠久四千年の歷史に鑑み、將また滿洲國建國の宣言に明徵され、寸毫の疑義を挾むべからず、換言すれば今回の事たる滿洲國のため單なる國內問題を解決するに過ぎざるなり、軍は日滿親善の精神に基づき如上滿洲國の崇高至當なる行動に對し、滿腔の贊意を表し、所要の兵力をもつて協同事に當ることゝなれり、從つて軍はその實力行爲を滿洲國領域外に脫逸せしむるが如きは斷じて好まざるところ、しかれども北支政權にして我軍に對し積極的實力行動に出づるが如き場合において、戰禍悉いて北支に及ぶも亦已むを得ざるべきは何人と雖も首肯し得るところにしてその責任の彼に屬すべきも亦もとより當然なり、これを要するに軍の庶幾するところは滿洲國の健全なる發達と、東洋全局の和平にあり、こゝに熱河の事起るにあたり、如上の趣旨を中外に宣明し以て公明正大なる我が關東軍の態度を鮮明ならしむ矣

昭和八年二月二十五日

關東軍司令官　武藤信義

松岡代表
けふ壽府出發

【ジユネーヴ二十四日發】松岡代表は明二十五日ジユネーヴ發歸國の途に就く事となり先づパリに赴く豫定である

皇軍勇躍北票に入城
敵匪千五百算を亂し潰走

【朝陽寺二十二日發】張學良の使嗾に乘つて錦州方面に逆襲せんとする叛徒の機先を制すべく、熱河討伐最初の火蓋を切つて北票に入城した我討匪軍中央攻擊部隊たる第〇〇團長麾下の早川部隊は二十日午後最前線部隊として錦州出發、二十一日午前一時朝陽寺驛に集結隊伍を整へ、早川主力部隊を中央に右翼平柳枝隊左翼島村枝隊の三手に分れ二十一日拂曉勇躍、北票に向つて一齊に進擊を開始した、朔風吹き荒む朝まだき起伏する丘陵の積雪を蹴つて皇軍將士は元氣一杯で進軍又進軍、島村枝隊の鈴木分隊は早くも南嶺驛を奪還午前八時大凌河南岸に至るや散兵線を布き堅氷を突いて一擧扣北營子に迫る、我軍の一擊に陣營を放棄して後退した兵匪を合した扣北營子の敵匪約一千の大集團は山上の陣地より迫擊砲、小銃の猛射を以て抵抗する、此間島村枝隊の第一線は第一高地を占據、第二高地に肉薄せんとし、第二線の早川部隊も遲れじと第一高地線上に達するや、敵の攻擊益々激しく先頭に進む水上藤吉一等兵は迫擊砲彈の爆破破片を浴びて棒狀になつて斃れ、最初の尊き犧牲となつて戰死し、他に五名の負傷者を出すや將士の意氣極度に昂る、敵匪は我軍の猛擊に次ぐ猛擊に支へ切れず、午前十一時雪崩を打つて北票方面に退却した、我各部隊は附近一帶の殘匪を掃蕩しつゝ同夜島村枝隊は扣北營子驛に、早川主力部隊は同驛南方に、平柳枝隊は北方の各部落に宿營、二十二日未明錦朝支線の末端北票に向つて總攻擊を開始し、午前十一時島村枝隊先づ北票に入り、續いて午後一時二十分早川部隊は旭光に映ゆる〇〇旗を先頭に威風堂々入城した、敵匪一千五百は前日扣北營子の一戰に皇軍の威力を初めて知り怖れをなして夜半二時算を亂して北方に潰走したもので、こゝに熱河の一咽喉を完全に占據し、錦朝支線交通確保の目的を達成し住民は歡呼王道善政の陽光に浴した

日滿國旗雪空高く開魯城頭に飜る
居住民が總出で歡呼

【通遼二十四日發】二十三日通遼を發した茂木部隊の先頭は早くも二十四日正午開魯城東門に達した東門入口には日章旗雪空に高く飜へり、城內各戶には悉く眞新しい滿洲國五色旗が揭げられ、鮮民は積雪を物ともせず手に手に日滿國旗を打振り老若男女總出で皇軍を歡迎した、鮮民等の高唱する「日本軍萬歲」「滿洲國萬歲」「王道樂土萬歲」の聲は天地を搖がす、敵匪はこれより先、日滿軍來るとの噂き風を喰つて西方に遁走した

【開魯二十四日發】滿洲國軍は開魯から更に南進を開始した、なほ張海鵬將軍は二十四日正午開魯に入城した、城門には滿洲國旗が揭揚されて居る

朝陽附近略圖

討熱作戰軍司令部
行動開始に俄然緊張す

【新京電話】討熱行爲の開始とゝもに新京滿洲國軍政部內に臨時設置された討熱作戰軍司令部は俄然緊張し大多忙を極めてゐるが、早くも討熱軍中隨一の勇猛を謳はれてゐる王永淸軍のもの凄い活躍に天を衝く氣勢を示しその歡びは滿ち／＼てゐる

皇軍朝陽に入城

【新京特電】關東軍司令部發表＝我飛行機の偵察によればわが騎兵部隊は二十五日午前十一時威風堂々と朝陽に入城せり

朝陽を目下攻擊中

【錦州廿五日發】二十日以來行動を開始せる鈴木部隊の從屬部隊は目下右左兩翼より朝陽を攻擊中である、敵匪は西北方に逃走した模樣で同地の陷落は目睫に迫つてゐる

【錦州二十五日發】鈴木部隊は二十四日蟒牛營子石門子溝の線に前進したが二十五日午前八時より朝陽東北方地區に陣地を構築して蟠居しつゝある敵匪に對し猛擊を開始し銃砲天地を震駭せしめつゝあり朝陽の陷落近し

毒瓦斯等を學良供給

【綏中二十四日發】張學良は日本軍を斃すためには如何なる手段方法も選ばぬとの決意を爲し、目下西南國境にある孫德荃の第百十九師に對しダムダム彈及び毒瓦斯を供給したとの說がある

陸軍省公報

【東京二十五日發】＝陸軍省公表
一、滿洲國政府はその國軍をして國內治安回復のため大擧熱河省內の肅正を斷行することになつた、關東軍は日滿親善の精神に基き、且つ日滿議定書の示すところに從ひ、同國の崇高、至當且壯烈なる行動に對し滿腔の贊意を表し、こゝに所要の兵力を以て之に協同することになつた
二、關東軍は滿洲國軍と緊密なる連絡を保持し、二月上旬より諸準備に着手し、既にこれを完了し得たので、二十五日を期し各方面一齊に行動を開始し、酷寒を冒し嶮峻なる山地を越え所在の兵匪を驅逐しつゝ熱河省內に進軍中である
三、二月二十一日早川部隊は千餘の敵を擊攘し北票を完全に占據し北票支線を確保した
四、二月二十四日滿洲國軍の一部隊は開魯を急襲占據し吹雪の中に城頭高く新五色旗を飜へした、同軍は續いて進軍を繼續してゐる
五、敵軍內部には動搖の兆歷然たるものあり、劉桂堂軍約二萬は二月二十日逸早く反張の通電を發し滿洲國に歸順し今次討伐に參加してゐる、その他各方面に投降し來る部隊多數ある見込み
六、關東軍並びに滿洲國軍の將兵は意氣衝天の槪あり、その連絡も頗る圓滿緊密であつて、未だ各方面共敵軍と正面の衝突は見ないが戰はずして既に赫々たる勝利を得てゐる

我代表部に引揚命令
總會經過の公報到着を待つて聯盟脫退手續を執る

【東京二十五日發】二十四日の總會は不幸なる豫定の筋書を辿り、四十二對一で報告書を採擇し、松岡代表は反對宣言を殘し議場を退席し、玆に聯盟と我國は事實的絕緣狀態に入つたので、政府は直に松岡代表にジユネーヴ引揚げを命ずると共に、代表部より總會經過に關する公報の到着するを待ち脫退手續きを進めることになつた、而してその時期は最も有效な時期を選擇する必要あるため、代表部の公報如何によつては松岡代表歸着を待たず脫退通告を發すべく、直に樞府諮詢その他につき外務省及び法制局兩當局間に萬端の準備を完了せしむることになつたり、で四十二票對一票も豫定の行動と許り外務省內は靜寂そのものだ

杉村次長歸朝

【ジユネーヴ二十四日發】杉村聯盟事務局次長は本日辭表を提出、三月二十八日發の郵船諏訪丸で歸朝の筈である

滿洲國育成に今後は全力を傾注
我外務某當局の意見

【東京二十五日發】二十四日の總會が報告書を採擇したとの報に外務省の某當局は非公式に左の如く語つた

これで聯盟は完全に極東問題に對し無理解不誠意なることを暴露した、聯盟各國は歐洲の政情不安に目が眩み日本の公正なる主張に耳を傾くるの熱心と公平な心情を缺いてゐるのである、かゝる歐洲本位の聯盟各國により、これ以上我々の死活問題たる滿洲問題を論議されることは我々として絕對に容認し得ない我々はこの上は滿洲國の育成に全力を傾注するのみである、聯盟としては思ふところまで行つたのだから滿足だらう、たゞそれが聯盟自身の墓穴を掘る所以なることに氣づかざる點は惘まざるを得ない、日本としては煩雜な聯盟から離れることが出來て寧ろ滿足である

諮問委員會けふ第一回會議

【ジユネーヴ二十四日發】今日の總會で設置された二十一國諮問委員會の機構は未だ明確を缺くが、要するに十九國委員會の變形で、總會の繼續委員會として日支事件の推移を監視するものだ、委員會は二十五日第一回會議を開き米露招請問題その他につき協議する筈

わが陳述書提出
東京ではあす公表

【ジユネーヴ二十五日發】我代表部では二十五日全文二十數頁に亘る長文の陳述書を聯盟に提出することに決した、右陳述書の發表は二十六日東京でも同時に公表される豫定である

その夜の外務省
人氣なく靜寂

【東京二十五日發】日本を踏みつけにした報告書が四十二對一で採擇された、その第一報が入つた二十四日午後十時の外務省は、まるで伽藍堂で興奮などいふ氣配はない、內田外相は午後六時頃さつさと退廳し有田次官は家族に不幸があつて私邸に歸り、谷亞細亞局長白鳥情報部長等は此の夜、三月一日ドイツに赴任する永井大使の送別會が東京會館に行はれたので、それに出席し、外務省に立ち寄らず、情報部筒井課長が午後九時半頃倉皇として外務省に現れたばかり

支那代表愕く
シヤムの棄權に

【ジユネーヴ二十四日發】本日總會における報告案採擇の際の情景は劇的であつた、支那代表顏惠慶は日本以外は皆贊成と見込みをつけ、指名點呼の進むにつれ、支那代表附近のスペイン代表マダリアガ氏、アイルランド代表レスター氏等を顧みつゝ議場に傲然と不作法な笑ひを泛べてゐたが、三十五番目のシヤムの名前が呼び上げられるや、シヤム代表デヴァイルア氏は明晰な聲で「アブスタンシヨン（棄權）」と叫んだ時は、顏代表はぎよつとしてその方角を睨み一種の動搖を卷き起した

滿鐵社員會幹事
けふ選擧開票の結果

滿鐵社員會の八年度幹事長および全評議員互選による幹事二十四名の選擧開票は二十五日午前十時、社員會事務所において栗屋選擧長代理、里村英夫、塚原慧智三、落合兼行四氏立會の下に開票された、有權者四百九十八名（缺員七票）中有效投票四六一票にて、幹事長には豫期されたごとく伊藤審査役が絕對多數にて當選した

幹事長
當選　四五三票　伊藤武雄（審査役）
次點　三票　北條秀一（經濟調査會）
他に一票づゝ二名

幹事當選者（△印は新當選）
二三票△上田竹楨（鞍山驛）
二一票△田中幸英（四平街驛）
二〇票△武智幸廣（安東驛）
一七票　武田胤雄（營口地方事務所）
一六票　渡邊柳一郎（鐵道部）
一五票△有光清（蘇家屯驛）
一五票△森景樹（公主嶺地方事務所）
一五票　直塚芳夫（大連機關區）
一五票　曾田正彥（總務部文書課）
一四票　鎌田正顯（奉天驛）
一四票△七田積（大連鐵道事務所）
一三票△松本重平（撫順炭礦庶務課）
一三票△兼安長右衞門（撫順經理課）
一三票　篠原豐三郎（鐵道工場庶務課）
一三票　藤井萬（撫順古城子採炭所）
一三票　塚原慧智三（鐵道新線建設本部）
一三票　田路逸次郎（撫順炭礦製油工場）
一三票　種村吉衛（大連機車區）
一三票　川上榮五郞（撫順老虎臺採炭所）
一二票△長井次郎（鞍山製鐵所庶務）
一一票△落合兼行（電氣課）
九票△一萬田七郎（埠頭第一港區）
九票　河端長吉（新京機關區）
九票△高木獺一（埠頭事務所）

社告

熱河方面の風雲俄然急なるものあり本月二十一日未明、奉山線北票支線附近における彼我の壯烈なる衝突を契機として、戰局漸次發展の形勢となつたにつき、本社は取敢ず左記七名の記者並に寫眞班員を特派從軍せしめたが、右は何れも既に前線に到着し、夫々各部署に就いて活躍中である。本社はなほ戰局擴大に伴ひて、引續き特派員を現地に送ると共に、一方關係各地における支社、支局その他のあらゆる通信網を總動員して、廣大なる各戰線に亙る各種の狀況並に正義公道に基づく日滿兩國軍の壯烈なる行動を、記事に、寫眞に細大洩らさず敏速且つ正確に報道すべく、既に各般の準備を整へた。今日以後の紙上は爲めに一段の精彩を放つであらう、刮目せられんことを望む。

二月二十五日　滿洲日報社

本社特派員

記者　五百旗頭佐一
記者　島田一男
記者　板屋猛
記者　立上武三
記者　白石繁雄
記者　山代丈二
寫眞班　山口晴康

蛇角

◇一昨年の十三對一が今年は四十二對一になつた。
◇邪惡の票數增增して、正義の一票ます／＼光彩を加ふ。
◇聯盟が自殺の豫告をした、いはく「死にたい、」（四二タイ一）とは如何です。
◇勸告の本體は「支那國際管理」の通告だ、と松岡代表峻烈。
◇小便をブッかけられつゝ、ガアガア喜んで居る「支那蛙」の醜態を讃し得て妙々。
◇熱河方面、果然爆發！
◇「無力聯盟」、「實力日滿」、それを立證する秋は來れり。

號外發行

本社は聯盟總會並びに熱河討伐に關し二十五日前後四回に亘り本紙不再錄號外を發行す

人事

▲小川順之助氏（大連市長）廿五日午前八時大連着列車にて歸連
▲山邊一郎氏（大阪商船旅客係主任）同上
▲龜岡精二氏（四洮鐵路顧問）同來連
▲青木信一氏（新京鐵道事務所長）同上
▲古川達四郎氏（奉天鐵道事務所長）同午前七時大連着列車にて來連
▲久保孚氏（滿鐵撫順炭礦長）廿五日午前鳴にて歸撫
▲江崎重吉氏（大連鐵道事務所長）同上大石橋へ
▲浦島榮吉氏（國際運輸營口支店長）廿五日午前八時列車にて着連ヤマトホテルへ

東天紅（5）

田中純作　林一三畫

ライラックの夜（五）

「それで、君は今、何處に住んでるんです。鎌倉ですか？」と、神田康造が訊いた。
「えゝ。尤も、鎌倉には今夜着いたばかりですが」
「それで、當分こちらにゐるつもりなんですか」
「解りませんれ。氣が向けば、明日にも何處かへ行くかも知れませんから」
「しかし、それでは、當てにならないれ。野球は今度の土曜にあるのだから」
別の男が言つた。
「いや、それだけは大丈夫です。折角、久しぶりに野球が出來るんですもの。それまでは、どんな事があつても鎌倉に居りますから」
「それでは、兎に角、土曜日にはこの人に――相良君と言ひましたかれ。相良君に野球場まで來て貰ふことにしようか」
「うむ。さうしよう」
「では、おい、お光ちやん」と、神田は、先刻からの女給に聲をかけた「この人の盃をこつちへ持つて來て呉れ給へ。一緒に飲むから」
「では、お會計も御一緒で好いんでせう？」
お光は、ちよつと安心したやうに言つた。
「無論さ」
「けち／＼するない」
「では、吾等の新投手のために乾盃しよう」
「ブラボウ！」
「ブラボウ！」
乾盃が濟むと、一座は急に陽氣になつて來た。
「それで、相良君は今まで、ずつと關西にゐらしたのですか」
その賑やかな酒盃の交歡の中で神田がまた訊いた。
「えゝ、いえ、今から一週間前には、まだ上海にゐました」
「上海に？ほう、それはまた面白いところにゐらしたのですれ。上海では御商賣ですか？」
「ええ、まア、商賣と言へば商賣ですが――國際的な自由勞働者とでも言ひますかれ。ホテルのボーイから、ダンスホールのクラリネット吹き、淫賣宿の客引きまでやりましたかられ」
「はツ、はツ。それで、鎌倉に來れば早速投手業ですか」
「えゝ。僕は、何でもやりますし何處へでも行きますよ。三年ばかり前には、しばらく馬來半島の方をぶらついて見ましたが、あれも面白かつたです」
「その時は何をしてゐらしたのです？」
「ゴム園でも働きましたし、日本の運動具屋の番頭みたいなこともしましたし、一時は、サーカスの道化役にもなりましたし……」
「驚いた人だれ」
神田が、さう言つて、愉快さうな哄聲を擧げた時には、同じ卓子の仲間ばかりでなく、そばに立つて居る女給たちまでが、興味と好奇心とに充ちた目で、この不思議な青年を見つめてゐた。
實際、彼には、さう聞いて見ると、何處かに浮浪者らしい樣子があつた。その日燒けのした顏や、節立つた指や、赤茶けた背廣服や汗じみたネクタイや――それらのすべてに貧困と勞苦と疲れの跡がにじみ出て居るのであつたが、それにも拘らず、彼の動作や、言葉や、顏つきには、不思議な明るさや、健康さや、人懷こさが溢れて居る。彼に、零落の跡は微塵も殘つてゐないのだ。
「面白い人だわ、この人」
さう思つたのは、先刻から、そばでじつと彼の顏を見つめて居るお光ばかりではなかつた。

名譽の北票一番乘り 裝甲單車決死隊
彈丸の如く驀進する

【北票二十二日發】我早川部隊が熱河省內敵匪掃蕩の幕を切つて落すやこれが先頭の名譽を負うた者は鐵道突擊隊富田〇隊の兒玉大尉が指揮する水間中尉以下〇〇名の**決死隊員が搭乘する裝甲單車で廿一日午前五時半朝陽寺驛發車**目にも止らぬ早業で途中破壞線路を修理しつゝ**午前八時南嶺驛を占領**速度を早め橋礎の破壞された大淩河鐵橋を大冒險で突破、次いで群がる敵匪の彈雨をくゞつて扣北營子驛を無停車で驀進、一路北進して北票驛五百米に肉薄したが敵の死物狂ひの猛射を浴び遂に敵彈は裝甲單車の鐵板を貫いて**小淵軍曹は背部に盲貫銃創を**負ふに至り勇士は北票を目前に見つゝ涙を呑んで午後六時扣北營子驛に引返した、明くれば二十二日午前七時今度こそはと再度の攻擊に進發長驅北票驛に迫り逃げ遲れた匪兵を掃蕩して**午前八時北票一番乘りとして凱歌を揚げて入城**すれば續く富田本部裝甲列車も來着、**驛頭高く日滿國旗をひるがへした** 北票に頑張つて居た敵匪は前日の大膽不敵な裝甲單車の突擊に怖れて北方に總退却をしたので我軍の入驛するや奉山線警務局員を始め北票市民は豫て用意されてあつたと見え**滿洲國旗を押立てゝ歡迎し**水間中尉以下〇〇勇士の榮を飾つた

殊勳の小淵軍曹

【北票二十二日發】北票に一番乘りの裝甲單車に搭乘不幸敵彈の爲め背部盲貫銃創を受け生死を氣遣はれつゝある小淵信太郎軍曹は二十一日午後三時半全軍が敵の猛射を浴びつゝ北票驛前一千米の地點に近づくや敵は地形を利用し機關車を逆落しにして我裝甲單車を破壞せんとする模樣あり水間中尉の命令の下に金子上等兵を從へ大膽にも敵彈雨と降る中を五十米位宛前方に走りながら交替に脫線機をつけ外しつゝ、裝甲單車を前進せしめ遂に北票驛前五百米に迄達せしめたが敵の猛射愈々加はり水間中尉は危險と見て兩人に乘車を命じ敵の猛射に裝甲車中より機關銃を以て應射せんとした際不幸敵の一彈は裝甲車の鐵板を貫ぬき軍曹の背部を見舞つたものでその沈着大膽な行動は驚嘆されて居る

彈雨を潜つて北票へ
裝甲單車に便乘して

【北票二十二日發】二十二日午前零時、朝陽寺構內に橫はるグロテスクな怪物——兒玉大尉、水間中尉以下決死の鐵道突擊隊〇〇名を乘せた富田〇隊の先驅裝甲單車は北票支線に對する逆匪の頻々たる

破壞 妨害默過し難く二十一日深夜愈々石本氏拉致事件の恨晴さでぬ北票支線の交通線確保に必要な手段に出ると聞いた余（帆足國通記者）は第一目標、北票一番乘を敢行すべく急遽朝陽寺に馳せつけ隊長の諒解の下に怪物裝甲單車に便乘した、深夜の曠野、寒さが凍てついた鐵板を通してひし〳〵と身に迫る、揮發油の臭のしみた狹い裝甲車の中に身を縮めて凍つて感覺の無くなつた足をやけに踏鳴らしながらたゞ〳〵寒ふ齒をかみしめながら發車を待つ「出動」兒玉大尉の命令一下午前五時三手に分れて北票に向つて行動を起した早川部隊の焚き殘した篝火が所々に燃る中を貫いて余等の便乘せる鐵路の

怪物 は動き始めた、連結裝甲單車二臺先頭には水間中尉搭乘後車は兒玉大尉指揮し富田〇隊本部を乘せた修理列車これに續く、雪明りに蒼白く光る二條のレールの上を轟々と響を立て乍ら一路逆匪の第一線南嶺へ、夜が白々と明ける、鐵路西側に處々地肌を見せた雪の丘陵が續く、楊の疎林が見える枯淡な然し親み深い熱河風景だ、六時半裝甲單車がピタリと止まつた最初の敵の鐵道破壞箇所だ、小さい橋梁の枕木四本が無殘にも燒棄てられてゐる「素破！」と修理班が飛び降りる、エンサ〳〵と枕木を並べる、鹿足挺で持ち上げる、ハンマーで

犬釘 を打つ、軌間定規を當てる、眼にもとまらぬ早業だ、忽ち修理を了し裝甲車はぐん〳〵進行する、更に五百米の地點から三ケ所或はレールを取外され、枕木を燒かれ犬釘を拔かれ、滅茶々々に破壞されてゐる、先驅裝甲列車は枕木のない地面にいきなりレールを並べ

狹擊して止めてよろけ乍ら危險を冒して敵匪の第一線目がけて遮二無二前進する、あとは修理列車の仕事だ、敵匪の第一線南嶺の南方七百米、流石に隊長以下緊張の色を見せる、だが南嶺方面は水を打つたやうに靜まりかへつてゐる、人の善さそうなお百姓達が悠々と野良に働いてゐる、牛や豚がのろ〳〵と餌をあさつてゐる、暢やかな場面だ、水間中尉は部下を率ゐて下車

敵情 視察に向ふ、南嶺驛には敵匪は一兵も居ない、鄭副驛長の話で敵兵匪數百は二十一日午前五時早くも扣北營子方面に退却したと判明した、だが南嶺驛に至る六百米の間鐵道軌條も枕木も無い電線も電柱も南嶺南方一里の間一本もない無殘さだ、已むなく兒玉大尉以下全員徒步で南嶺驛に向ひ戰はずして午前八時半南嶺驛を占據、續いて九時十五分北票攻擊左翼部隊島村枝隊の鈴木部隊が南嶺驛に入る、南嶺の村長許德香氏がわざ〳〵自身で驛に我軍を迎へ 自分等は日本軍を心から歡迎する、昨年十月以來北票支線の杜絕で我々は苦しみ拔いてゐる、何卒我等

住民 のため貴軍の手に依つて同鐵道の治安を維持されたし、然らば我等の感激はこれに過ぐるものなしと嘆願する處あつた、許村長の語るところに依ると六百米の枕木と一里の電信柱は昨年來兵匪がこの村から徵發したといふのだ、これには呆れもし彼の日本軍歡迎がお世辭でない所以が肯かれた、面白いのは驛員達で驛長以下兵匪の下にありながらこつそり錦州に出張しては滿洲國奉山鐵路局の給料を受取つて居たと云ふのである、心配された南嶺北方のトンネルは無事と判つた、修理班の必死的努力で破壞された六百米の修理も間もなく成つた、午前十一時十分裝甲單車は南嶺驛に入り同三十五分同驛發敵陣扣北營子に向ふ

大膽、鐵橋を突破し
脫線機を仕掛け前進

扣北營子の手前は破壞を傳へられた大淩河の鐵橋だ、扣北營子驛側より五本目の橋脚が爆彈で五ケ所穴を開けられてゐる「これ位ならば」と大膽不敵に押し切つて徐行遂に同鐵橋を渡り午後零時半、扣北營子に入る、同驛は既に島村枝隊の手で占領されてゐた、息をもつかず直に

勇躍 一路北票に向ふ 扣北營子北方三十七哩の地點に至るや前方丘陵上より突如現れた數百の兵匪の猛射を受け我軍は直に機關銃を以て應戰しつゝ午後二時給水のため一先づ扣北營子驛に後退同二時半再び同驛を發したが早川部隊の前進と共に敵は漸次後退の模樣に一氣に駱駝營子驛を突破、猛然北票に向つて突入、午後三時半北票驛を認め將士意氣彌や昂り勇躍前進する北票驛前一千メートルの地點に達するや驛兩側堆土の陰から灰色の服を着た約千五百の兵匪矢庭に亂射を浴せ來る、我裝甲車は直に機關銃を以て應戰、彼我の間に物凄い火戰の幕は切つて落された

激戰 の中にも敵が急坂を利用し機關車を逆落しに突放す樣子あるを目ざとく認めた裝甲車は脫線機を仕掛け乍ら驀進又驀進中午後四時十八分突如砲塔の機關銃を射ち續けてゐた小淵軍曹が「やられました」と叫びながらばつたり斃れたと見ると座席は眞紅の鮮血の海だ、敵彈が裝甲車の鐵板を射ち拔いて軍曹の胸部を貫いたのだ、瀕死の重傷だ、今はこれまでと水間中尉は悲痛の面持ちで後進を命じ北票驛を眼前に見つゝ恨みを吞んで全速力で扣北營子に引返す、小淵軍曹は折柄大淩河鐵橋應急修理の枕木サンドルを組む修理班の松明が氷結した淩河の河面を眞赤に照し出した中を

擔架 に乘せられて後方修理列車に送られた、かくて恨みを吞んで同夜は同じくこの日扣北營子の戰鬪で戰死一、負傷五を出した島村枝隊と共に扣北營子に宿營した

北票驛頭に萬歲を絕叫
商務總會代表が歡迎

明くれば二十二日小淵軍曹を失つた裝甲單車は今日こそは全員斃れるとも北票に入らずんば止まずと復讐の意氣物凄く午前七時五分扣北營子發全速力を以つて一擧北票驛に

突入 した驛前方に至るや突如滿洲國旗を揭げた一隊が現れた、何事でと急停車して質せば奉山鐵路局員が我軍歡迎のため出迎へたのだと言ふ、千五百の敵は昨日我軍の不敵な北票驛突入に怖れをなし二十二日午前二時悉く北方に潰走したと云ふのである、そこで全速力を擧げて北票驛に進入、午前八時水間中尉を先頭に兒玉大尉以下北票驛に降り立つ、北票一番乘りだ、續いて五分遲れて富田〇隊長搭乘の裝甲列車も堂々ホームに入り驛頭高くスル〳〵と大日章旗が揭げられ萬歲の聲は天地を搖がす、富田〇隊長は出迎への奉山鐵路局北票警務長曾慶連氏の先導で先づ警務局に赴いた、警務局の

正門 には早くも日章旗と五色旗が揭げられてゐる、此處で富田隊長は約二十名の商務總會代表の歡迎の挨拶を受けこれに對し隊長は日本軍は平和の攪亂者に對しては秋毫も假借せぬが何等他に意なきを以つて安んじてその業に努められたいと旨を述べ、續いて曾氏案內で北票炭坑事務所を視察同所の藏前出身の周君は流暢な日本語で兵匪の蹂躙により同炭坑が休業の已むなきに至つた經過を詳述、日本軍の入城によつて我等は初めて蘇生の思ひをなしたと滿腔の感謝の意を表した、斯くて驛に引き返す、驛頭には初めての日本軍を見んものと北票

市民 が密集して居る それ等の瞳は何れも人なつこい親みの瞳ではある赤煉瓦の美しい北票の街を眼下に瞰下しながら北票一番乘りの殊勳者水間中尉は裝甲單車に同乘共に彈雨を潜り死線を越えて北票の新聞記者としての最初の第一步を印した余の肩をたゝいて左の一句を示した

闇の鐵路を裝甲列車は走る
捧げし命皆乘せて

熱河討伐の我決死隊

【上圖】朝陽寺に於ける我決死隊【下圖】北票一番乘りを敢行した裝甲單車【山口特派員撮影】

扣北營子の戰死傷者

【錦州二十四日發】二十一日扣北營子附近における戰鬪における早川部隊の戰死傷者左の如し

戰死、二等兵 飛澤義男
右上膊砲彈破片傷
負傷、一等兵 川崎留三
右上膊及左中指砲彈破片傷
上等兵 都島長作
肺部左肩砲彈破片傷
二等兵 大弓眞吉
肺部砲彈破片傷
特務曹長 高橋鶴二
左膝下砲彈破片傷

凍る月光を浴びて 勇躍する早川部隊
軍旗の前方をすゝむ 我從軍記者團の一行

【南嶺にて五百旗頭特派員二十一日發】奉山線北票支線の運行保全と修理援護のため同線一帶に蟠居する匪賊を一掃すべくわが早川部隊の主力は二月〇〇日午後九時錦州發の

軍用 列車で一路朝陽寺に急行した、翌日午前一時朝陽寺驛着直に軍馬その他の積卸しを完了し出發までの小閑を得た勇士達はそれ〴〵驛前の廣場に六、七箇所の圓陣を作つて篝火をたいた、沁み入るやうな冬の中天に篝火が赤々と燃えたつ有樣は全くの陣中風景だ、嵐の前の靜けさ、篝火を圍む東北鎭の勇士の會話は極めて朗かだ、その間早川部隊長は驛司令部室に部隊を集め直に幹部の軍事作戰會議を開いたが、これよりさき早川部隊の島村支隊は既に〇〇日午後十時に朝陽寺を發し翌日の未明には

南嶺 に在つた約二百の匪賊を擊退し、更に前進をつゞけた、幹部會議も終り作戰全く成つた早川部隊はこゝに非常な確信を持ち〇〇隊を先頭に一路奉山線の炭都北票支線の終點北票までを強行軍と決定〇軍旗を擁へした本隊が驛を離れた時は上弦の月が山の端に殘つた午前五時二十分、こゝに熱河掃匪の最初の大部隊の行進が開始されたのであつた、從軍記者の一團は軍旗の前方に一團となつて進んだが凍てつく殘雪の熱河への道は二月末とは言ひながら零下まさに二十五度僅かに現した口の吐息が白く外套の襟に霜となつて凍てつく寒に包まれた

顏と 顏の進軍だ朝陽寺から北票への道それは四方を山に圍まれた盆地を進む緩かな上り道であるが、午前八時までには第一目的地に着くべく本隊の行進は急である國旗を先頭とした修理列車の黑煙を右に見る北票支線のガードを拔け河に沿つて進むこと半里上りの道は漸く急となる陽は既に東天に登り一行の元氣はます〳〵旺盛、たゞ從軍記者團の足並には既に相當の苦痛を見ることが出來た沿道の閑散は全く成り道端にポツリ〳〵と並ぶ土塀の百姓家はさして貧しさを思はせず皇軍の行進を見送る、午前七時四十分遂に本隊は南嶺驛を前方にする高地に到着この時一臺の飛行機は通信筒を投じて南方に去つた、前方の匪賊狀況の報告である

高地 に達して少憩すれば山の彼方から飛行機の爆擊と大砲の音が連續的に聞えてくる、卽ち飛行隊の扣北營子の攻擊であつたのだ、氣遣はれた蜂牛營子の附近大淩河谷にも敵兵なく、扣北營子の陣地にも敵兵は既に影を潜めてゐたが、敵兵近しと知つた早川部隊はその丘に少憩後元氣更に百倍非常な緊張の裡に出發し遂に北票へ急進したのであつた

關東廳警察機 けふ命名式
周水子飛行場で擧行

今回新設せられた關東廳航空警察班の拔隊および日滿人の獻金によつて出來上つた警察機タイガー・モス及びフォックス・モス兩機は名も相應しい隼、白鷺と決定、二十五日午前十時半から周水子飛行場に於て林關東廳警務局長、加藤航空官、各警察關係及び旅大官民多數參列の上盛大なる命名披露式を擧行、引續き兩機の試驗飛行に移り隼機まづ場の北端より滑走し見事離陸するや期せずして拍手歡聲起り春光に銀翼を輝かせつゝ約十分間に亘つて場の上空を旋回飛翔しかくて無事飛行を終り正午より關係者一同を市內扇芳亭に招致披露宴を張つた（寫眞は林警務局長の命名式）

國難日本刀 (254)

高桑義生作
京極佳夕畫

曙の勇士（九）

弓之助はまつたく元氣を回復した。彼は一團の人々の中から、中濱萬次郎の顏を見出した。そして
「わたくしだけの力ではないのです。みなさんが陰になりひなたになつて、力を盡して下すつた。殊に中濱氏、あなたの助力があつたればこそ、わたくしの及ばぬ處を補ひ、今日速かに解決されたことを、感謝します」
萬次郎は微笑した。
「どういたしまして。わたくしは何も……」
「さうして、楊さん、あなたの骨折は、大變でしたね」
「わたし何もしなかつた……」
「お千さん、有難うございます」
「いゝえ……」
弓之助の禮に對して、誰も、はづかしさうに、自分の功を否定した。美しい情景だつた。

隨一の親米家として知られ、今度の借入金の提唱者であり、裏面で最も盡力した中濱萬次郎、そのために賣國奴とのゝしられ、幾度身邊の危難におびやかされたか知れない彼だ。が、萬次郎は日本人だつた。日本國民としての自覺をもつてゐた。永年アメリカに生活し、最も意味ふかい青春時代をそこに送つたが、むしろそのために眞に民族的自覺に到達してゐたものであらう。サンダースン一味の陰謀を看破した弓之助が第一に、この萬次郎に協力を求めたのは、最も策を得たものだつた。弓之助の意氣と信念は萬次郎をうなづかしめた。そして弓之助が探つた秘密は、直に萬次郎につたへられ、勝安房守の耳に入つた。だが、幕府の威權回復黨の主謀であり、征長の軍資金を米國から借入れようとした小野上栗介は、容易に勝の意見を肯かなかつた。柳營の諸公、すなはち幕府の幹部級も、米國の好餌に眩惑されて、機運は動かなかつたのだ。如何に意氣の燃ゆるものがあつても、安房守の力だけでは、幕府の態度を動かすことが出來なかつた。

それで、たしかな證據を、果してサンダースン一派が陰謀を企てゝゐるといふ確證を得るために、弓之助は危險いよ／＼迫るを知つてサンダースンにぶつかつたのだ。さうして彼は陷穽に落ちたが幸ひにその間に、萬次郎は上野介を説服して、幕府の態度を決せしめた。幕府は萬難を排して、最後の覺悟をきめて、米國公使に抗議を發した。

の態度。幕府は強かつた。さうして勝つた。米國公使は、サンダースン一派を本國に關係のない大山師として追放することになつた。が、果してサンダースンは大山師であつたか？母國アメリカとは無關係であつたか？否、彼の畫策によつて、アメリカ軍艦が父島に來航した事でもわかる。嘉永の昔、ペルリが父島に貯炭所を設けた頃から、アメリカの東洋における野心が培はれてゐたのだ。サンダースンがアメリカの陰謀の手先でなかつたとは、誰が言ひ得よう。

驚手をさし延べたものはアメリカには限らなかつたであらう。混沌たる日本、當時の擾亂に乘じて英米佛露……いはゆる列強はひとしく野心を包藏してゐたに違ひない。だが、日本は、日本民族は、この國難に當面して、つひに更生したのだ。それは後の話になるが——。

さて、弓之助は小笠原島を確實に日本の領土とすることを力説した。彼は島の歴史を語り、當然日本國の一部であること、眇たる一島嶼であるが、このまゝに放任して置く時は、かならずアメリカ、イギリスなどの乘ずるところとなり、後日の禍根となるであらう——。
「斷乎としてやるのです。正義と意氣の前に、刄向ふ敵はないのです」
穴藏の中での數日の疲勞、苦痛を、忘れたやうな弓之助である。
紅一點のお千は、われを忘れて明眸を、彼の横顏に吸ひ寄せられてゐた。

キネマと演藝

今夜の阿部幸次氏の獨唱會

若きテナー阿部幸次氏獨唱會は二十五日夜協和會館で開催されるがプログラムは左の如くである

▲第一部 （一）マリア・マリー、ナポリ民謠、月夜のセレナータ同 （二）子守歌（中國地方民謠）山田耕作曲、六騎同 （三）日本國民歌山田耕作曲、歡喜の歌古賀政雄曲、靈峰富士山田耕作曲 （四）ヴァイオリン獨奏梅本精三 （五）歌劇ボヘーム中より（おゝ冷き手よ）プチニー曲

▲第二部 （一）よしきり山田耕作曲、ペチカ、曼珠沙華同 （二）娘々祭園山民平曲、五月祭園山民平曲、今永茂詩、老虎灘小唄阿部幸次曲、西創生詩、滿洲野に唄ふ同、新滿蒙園山民平曲、石森延男詩、熊岳城小唄齋藤佐和曲、今永茂詩、春宵園山民平曲今永茂詩 （三）歌劇リゴレット中（あれもこれも）ヴエルディー曲、歌劇道化師中より（笑へ道化師）レオンカバロー曲 （四）ピアノ獨奏哀詩山田耕作曲齋藤佐和 （五）蚤の唄ムスルグスキー曲

ひろじ會例會

ひろじ會では來る二十七日午後六時から連鎖街事務所にて淨瑠璃會を催すが番組左の如くである

御祝儀（入登）、壷坂（勇）、宿屋（都月）、太十（總松）、御所（綱玉）、當四（長門）、酒屋（元山）、沼津（三石）、阿漕（五月）、合邦（壽鶴）、五斗（松花）、三味線廣治

本社特選 新棋戰（其六）

角落 八段△土居市太郎
四段▲志澤春吉

【圖は八六歩角迄の局面】
土居氏持駒歩歩歩
志澤氏持駒歩

▲七三桂 △五五歩
▲同 歩 △同 金
▲五二飛 △五六歩
▲六三歩 △四五歩
▲五四歩 △四四金

【土居八段講評】志澤君は敵の五五歩に對し同歩以下六三歩と打つて金の行動を束縛し、敵をして急戰の已むなきに誘つたのは老練な指し振りである、上手五六歩打は策を誤つてゐる、一旦五三歩と打ち捨て敵飛車を釣り上げ、而して後に五六歩と打つ方が攻防ともに指し易い、次に四四金の處は四四歩、五五歩、四三歩成、同金、五五歩と指す方が優る。

【萩原六段解説】志澤氏の七三桂は敵の八五歩突に備へたのと六筋の攻撃の準備である、土居八段の五五歩は金を左翼に用ひ、模樣によつて六四金出や又五六金の形にする意味に五五歩と突いたのである、茲で四五歩と攻めると敵に六二飛と廻られて六筋より攻められて惡いのである、然しこの四五歩の攻めに對し敵が同歩なら同桂、四四銀、二四歩、同歩、二五歩と攻めて次に二四歩と打つと上手も面白いのである、故に下手は八四角の形にした場合は上手の四五歩の攻めに對しては同歩と取らん方がよいのである、志澤氏の五二飛は敵の六四金を防ぐ先手で又六三歩は敵の六四金出を防ぎ好手である。

滿洲日報

列國、熱河討伐に關し警告するも一蹴
我外、陸當局の態度決定

【東京二十五日發】熱河討伐に關し聯盟及び英米の列國より我政府に對し不當なる警告その他注意喚起の來るべきことを豫想し、外務、陸軍兩當局は過般來協議の結果、斯かる警告に對しては左の論據を強調して之を一蹴し、國際輿論の教導に努むることに決定した

一、熱河省は古來地理的に滿洲の一部であり、昨年滿洲國建國の際同省民代表が之に參加せる事實によるも**滿洲國領土なること一點の疑ひなし**、然るに熱河省内には支那正規軍侵入し、土着匪賊を使嗾し治安擾亂を圖りつゝあり、滿洲國政府は過般來支那政府に對し正規軍撤退を要求しつゝあつたが、支那政府これに肯んぜず今日に及べり

一、こゝにおいて**滿洲國は國内治安維持のため反滿軍及び匪賊討伐のことを決せり依つて帝國政府は日滿議定書による義務に基きこれを援助**するに至れり

一、熱河討伐は全く滿洲國内の國内警察行爲にして何等國際條約に抵觸せず

一、支那正規軍が滿洲國領土侵害を止め支那軍隊を撤退せしめば、不幸なる事態の擴大を見ずして已むべきも、**然らざれば事態の不幸なる擴大を見ることとあるべく**、之に對する責任は支那政府にあるものなり

一、日滿兩軍は平津地方の治安を紊す意圖毫末もなし、然れども**平津地方支那軍隊が萬一在留邦人の生命財産に危害を與ふるが如き行動に出づるに於ては帝國政府は在支駐屯軍をして現地保護の措置を講ぜしめ**ざるを得ず、斯くの如きは熱河討伐とは別個に發生すべき問題であつて、帝國政府は斯かる不幸なる事態發生を防止するため極力支那政府及び軍民において誠意ある措置を講ぜられんことを期待してやまず

熱河肅清成算あり
皇軍、義軍たるの實を擧げん わが○○團長の聲明

【錦州二十五日發】○○團長は本二十五日出動を前に左の聲明を發した

滿洲國完成のため最後の聖戰たる熱河肅清に際し、我○團がその主力方面を擔當するは、部下將兵と共に余の最も光榮とするところなり、熱河の政權及び之を支持する舊勢力の惡虐さは倶に天を戴く能はざるは既に論ずるの要なし熱河省五百萬の民衆は日滿軍の速かに到りて救助せんことを待ちつゝあり、余は忠誠勇武、而も犧牲的精神に燃ゆる麾下部隊を率ゐて、今や將に熱河省内に第一步を印せんとす、余は我皇室の無窮なるに感激し、銃後國民の支持後援に感謝すると共に、胸中既に堅き成算あり、必ずや皇軍の義軍たるの實を擧げ、所期の目的を達し以て皇恩の萬分の一に報い奉ると共に、日滿兩國民の期待に副はんことを期す

銀野進軍 朝陽目差す早川部隊

大吹雪の大平原を日滿兩軍前進
全軍の士氣益々軒昂

【通遼二十五日發】熱河討伐の重任を帯びたわが急襲部隊主力は茂木部隊及び張海鵬上將の率ゐる○○○○名と相前後して二十三日拂曉通遼を出發し各軍勇躍征途に就いた、前夜來の降雪は今朝に至り全く物凄い蒙古嵐となり滿目渺茫たる白皚の原野を全軍勇躍士氣大いに振ひつゝ○方を目差して進軍中である

開魯縣長等 種々陳情 張海鵬上將に

【通遼二十五日發】二十三日開魯より縣長董雲靑、警務局長吳韓枕及び姜商務會長等は住民を代表して通遼に來り、張海鵬上將を訪問し、日滿兩軍の歡迎の意を表明、種々陳情したが前敵總司令と共に隨行する筈、二十四日午後記者は總司令部において董開魯縣長と會見した、縣長は語る

開魯市中は兵匪の掠奪で物資皆無で住民は皆餓と寒さに泣いてゐる、日滿兩軍來るの報に住民を代表し、吳警務局長、姜商務會長と通遼に來た、市民は心から日滿兩軍を歡迎し永久に駐屯してもらひたい

開魯に入城

【通遼二十五日發】高田部隊は二十三日餘糧堡に一泊、二十四日華興公司に宿營し、二十五日正午堂々と開魯に入城した、本日寒氣殊に凜烈を極めてゐる

兩枝隊開魯に入城

【通遼二十五日發】第一枝隊王永清氏及び暫編第三枝隊何れも相前後して堂々開魯に入城、敵匪最高部は部下と共に天山方面へ遁走した、市内平穩住民歡喜して迎ふ

崔興武歸順の使者派遣

【開魯二十四日發】開魯にあつた崔興武は二十四日使者を立て、滿洲國に歸順を申込んで來た

崔興武部下 西南方に潰走

【通遼二十四日發】滿洲國軍先遣部隊王永清軍に續く主力部隊の大進擊に、○○に在つた熱河正規軍騎兵第九旅長崔興武は部下と共に城外に遁走し、これがためその部下は蜘蛛の子のやうに西南方に潰走した

【通遼二十四日發】開魯附近一帶に在つて通遼及び打通線を脅かしてゐた崔興武軍は張海鵬軍の猛擊に遭ひ二十三日來西方に退却し滿洲國軍は目下追擊中である

内田外相參内

【東京二十五日發】内田外相は二十五日午後二時三十五分參内し聯盟脫退事情並に熱河討伐開始の諸情勢を委曲上奏御下問に奉答午後三時四十五分退出した

我空軍最初の爆擊
陸上部隊と相呼應して

【錦州二十五日發】滿を持して動かなかつた我飛行機は愈々大活動を開始し本朝六時半錦州飛行場を出發した、○○機の報告により朝陽にあつた匪軍は西方に向つて續々退却中とのことに飛行隊の森田中尉編隊長となり○○機を以て午前十一時半朝陽に向け出動し匪軍數千に向つて爆擊を開始し陸上部隊の進擊と相俟つて匪軍の擊滅を期してゐる

【錦州二十五日發】錦州飛行隊○○機○○番は廿五日午前十時一齊に根據地を離陸、見事な旋回ぶりを見せ、寒風を衝いて一路西進、朝陽西南方十キロ地點に待機中の千餘名の敵匪に本討伐最初の爆擊を實行し、多大なる損害を與へ潰走せしめた

朝陽附近に 敵匪を認めず

【錦州二十四日發】早川部隊は北票子と朝陽の中間を進擊中であるが朝陽附近には敵匪の集團部隊を認めず早川部隊は無人の境を行くが如くである

わが三部隊 朝陽部隊に參加

【錦州廿五日發】三宅部隊は田中部隊と共に二十四日八家子附近で約三百の敵匪と遭遇し苦もなくこれを擊退、直に朝陽へ向つて進擊を開始した、上田部隊は錦龍臺より三寶營子を經て二十四日石門子に進出朝陽攻擊部隊に參加した

戰意喪失
支離滅裂の匪軍

【東京二十五日發】=二十五日午後陸軍省着電=日滿軍の得た捕虜並に投降し來れる部隊長及び沿道民衆の陳述を綜合すれば熱河方面にある敵軍は既に戰意を喪失し續々退去中であるが何等の統制なく幹部は逸早く遁走し而も**部下に退却目標等を示さないため支離滅裂の混亂狀態で同志打ちを演じ**敗殘兵は沿道において掠奪暴行を働くので民衆も自衛上これ等匪軍を邀擊してゐる模樣である

熱河の北、東部の反滿軍十二、三萬
武器、食糧缺乏に惱む

【奉天電話】熱河の情勢は刻々に切迫し日滿軍に對する主力として相對峙する北及び東部熱河に蠢動する反日滿義勇軍及び正規軍その後の諸狀況を我が通遼飛行○○隊の偵察報告その他諸機關の調査を綜合すれば左の如くである

崔興武 湯玉麟直系の騎兵旅で兵力約八千、開魯附近にあり親日的傾向を帯びてその向背を注目されてゐたが、最近全く戰意なし、開魯より僞勇軍の李芳廷二千を追ひ出し崔は近日中に部下を率ゐ林東より林西方面に逃亡するものと見られてゐる

李芳廷 熱河僞勇軍であるが崔興武より開魯を追はれ、以後は全く食糧に窮し部下の給與は二ケ月も滯り威令全く行はれず、二千の部下は掠奪至らざるなき有樣で開魯より餘糧堡、タラハン王府と食糧を求めさながら飢えたる狼群の移動のやうに一物も餘さず暴れ歩いてゐる、現在通遼北方五里の地點に蠢動してゐる李海靑以下二萬の義勇軍を率ゐ全く食糧に窮し二月十六日林東を食ひ盡してフラ〳〵三盛隊に入り瞬く間にこゝをも荒し盡し飢えた狼は何ものにも怯えないやうに我軍の正面に向つて勇敢に開魯の北方を通つて通遼より西方二十方里沙里の大倉農場附近を占領し掠奪暴行を逞しうして居る

劉桂堂 約一萬五千の義勇軍第四軍を率ゐ依然赤峰北を中心に熱河最北線に頑張り洮南を窺ひわが滿洲○兵と對峙中であつたが、滿洲軍の進擊で歸順の意を表明した

馮占海 張作相の甥で義勇軍中最も精銳なる兵器を持ち兵力約一萬と號して居るが、これも食糧に窮し部下は給與の不拂に不平滿々統制はゼロである、下窪より轉じ附近地を掠奪してゐるが、わが飛行機の爆擊に追はれて北進し綏東を窺つてゐる

劉文 崔の第九旅と共に通遼占據の目的を持つて居たが、崔の轉向明白となつた今日獨力攻擊する實力なく、わが飛行隊の爆擊に遭ひ部下二千を率ゐて天山へ後退を餘儀なくされてゐる

海國臣 劉文と共に開魯方面にあつたが二月十六日附近を食ひ盡し現在老河南地方に蠢動してゐるが、部下五百は食料彈藥に缺乏し戰鬪力なく野狼と同じである

石文華 兵力約五千熱河騎兵第十旅であるが野砲隊、工兵隊あり依然赤峰に鞏固な陣地構築をなし、こゝを最後の足場とすべく、目下正規軍の貫祿を示しながら統制を保つてゐるので、赤峰住民に信望を高め湯玉麟を凌ぐ勢力を有してゐる

その他 興隆附近には姚の騎兵旅七千、人仙道附近には宮長海の步兵約七千あり蠢動してゐる

斯くの如く北及び東部熱河には十二、三萬の反滿軍が蟠居してゐるがいづれも食糧彈藥武器缺乏しこれ等の通過する附近部落は悉く荒し盡され今や極度の窮乏に陷つてゐる

參謀本部緊張
矢矧少佐の好謔

【東京二十五日發】光榮ある孤立の第一日松岡代表が堂々たる反對宣言を投げつけて聯盟議場から引揚げた翌二十五日滿を持してゐた我が陸軍省、參謀本部では愈々此日熱河討伐宣言を中外に發すべく早朝から極度の緊張に包まれ眞崎參謀次長、柳川次官等孰れも興奮の色をうかべ電報班は刻々に打電來る關東軍よりの報に忙殺され廊下を馳せ廻る給仕連の面まで再び當面した非常時の興奮に輝いてゐる、正午新聞班の矢矧少佐が一山程の書類を抱へて新聞記者室に現れると三十餘名の記者がサツと緊張忽ち彈丸のやうに鉛筆が火花を散らす、痛いやうな緊張の幾分が過ぎ發表を終へた矢矧少佐はホツと重荷を卸した面持で好謔一番

昨日の聯盟の表決は實に愉快だつた此前の時は十三對一キリストが最後の晩餐の不吉な數だつたのが今度は更に不吉で四二卽ち「死」に移つたわけさ、自ら墓穴を掘れる聯盟は寧ろ笑止の至りだ

警戒配備 海軍省發表

【東京二十五日發】海軍省公表昭和八年二月二十五日海軍では日滿軍の熱河掃蕩に伴ひ排日暴行の勃發することあるべきを考慮し居留民保護に備ふる爲め北支方面に對し嚴重なる警戒配備をなすると共に中南支に對しても相當の手當をしてゐる

非常時市民大會
けふ午後零時半より 中央公園滿倶球場に於て擧行

遲羅公使に好意を深謝

【東京二十五日發】陸軍當局は二十四日總會で只一人好意を寄せて呉れた遲羅に對し新聞班長本間大佐は二十五日遲羅公使館に公使を訪ひこの好意を深く謝した

シャム代表に 澤田局長感謝

【ジュネーヴ廿五日發】澤田帝國事務局長は二十四日午後三時半シャム代表部を訪ひ同代表が本日總會で報告採擇に際し深き理解を以て表決に棄權されたるを感謝した

南洋統治問題を米國最大の關心
日本の意見と相反す

【ワシントン二十四日發】米官邊では今後の日本對聯盟關係を興味を以て注視してゐるが、特に南洋委任統治問題に最大の關心を抱き日本の代辯者が日本は南洋諸島拋棄の意思なしと聲明してゐる點がアメリカで注意されてをり、委任統治は贈與ではないから、日本のこの態度は微妙な問題を提起するものだと僞してゐる、卽ち米朝野の意見は舊聯合國が敵國から取上げた領土は保護を目的とし單に委員統治の割當てしたものに過ぎず窮極において獨立を許容さるべきだとの觀念の下に開發さるべきものだ、現にイギリスが受任してゐたイラークは獨立してゐるといふにあり、アメリカの輿論の大勢は日本から之を奪はんとするに傾いてゐるので今後之を中心に日米關係の縺れが豫想される

飽まで日本との友好を保て
英前藏相チ氏喝破

【ロンドン廿四日發】英前藏相チヤーチル氏は二十四日夜當地で再び日支問題の演說を爲し、イギリスは斷然極東の爭ひから手を引き飽迄日本との友好關係を保てと喝破し、左の如く述べた

イギリスの最大關心は我々の時代に平和を得るにある、而してイギリスの利害は我々が極東の爭ひから遠ざかり、且つ尊い昔からの日本との友誼を氣まぐれに拋棄せざらんことを要求する北支に法と秩序が再建されることは全世界の願ふところだ極東の事態を統制する能力を全く缺く聯盟を極東に引ずり込むことは全く無用だ

聯盟は日本に對しやゝ遣り過ぎた
總會後の壽府の空氣

【ジユネーヴ二十四日發】總會を終つたジユネーヴは全く颱風一過の觀があるが、各方面の情報を綜合するに、聯盟筋では日本に對しやゝやり過ぎた氣味を感じたらしく、殊にシヤムの棄權は可なり興味を惹いた模樣である、報告案可決について中立的立場にある聯盟最高筋では

日本が全部正しいとはいへぬがあんな理論のみによつて壓迫すれば日本が拒絕するのも無理はない

といつてゐるが、これは强ち日本贔屓のみの意見でないことは顧維鈞代表が松岡代表の演說に盛んに罵詈を浴びせた際、各國代表部や傍聽席に口笛や足摺りが起り、議長が顧代表をたしなめるや、議長を應援して「ブラボー」等と彌次が飛んだほどで、若しこの調子を續ければ熱河問題についても支那の挑戰により關内波及でも起らぬ限り案外支那の宣傳は利かぬかも知れぬといふ樂觀論さへ起つてゐる

これに對しシヤム代表は左の如く答へた

右は本國政府がなるべく和協解決に努力し、若し一方に偏する時はこれに片寄らぬやうとの訓令により棄權した、この旨本國政府へ傳達する

と答へた

米軍縮代表 松平大使と密談

【ジユネーヴ二十四日發】總會散會後アメリカ軍縮代表ギブソン、ウキルソン兩氏は松平駐英大使を訪ひ、滿洲問題を中心として約三十分密談をなしたが、聯盟今後の出方に對するアメリカの意向を告げ、且わが具體的方針等を質したものと解されてゐる

建川軍縮全權
三月末歸朝に決定

【ジユネーヴ二十四日發】軍縮陸軍全權建川中將は報告書案採擇さるゝや、直に内田外相に宛て電報で辭表を提出した來週始めジユネーヴ發三月末歸朝する事となつた

兩大使引揚

【ジユネーヴ二十五日發】長岡大使は明日午後九時四十五分ジユネーヴ發パリへ、佐藤大使は政府の訓令で二十八日任地ブラッセルへ引揚げることになつた、しかし右は總會代表としての引揚げで軍縮とは關係ない

脫盟手續
臨時閣議で報告

【東京二十五日發】政府は二十五日午後四時半首相官邸に臨時閣議を開き齋藤首相以下全閣僚出席内田外相より松岡代表の反對聲明内容等を詳細に報告し、聯盟脫退手續については書類その他の整理上一週間乃至十日を要する旨を述べ整理完了を待ちこれが手續を執る事とし次いで製鐵合同法案を決定五時半散會した

脫退後措置
澤田局長に内訓

【東京廿五日發】松岡代表の聯盟引揚に伴ふ軍縮會議脫退問題、帝國事務局の存廢問題等に關し外務省は廿五日陸海軍當局と協議の結果帝國政府の脫退正式通告後の措置に關し大體左の方針を決定し廿五日午後其の旨在壽府澤田帝國事務局長に内訓を發した

一、脫退通告と共に在壽府帝國事務局を極度に縮小し二年後之を廢止す

一、正式通告後は理事會及總會に對しては缺席す、通告以前に於ては代表代理を必要に應じ出席せしむ

一、軍縮一般會議に對しては正式通告後と雖も軍縮事業に對する協力の誠意あるを示すため代表代理を參加せしめ專門委員會に對しては從前通り協力す、通告後二ケ年を經過した後は非聯盟國として招請された場合オブザーヴァを特派す

一、國際勞働會議世界經濟會議等の文化的事業に對しては協力の誠意あるを示すため通告後二ケ年間は正式代表を參加せしむべきも二年後は非聯盟國としてオブザーヴァを特派す

樞府本會議
選擧法案を可決

【東京二十五日發】樞府の選擧法改正案に關する臨時本會議は二十五日午前十時より開會、天皇陛下御親臨遊ばされるや倉富議長開議を宣し

一、衆議院議員選擧法中改正法律案

に關する件を上程、滿場一致を以て可決し、天皇陛下には入御遊ばされ午前十時五十分散會した

日滿婦人協會

【東京特電廿五日發】武藤全權夫人能婦子女史、鳩山文相夫人薰子女史其他が中心となり日滿婦人團體の合作を圖り「日滿婦人協會」を組織することゝなり二十五日午後一時神田一ツ橋教育會館において盛大なる發會式を擧行した

幹事長は辭退したい
伊藤審査役談

後任難の滿鐵社員會幹事長は豫定のごとく伊藤審査役が絕對多數で當選したが、同氏は下馬評に上つた時より絕對に引受けぬことを明言して居り果して引受くるや否や注視されてゐるが、當選の報を齎して病氣引籠中の氏を自宅に訪へば左のごとく語つた

他の仕事ならいざ知らず、この時局重大の際とても自信がないからお斷りしたいと思つてゐるここにまだ當選したといふことを聞くのも初めてだし、前幹事長からも正式に話がないから正式の話は一寸申上げかねる

「それでは郡幹事長より正式に依賴されゝば考慮の餘地があるか」と訊すと

どう考へても僕はその任でないと思ふから今の氣持ではお斷りするより他ない

あすの議會

【東京二十五日發】

貴族院 午前十時本會議を開き昭和七年度一般並に特別追加豫算案を上程その他傷痍軍人優遇案請願二十七件を上程、續いて國務大臣演說に對する質疑に入り岩城隆德子、永野護二郎氏、田中館愛橘氏の質問あり、一方午前十時より各分科會を開く

衆議院 本會議休み、午前十時より少年救護法案外二案、午後一時より都市計畫改正法案外七法案の各委員會を開く

社説

勸告書の決議と國民の覺悟

紀元二千五百九十三年二月二十四日、國際聯盟總會は日支問題に關する勸告附報告書を決議した。日本は反對の一票を投じ四十二對一で敗れたのである。

實に日本にとりて一大歷史的事實である。思ふに日本は明治維新の始めより、自ら立つと同時に、東洋の解放、自立、和平、幸福を謀るを國是と爲した。東洋の幸福即ち日本の幸福がその標語である。此點は西洋流の國家主義とは天淵の差で、即ち東洋流の治國平天下主義であるのだ。明治の二大役も、世界戰爭に參加したのも、國際聯盟に加入したのも、すべて此の標語を活かす爲だ。而して、吾々東洋人の利害に最も痛切な關係ある日支問題に當りて、不幸隣邦の爲政者に達見なく、國際聯盟が認識を缺きて、日本主張の正義を解しない。却つて多數を以つて我國を壓伏せんとする。日本が敢然として、四十二對一の敗北を期して反對したのは、一に我が國是を遂行し、正義を伸べんと欲するからである。日本は既に國際聯盟が東洋の和平幸福に貢獻するに足らざるを知つた。松岡代表の演說中にも、日支問題に關する日本の協力は、既に限界に達した事を陳べてゐる。蓋し今後は、全然聯盟と絕ち、獨自の力を以て、日支問題の解決に當らんとするの意であらう。

◇

曾つて紀元二千五百五十五年四月二十四日（今度の決議と日を同じくす）日清戰役の後に、三國干涉があつた。之れは東洋和平を名としたが、實は露國の野心遂行の爲めであつた。獨は對東洋の野心と對露政策の爲めに寧ろ露國を使嗾し、佛は自己の歐洲政策の爲に捲き込まれたのだつた。今度の國際聯盟も、東洋和平を名となすも、實は各國の對東洋野心、及び歐洲政策に因するもので、之れを統ぶるに認識不足を以てするものである。前には、相手は三國であつたが、今は四十二國である。前には武力を以て干涉されたが、今も經濟封鎖乃至武力を以て脅されんとする。前には我國力が戰後なる爲めに既に竭き、熱涙を呑んで干涉の前に伏した。今は國力汪溢、敢然威嚇の前に立つ。較し來つて無量の感慨なきを得ない。

◇

三國干涉を受けた當時の日本人は肝膽寸斷の思ひあり、直に臥薪嘗膽が全國老若男女の腦裡に鏤刻された。實際文字通りの當時の日本人の實感であつて、當時十歲以上に達してゐた日本人なら、必ず今日でもまざまざと腦中に思ひ浮べ得る。今は四十二國の干涉を受け居るに拘らず、人心左程に緊張ぜるを見ない。國力強し、正義は吾にありとの自信ありて然るものならば慶すべきだが、若しそれ程の自覺なく、或はインフレーションを期待し、或は政權爭奪に埋頭するによりて、眞正の意味に於ける擧國一致、國是貫徹の熱誠を缺くものであるならば寒心すべきだ。此際吾人の最も恐るゝものは、四十二國の反對でなく

時局大會と日滿の結束

時局の重大味に鑑み、市民の反省と決意とを促すべく、本日を以て日滿兩國人の大會を開催することゝなつた。趣旨に於て何人もが滿腔の贊意を表する所なるのみでなく、この地在住の兩國民が、かくも一致共同の精神を發揮したことは、未だ曾てその類例を見ざる所だ。是は畢竟國際聯盟會議の結果に就いて理利均しく兩國民の生活に大影

經濟封鎖でもない。只、人心の弛緩である。警しむべきは此一點にある。

勢あるが爲であるが、就中日本對聯盟衝突の結論が、滿洲國獨立の名分一點に押詰められたことは、益々兩國人の同舟感を深うした。現地の事情に通じない歐洲諸國人は、日滿のこの主張を非常に危險視し、若くは自己主張の爲に理由附けたように考へて居る。何が故に日本が一國の運命を賭して迄も、それを支持するに至つたかに至つては、深くその淵源する所を理解して居ない。然るに何より明かな證據は、僅々一箇年間に滿洲國の獨立體裁が備はり、着々新方針を樹立しつゝあることである。

この事實を中外に宣傳すること

とは、今や聯盟會議決裂の際に於て殊に必要だが、日滿兩國人は期せずして茲に一致の行動に出た。かうした成行きはそれ自體第三者の誤見を喝破するに十分だが、唯だ吾人が一言注意したいのは、この精神を實にする爲の心得である。聯盟會議の結果が齎らすべき影響に就て、世間は夙に種々の推測を發表して居る。或者は聯盟何かあらんなど無關心に高を括らうとする。勿論さうした勇氣は必要だ。併し今日の國際關係は總ての方面に暗雲低迷して居る。之を理論と臆測とのみでは裁判し難い。況んや滿洲問題は僅かに國際會議の理論を了つた許りだ。之か

らの波動は國際間の事實であつて、それが果して聯盟條約の文字通りに現はれるか何うかは疑問だ。經濟封鎖など出來得ないとは、算盤勘定を目安の專門家の議論であるが、時の勢ひは屢々數理を超越した豫想外の現象を勃發せしめる。歐洲大戰の前例がさうだ。所謂小事大事だ。日滿兩國は今や正にさうした國際心理の中核にある。必要なのは飽まで初一念を達成する爲の實行力だ。内部の結束だ。國際聯盟の認識不足のみ責むべきでなく、彼等が遂に認識せざるを得ない事實を、益々鮮明に、鞏固に建設することが肝要だ。

熱河討伐の目的は我主權の擁護

行動の範圍は我領土内に限る

謝外交總長の宣言

【新京特電】熱河討伐に際して謝外交總長より南京政府及び張學良軍閥に對し發せる宣言は左の如くである

わが滿洲國は建國以來日本軍の協力を得て略國内の匪賊を討平したるも、その殘黨は我の北滿方面に兵を用ひて顧るの違なきに乘じ、擧げて熱河省内に集結してわが執政の下に

王道樂土 の慶福に浴せんことを期待せる人民を搾取虐待し更に北支軍閥は南京政府と聯絡して恣に大軍を同省内に移動してわが主權を侵犯し、わが人民を虐遇しつゝ匪賊と合作しつゝあるの警報頻りに來れるに鑑み、わが政府は曩に數次南京政府及び北支軍閥に對し非道を指摘しその軍隊の退却を要求したるも彼等はこれに對し一言の返答も爲さゞるのみならず、最近益々大軍を增派し

暴虐を累 ね、今や事態一刻も猶豫し難きに至りたり、こゝにおいてかわが政府は斷乎必要の兵力を急派し同省内の兵匪を徹底的に剿滅し侵入軍隊を驅逐するの決心を固め、同時に日滿議定書の精神により日本軍に對し協力を求め、既にその同意を得たり素より我國は右討伐により熱河省民の痛害を除き國内匪賊の平定を完成すると同時に北支那軍閥の侵略行爲を排除して我國主權を擁護せんとするの外他意あるにあらず、從つてわが行動の範圍は嚴にわが國

境域内に 限るべきも、若し北支軍閥にして悪辣なる策謀により我國の自衞行爲を止むを得ざらしむるにおいてはその結果惹起すべき總ての事態は全くわが國土を侵犯せる南京政府及び北支軍閥の責任なることをこゝに宣言す

皇軍の入城せる北票市街

雄、羅線の敷設認可

愈よ來四月工事に着手

【京城特電二十五日發】北鮮の雄基、羅津間鐵道敷設工事實行について滿鐵よりその認可申請を鐵道局に提出中のところ二十四日附をもつて認可になつたが、今回の工事は、雄基および羅津の兩終端停車場だけ除いて雄基起點四百四十米より十三キロに至る十二キロ五百米で、直に請負に附し四月一日から工事に着手する豫定であるが右兩終端を殘した理由は雄基の方は鐵道局線との連絡設備

赤字公債法可決

衆議院本會議（廿五日）

【東京二十五日發】二十五日衆議院本會議は午後一時十七分開會秋田議長　今日を以て會期三分の二を經過したよつて本會議は定例日に拘らず開き得ることとし委員會は院議に諮らずして本會議を開き得ることゝしたい又法律案は正規の日程を置かずして本會議に上程することにしたいと諮り異議なく決定日程に入り一、日本興業銀行法中改正法律案（政府提出）を上程高橋藏相の說明あつて委員附託

丁士源氏歸滿

【新京電話】歐洲各國歷訪中の代表丁士源氏は十九日ナポリ出帆の榛名丸に便乘し歸國の途についた旨二十五日外交部に入電があつた

代表へ謝電

時局後援會より

在滿日本人時局後援會では二十五日小川會長の名を以て松岡代表へ左の如き謝電を發した

聯盟會議における閣下の奮闘は國民の總意を盡し國威を宣揚せり、而も事茲に到る何等遺憾なし、謹んで深甚の謝意を表す

早川部隊の戰傷兵

一、船舶安全法案（同上）
一、船舶職員法中改正法律案（同上）

合計一萬八千六百六十五件である

研究會解散

八方相

投書歡迎　五十行以内　中傷はさらす

電停『忠靈塔前』　内藤生

◇當大連市民一般が忠靈塔に對し餘りにも無關心な事は遺憾な事です。本年一月十五日より二月十五日まで一ケ月間電車の乘客について調べて見ましたが忠靈塔に對して敬意を表したる人は餘り見受けませんでした。

◇たしか一月二十日頃と思ひます内地より來て間も無いやうな一老人が忠靈塔を見て、あれは何ですかと問ひ忠靈塔ですとの答へを得て車内を見廻して居りましたが「この中には日本人は一人も居ないやうですネ」といはれて私も實に赤面致しました、それも市民が忠靈塔に無關心な一つの例證でせう。

◇そこで私が思ふに、あそこの停留場の名稱「中央公園」を「忠靈塔前」と改稱したらどうでせう。

◇電車の停る每に市民一般の眼に自然忠靈塔が認識される事になりはしないか、滿電當局は萬難を廢しても是非實行して戴きたいものです。

報國號の獻金　海防子

◇國防は一にして二ではない、報國號も、愛國號も同じ意義を有するものである、殊に旅大と海軍の關係は今更申上げる迄も無く總て御承知の答。

◇報國號獻納が、愛國號獻納と同程度の成果を擧げる事は決して不可能な事ではない、たゞ獻納中樞人物が獻身的努力と熱意がなければ駄目だ。

◇曩に關東廳職員が愛國號に對し應分の獻納をなし更に八分の自力が警察機を造られたる事實は大きな參考となる事だ。

◇成果は期待し得る、しつかりやらうではないか。

山崎滿鐵理事

醫大評議員會

關東廳辭令

人事

大觀小觀

除名

方面委員成績

受附け好成績

鮮銀と化工株

警務主任會議

商議役員會

後任書記長問題

商議書記長問題

市況（廿五日）

株式

內地株好調 當市も續騰

特產

人氣引立たず 大豆續落

錢鈔

材料薄で 保合閑散

商品

麻袋小戻り 綿絲强保合

奧地市況

市場電報

神戶特產

大阪株式

大阪期米

神戶期米

東京期米

大阪綿糸

家庭

満洲國熱河省 ⑦
林西東南の烏丹城

林西の東南八十キロのところに烏丹城がある、そこには今から凡そ八百年程前滿洲に興つた遼金時代の古城趾といはれ當時を物語る古碑があり、人口凡そ四千、原始的な蒙古市が毎月定期にあつて名高い

これは思ひつき お庭に鳥の巣箱
空箱や竹筒、空鑵を利用して 立派に家庭で出來る

滿洲　では何處の造林地を見ても大なり小なり松毛蟲の害を蒙つてゐないところはない位松毛蟲の發生が夥しく關東廳や滿鐵でもこの松毛蟲の驅除には百方手を盡してゐますが未だに思はしい成績を見ないやうです、滿鐵農務課では數年來これに就て種々研究…を利用するだらうと豫想されてゐるのは四十雀、椋鳥、雀などで五十雀、ツグミ、ヒタキ、啄木鳥類ミミヅク、梟等も相當巣くふだらうとの見込です

巣箱　として最も理想的なのは空洞のある丸太で、丸太を適當に切つてくり抜いたもの、樹皮をくみ合せたもの、空箱、竹筒、空鑵なども鳥の種類を揃へ方…

ヒタキ・ツグミ等の巣箱　ツバメ等ノ巣台　竹利用ノモノ　空カン利用ノモノ　枝利用ノモノ　柳ノ木利用ノモノ　丸太利用ノモノ

半襟
うすく明るく
日本趣味の復活は刺繍のうへに歴然

▼…厚ぼつたい毛皮やウール地一の襟巻がされて、重苦しいコート…

現代女性は如何に生くべき？
滿洲新女性社主催の 女性生活座談會 …（三）

バースコントロール

A、可とする說……優生學的立場からも經濟上から云つても子供は少く産んでよく育つべきだ。又現代では五人も六人もの子供を産んで早く老衰へて行く妻は夫にとつてこれに一通りの教育を受けさせることの出來る家庭はごく少い。多産の結果は經濟的に苦しくなるばかりでなく出産と過勞の爲に妻は早く老い衰へてしまふ。子供にばかり手をとられては決して有難くないだらう。日本の女性は特に御産のために衰へ易いやうだが一つには多産のせゐであらう。妻の健康のために、家庭生活、夫婦生活を樂しくするために或程度のバースコントロールは必要である。特に職業に携はつてゐる妻は社會的にも家庭的にも産兒制限の必要がある。バースコントロールは今日世界の大勢で「産めよ、殖えよ」の基督教國でさへ今日ではほとんどこれを認めてゐる

B、否とする說……民族發展を促す最も有力なものは民族の數的増加である。今や我國は全世界を向ふに廻して戰はねばならぬかも知れない非常時に際會してゐるから産める者はどんどん産んでほしい。貧乏人は兎も角、經濟的に困らぬ者が自己の享樂や容色の爲に出産を避けようとするのは以ての外だ。…

ミツタンノポンコツ　ミソンウスキ　（28）　橋本清史案並繪

「フネガ、ミエル、フネガ、ミエル」トポンコガ、マタ、サケビマス。「ドレドレ」ミツタンハポンコカラメガネヲ、ウケトリマシタ。

ジツトミテヰタミツタンハ、ウナリダシマシタ。〇〇コクノハタガミエルデセウ。ミエマス。

モウ、ポンコハバクダンヲ、カツギダシマシタ。「コイツヲドカントヤツタラユカイダナ」

ミツタンハ、アワテ、ポンコヲトメマシタ。〇〇コクノフネダケレドモショウセンダ。…

家庭顧問

鼻が低いので悩む年頃の女

【問】二十二歳の女、鼻が低いので悩んでゐます、思ひ切つて隆鼻術を受けたいと思ひますがどんな方法がよいでせうか、又大連でうまくなほしてくれる病院がありませうか（花子）

隆鼻術は不自然になり勝ちです

【答】鼻にパラフィンを注射して高くする方法と象牙或は牛骨を入れて高くするのと、自分の骨（主に肋骨）を入れる方法とが行はれてゐます。パラフィンは傷もつかず最も簡單ですが二三年も經つとパラフィンが固まつて團子が出來手術前より遙かに見苦しい鼻になりますからお勸め出來ません大連醫院では象牙を入れてゐます…限り却て不自然な形になり勝ちですから御注意なさい（唐澤準吉）

腦溢血に灸治はよいものか

【問】腦溢血に罹り只今は醫師の指導により電氣マッサージの治療を受けて居りますが、多數の人から灸治を勸められてゐます。効力のあるものでせうか？又電氣マッサージとどちらがよいでせうか？併せて適當な療法御教示願ひます（一愛讀者）

害はないが精神の安靜が最も大切

【答】腦溢血は腦の中樞の病氣ですから電氣マッサージや灸の樣に末梢神經を刺戟しても急に効果はあげられません。殊に灸は個人によつて効果が違ひます…

家庭人として更に修練を 羽衣高女校長談

滿日各地版

日滿教育聯合會は愈けふ發會式
新京高女講堂で擧行

【新京】既報新京日滿教育聯合會について日滿兩國側に於て計畫準備を進めてゐたが日本側にては去る二十二日午後三時半より新京高等女學校講堂に於て臨時總會を開催會長に金特別市長、副會長荒木地方事務所長、名譽顧問に鄭國務總理武藤全權大使を戴き日滿知名士を顧問に推して愈々「日滿國の和衷協力は先づ教育から」をスローガンとして日滿の提携に邁進することになり來る二十六日午前九時より高等女學校講堂に於て盛大なる發會式を擧行する

各團體合同して盛大な催し
大石橋滿洲街の祝賀

【大石橋】大石橋滿洲街を中心として營口縣海城縣蓋平縣各村邑民は來る三月一日建國一周年記念日當日精神的に意義深く

慶祝の 意を表すべく慶々協議中なりしが第二區委員長孫滿廷は村會を招集して計畫案に就き審議を重ねると共に協和會大石橋事務處の指導下に最も理想的方法に依り當日を記念する事となつた之に關し日本側に於ては隣邦友朋國の盛儀に對し絶大なる祝意を表すると共に援助方に關し地方有志の會合を爲した、なほ大石橋小學校に於ては當日歡喜に滿ちたる小國民なる學生達に對し

滿腔の 赤誠を以つて日滿國旗を打ち振りつゝ滿洲國學生の旗行列に參加する事を申込み且つ午前十一時よりは滿洲街の式場に參列する事となつた、當日は定めて盛大に且つ日滿親善の演美が發揮される事であらう因に當日の次第左の如し

計畫案 協和會發表

一、日滿小學生の旗行列 二十箇村七校の小學生五〇〇名は午前八時半迄に營口區立第四小學校集合の上樂隊先頭に宣武街を通過蟠龍山に至る蟠龍山下に於て大石橋小學校、幼稚園、家政女學校の五百名と會し協同隊を編成の上忠靈塔に參拜日滿兩國の萬歲を三唱し歸路警察、地方事務所、憲兵隊、守備隊に行進を進め感謝の萬歲を三唱の上日滿學生共に滿洲街の式場に臨む

二、記念式 午前十一時
イ、國旗揭揚式
日滿學生滿洲國歌合唱
ロ、執政の教令捧讀
ハ、國務總理訓示朗讀
ニ、孫委員長諭告
ホ、來賓祝詞
ヘ、協和會辦事處長祝詞
ト、建國萬歲

三、煙花打揚
四、敬老會 六十歲以上滿洲國人 二〇名
五、孝子節婦表彰
六、芝居演劇
七、慶祝開宴

二十箇村各村長、自衛團代表、官市民代表、學校關係方面約百名、來賓日本側、軍、警、滿鐵各箇所代表、學校側、地方側有力者及聯合婦人幹部を交ぜ約二百名盛大なる慶祝宴を催す筈なりと謂ふ

建國一周年記念 安東の祝賀方法

【安東】滿洲國側の三月一日における建國一周年記念祝賀次第は既報の如くであるが、日本側の慶祝方法に就いては二十四日市民會理事會を開き協議の結果大體次の如く決定した

一、市民會代表は午前九時縣長主催の祝賀式典に參列する

二、市民、各學校生徒より成る祝賀旗行列は午後一時驛前廣場に集合、關屋市民會々長の祝辭の後同二時出發、大和橋通り金湯街を經て縣公署に到り滿洲國萬歲を三唱し、市民會幹部は縣長に祝辭を述べ歸路は右堂前街、興隆街、市場通りを經て廣場に歸着日滿兩國の萬歲を三唱して解散する

三、大和橋通り滿洲街境と驛前廣場にイルミネーションを設ける

四、晝夜二十發の煙花を揚げる

五、市民會代表より執政府に賀電を送る

四平街祝賀會

【四平街】來る三月一日の建國一周年記念日に日滿合同の大祝賀會が開催される事は既報の如くであるが、當日は朝來より瑞祥を象ごる煙火の打揚げを行ふ外市内の四ケ所に電飾を施し明朗な氣分を誘出する由

世界に傳波された露國の食料暴動說
火のない所に煙は立たぬ
都會と農村の發火？

【ハルビン】本年一月初め頃から誰れ云ふとはなしにソウエート聯邦の各地に食料暴動が勃發したと流布され歐露からソウエート國内を通過して來る多くの旅行者までが申し合したやうに「一般に不穩な氣がみなぎつてゐる、どこかに暴動が起つてゐるらしい」と云ふ

手紙 又モスクワ在住者からの手紙にも「各地に食料暴動があるらしいと流言が盛んだが事實らしい」と他所事のやうなことを云つて來る、だがソウエート新聞紙には勿論それらしい記事は見當らない、北滿在住の露人は赤系も白系も半信半疑でゐたが同様なセンセイショナルな流言が世界の各方面に飛んだものと見えて一月中旬巴里の白系露字新聞が盛んに書き立てゝしまつた、その反響は忽ち世界各國に居住する露國人の間に傳波し一月下旬からは各地の暴動状況なるものが傳へられた然しその原因があまりはつきりしないのと

情報 の出所を訊ねて見ると多くは地方人から聞いたと言ふ旅行者の言である、そんな譯で今度の暴動說程不可解な現象も稀らしい然し社會的不安が全世界を蔽つてゐる今日ではその原因如何に依つては單に他國の一社會問題として傍觀は出來ない、ハルビンに領事館や特殊機關を有する各國政府からはその眞相をしきりに問ひ合せて來た、それが又一層北滿の露人間に反響し益々大きくなつたが依然として眞相が解らない、然し乍ら「火のない處に煙は立たぬ」不可思議千萬なことではある、然し世界のあらゆる民族間に

通用 する諺だと言ふから全く火のないことでもあるまい、そこで最近のソウエート國内の状況を判斷して見よう、何が暴動說を生んだかはさうか、本年一月の黨大會に於て第二次五ケ年計畫實行案につき種々紛爭のあつたことは世上周知の通りである、第一次五ケ年計畫は最終年度に於て軍事工業を急いだ爲めにやゝテンポを緩めたがそれでも豫想の九分通り達成したと報告してゐる、その結果ソウエート國民の所得は二十八年度の百三十三億留から三十二年度の三百七十億留即ち三倍となつた之に反し

資本 主義諸國の國民所得はドイツは前年度に比し三十年には七・六パーセント、三十一年度には七・九パーセント、英國は三十年度に二・一パーセント、三十一年に八・一パーセント增加で到底ソウエートの比較にならぬ、と發表してゐる、そして總生產高の前年に比しての增加率は

年	增加率
一九二九年	二五・四％
三〇年	二二・三％
三一年	二一・三％
三二年	三六・〇％

この第一次五ケ年計畫の達成を基礎として第二次五ケ年計畫に進まうと云ふものである、然しこの尨大な數字やパーセンテージで示された華々しい

成功 がどう國民の實生活に效果を齎したらうか、五ケ年計畫の完成した曉には國民の生活はずつと向上すると約束されてゐたのに何等四年前と大差がない、物資は極端に不足し物價は益々高騰し勞働を與へられない、勞働者の數は益々增加し之等に對する配給は減少し生產高における成功は事實であるが消費經濟を顧みないで生產高の增加ばかりを誇つた結果數字に示された增產は基本工業のみで直接消費される製品の製造は依然十年一日の如しである、そこに大きな

矛盾 がある、黨員中にも一先づ一、二年の休憩を置いてから第二次計畫に移れと主張する者も相當多い、またこれと反對に生まじ計畫經濟をやつてゐるから國民の生活は向上しないのだから全產業を動員してもつと徹底的な統制を實行せよと主張する分子もある、本年一月の黨大會はこうした波瀾を殘して幕を閉ぢたが其の結果は中庸をとつて多少テンポを緩めて卽時第二次計畫に着手することゝなつた、然しそれが爲めに全國的に兩端相反する反對分子を增加したことは事實である、曾て四年前トロツキーを

追ひ 出したと同じやうな反幹部派とも云ふべき不平分子が激增し必然的に黨幹部は所謂「黨の掃除」を開始しカメネフ・ルイコフ等は再び反幹部派に投じて排斥された、新聞紙上には又復「陳謝公開狀」がポツポツ出て共產黨の非常時を物語つてゐる、農村の狀況はどうであらうか？政府は例に依つて尨大な數字を揭げて成功を吹聽してゐるが私營分子に依る農作物の出廻りは激減し政府の穀物買付けも甚だ不調子である、資本主義諸國に於けると同樣農村倉庫の都會集中にはソウエート當局も手を燒いてゐる、失業者は益々增加するし工場は收容能力がない、過去四ケ年に於ける都會人口はモスクワ、レニングラードロストフ各四割乃至增加スタリングラードは二倍、マケエフカは百九十パーセント增加その他の都會何れも三割以上七割の增加である之等都會住民は何と言つてもソウエート革命の寵兒であるから何物を措いても政府は養はねばならぬ從つて政府の穀物買付は今冬以來一層拍車をかけた、昨年秋の收穫は豐作であるにも拘らず買付成績は至つて惡い、穀倉と稱せられるウクライナ及び北部高架索が最も不成績である、政府はしきりに

鞭撻 してゐるがさつぱり成績が上らぬ、殆ど徵發に等しい買付けだが農民は穀物を隱匿して政府の手に渡さない、各所に之等官憲と農民との間に小競合が行はれてゐる、農民が穀物を賣り惜む原因は種々あらうが新經濟政策以來中產階級中心の政策に轉向したので却て農民が思惑をするのと所謂クラーク（金貸）の跋扈である政府は又復之等クラーク征伐を開始してゐる模樣だが兎も角も政府と農民との間は依然しつくり行つてゐない、都會と農村との連絡は革命以來のことだが今も危險な狀態である

國策遂行のため國難に殉ず
＝國際聯盟の勸告に就て＝
撫順鄉軍分會聲明

【撫順】國際聯盟の橫暴なる態度に帝國臣民は今や上下を擧げて憤激してゐるが、撫順在鄉軍人分會では今回大椅會長の名を以つて左の如き聲明書を公表した

國際聯盟の勸告に就て

聯盟今回帝國の正義を認めず、東洋平和の基調たる滿洲國の成立に異議を唱へ剩へ我國の自衞行動を否認ぜんとするのみならず、或は日支交涉に介入ぜんとし、或は排日貨運動を認めんとす、此の如き聯盟の態度は斷じて我々の容認し得ざる所なり、聯盟尚悟らず既に規約第十五條第四項を適用ぜるを以て帝國政府は斷然聯盟と絕緣するの決意をなせり、我々は昨年六月奉天に同十月東京に於ける全國大會に於て要路に具陳し、或は中外に宣明せし如く國策遂行のため悅んで國難に殉ずるの確固たる決意を有す、若し夫れ此際膝を屈することあらば信を滿洲國に失ひ、侮を全世界に受くるに至るべきを思ひ我々は事茲に至つて何等躊躇することなく吾等三百萬會員を擧げて國民と共に國策遂行に邁進し以て奉公の赤誠を致すのみである

撫中卒業式

【撫順】撫順中學校第六回卒業式は二十四日午前九時から同校講堂に於て職員生徒並に來賓父兄一同列席の下に盛大に擧行された、式は國歌君が代合唱、勅語捧讀について寺田校長より今期卒業生四十一名に對し卒業證書及賞狀賞品を授與し終つて寺田校長、滿鐵總裁代理宮澤庶務課長、來賓總代槇木實習所長等の訓辭、告辭、祝辭演說あり、かくて在校生總代岡俊郎君の送辭、卒業生總代稻葉萬雄君の答辭保護者總代根來乙五郎氏の謝辭あり、卒業生、在校生、職員一同校歌を合唱して同十一時閉式した、尚當日の授賞者は

△總裁賞稻葉萬雄△校長賞宮之原誠一△優秀賞紀井二男、小林忠男、山口一郎、三木當一、飯田恭弘△體育賞井上正門△五ケ年精勤賞安本貫一

尚今期卒業生中曩に鄭安游擊隊に入隊中の林一郎、三木順一、坂本治聽の三君も參列したが匪賊討伐に當り三君等が鹵獲した槍、野砲、手榴彈、ラッパが當日陳列されてゐたのは人目をひいてゐた

◆卒業式次第 第一鈴職員生徒着席、第二鈴來賓父兄着席、一同敬禮、勅語捧讀、卒業證書授與並表彰、學校長式辭、總裁告辭、來賓祝辭、在校生總代送辭、卒業生總代答辭、卒業生父兄總代挨拶、校歌、一同敬禮

奉天中學校の第十回卒業式
廿五日同校講堂で

【奉天】奉天中學第十回卒業式は二十五日午前九時同校講堂に於て擧行されたが本年度の卒業生は八十四名でその氏名、卒業後の希望式次第は左の通りである

◆卒業生氏名（五十音順）

赤堀正顯、秋永滿、阿部薰、淺田隆志、荒木五郎、池田徹、池田和夫、池田保次、磯村納、井上正雄、伊藤久米義、入江道開、岩元穰保、上田幸男、鵜久森正滿、遠藤政郎、南高庄太郎、小野輝男、大谷恭一、奧村典三、川岸喜夫、加藤博美、鴨田保、金澤萬、木村房好、後藤一秀、小松辰雄、小山繁、小島明、小島三郎、高麗文昌、小森勇、小林忠二、佐藤一雄、佐々木盛夫、篠塚勛治部、柴田英三、島瀧正行、田中太郎、田中英敏、田久保業春、高橋千尋、武田勝治、竹本益重、茶谷潔、塚本秀雄、辻欽雄、富田滋、野口文雄、野澤次男、中明信義、林克己、廣里清輔、日野博三郎、平佐毅次郎、平岡忠明、臟田徹馬、藤田俊雄、藤島善太郎、布施志乃夫、舟田安義、朴英秀、堀成一、前田春男、松井恭孝、牧野直次、滿平素臣、溝口清一、光井進、村上龍夫、村越孝春、森坂信、百崎健太郎、山本節雄、山岸寛、矢部佳雄、山田順騰、山内寛、山上丈夫、湯下佐一、米本英彥、米村實、殿岡小太郎

◆卒業後志望別

醫大豫科十一名、高等學校十名、官立大學豫科十名、旅順工大豫科、高商各六名、南滿工專、藥專各五名、日露協會、通信講習所各四名、高工、外語各三名、鐵道教習所、東亞同文、醫專、齒科醫專、高師、武專各一名、實務十三名

實業學校を志望
鐵嶺小學校の卒業生

【鐵嶺】鐵嶺小學校では來る三月下旬卒業式を擧行するが本年學びの庭を巢立つ兒童は尋常六年男子二十二名、女子三十六名、高等二年男子十二名、女子七名、合計七十七名でその中中等學校入學を希望ざるものは過半數の四十一名あり殊に就職難の喧しい折柄中學或は高女を選ばず實務方面の育成機關、鐵道教習所、通信講習所、工專附屬、滿鐵看護婦等の志望者が十二名もあり商業學校希望が四名あるなど幼き者の頭にも父兄の胸にも就職難の深刻さが痛切に感じられた事を物語つてゐるやうであり、殊に高等二年卒業生の統計によつて其總を深くする尚卒業生の外に高等一年修了生男子十二名女子二十名あり其中から中等學校希望六名あり希望學校は左の如く決定してゐる、第一志望のみ

校名	尋六	高一	高二
奉天中學校	三	一	｜
新京中學校	三	｜	｜
新京商業校	二	一	｜
鞍山中學校	二	｜	｜
奉天高女校	五	｜	｜
新京高女校	七	｜	｜
安東高女校	二	｜	｜
撫順高女校	三	一	｜
大連女商業	一	｜	｜
旅順高女校	三	｜	｜
大連商業校	｜	一	｜
滿鐵育成校	｜	二	二
鐵道教習所	｜	｜	一
通信講習所	｜	｜	四
工專附屬部	｜	｜	一
滿鐵看護婦	｜	｜	二
合計	三一	六	一〇

机上の空論を超越して
新天地開拓に闘ふ人々
通遼農場の二青年

【奉天】廣汗たる滿蒙の天地に島國の自然美に育つて來た日本人が移住することは——そして先住滿洲國人の生活程度の低い、勞働力過多性の土地において果して生育して行けるであらうか佳木斯の自衛移民が本年の議會で問題となつたやうに——大部分の人々は滿洲に日本人の移民は殆ど絕望であるが如く前途を悲觀する者が多いがさうした机上の空論から斷然超越して汗と力、熱の結晶をもつて我等の新天地を開拓するために現に雄々しくも蒙古の一角で奮闘してゐる青年がある

◇

通遼から三十支里內蒙古にはいつた公濟號農場と四十五支里の界拉吐公司農場に卅五支里の地點にある曹把營子の三ケ所の農場は東亞勸業公司の所有で、舊軍閥時代には繁堤をするために張學良から排日を受け農場は農民のために燒拂はれ、多數の使用勞働者は匪賊の名で追拂はれ幾度か奉天總領事館と張學良の間に交渉のあつた土地である、面積は約六千町歩と稱され、境域すら判然せぬ地域で、僅かに右の農場を繼續し、あらゆる排擊を受けながら日章旗のもとに苦闘を續けて來たのは農場主任の高橋利重氏四十歲で、氏はいかに當時の軍閥から迫害を受けても毅然として屈せず、其權利を主張農場を維持し、小作人を指導して來たのであつた

◇

恰度、今から二年前「私も一つ滿洲で農民として活動したいから傭つて下さい、給料などはどうでもよろしい」といふ一青年が勸業公司を訪れて滿洲農民としての覺悟を述べて通遼農場で働くことを志願した者があつた、其れは現在高橋氏の片腕となつて矢張り排日の受難時代に奮闘した神田良治氏二十四歲である、神田氏は獨立守備隊に駐屯してゐたが、深く考へるところがあつて滿洲で農民として眞に汗と力で働く希望の眞面目なる青年で、滿洲において永遠の墓標を探す人であつた、爾來高橋氏と神田氏は血肉を分けた兄弟の眞味も及ばぬ涙ぐましい協力の奮闘を續けた

◇

其れから後、一昨年の除隊時期が近づいた時、矢張り奉天獨立守備隊から福島縣出身の小林平三君、熊倉菊雄君、志津野夫君、渡邊勝好君が守備隊長の紹介で通遼農場に農事見習のために志願して來た希望條件としては「一日三十錢で自ら食事をする」といふ覺悟の言葉であつた、安逸を求めて就職を願ふ現代において——これは何たるけなげな決心であつたらう四君の一ケ年の生活は全く滿洲國人同樣の粗衣、粗食で一貫した、或る時は滿洲國人の農家に起臥して彼等の實際の生活を習うた、そして滿洲語を一生懸命に勉强した一ケ月僅かに金九圓の收入で自炊自活して尙ほ小額の貯金すら實行した、其間排日のために一時通遼農場を引揚げればならぬ時代が來たが頑として撤退しないで、通遼の町に引揚げたゞけで奉天へすら足を向けなかつた、匪害缺乏の精神をもつて終始して來た、そのため滿洲における實際の農事一切をこれによつて體驗することが出來たのである

◇

愈々熱河の匪賊も一掃し滿蒙の天地には輝かしい王道國家の樂土が今や實現せんとしつゝある秋、大同二年、建國一周年の記念を迎へて——其れらの青年は愈々本年度から小作農として土地の分與を勸業公司から受け、蒙古開拓の第一步に自由農として活動の天地を見出すことになつた

◇

一方——金州の天照農園で訓練を受けた三十餘名の人にも亦この通遼農場をめざして最初の鍬をうち込まんとしてゐるのである、其れらの人々には假空的の議論や意見の持合せは微塵もない眞に土に生き、草に祈る人々である、通遼農場にかうした人々が集まり滿洲農民の先驅者として活動することは現代青年によい教訓を與へるであらう——働くものにのみ與へられた生活である(寫眞は通遼農場主任高橋利重太氏と神田良治氏)

木下飛行中尉を救つた二看護兵に表彰狀
飛行隊長、衞戍病院長から

【遼陽】遼陽衞戍病院岩崎、佐野看護兵は三角地帶掃蕩に當り重傷を負ひ衞戍病院に收容された木下中尉が出血多量の爲め重態に陷つた際進んで輸血之が爲め木下中尉の生命を取留めたと云ふ事で今回飛行隊長より感謝狀を交付され遼陽衞戍病院長からもそれ〴〵表彰された

感謝狀

陸軍一等看護兵 岩崎右三郎
同 佐野勇治

今回三角地帶の討伐に當り飛行第十大隊第一中隊の八八式偵察機第一〇三三號(藤田大尉操縱木下中尉偵察)は偶十二月二十三日岫巖上空に於て敵匪軍の猛射を受け偵察者木下中尉は左大腿部骨折貫通の重傷を受けたり然れ共機上に於ては手當を施す術なかりしを以て負傷後一時間卅分間飛行して遼陽に到着せし際は多量の出血の爲め脈斷えたり此の狀態に感激せる岩崎、佐野兩看護兵は自己の危險をも顧みず各二百五十瓦の鮮血を捧げて輸血に供し辛うじて中尉の生命を救へり

兩看護兵の行爲は正に熱烈なる愛國心の發露にして將兵一同を感激せしめ中隊の士氣爲めに大に振ふに至れり

爰に衷情を披瀝して感謝の意を表す

昭和七年十二月二十八日
關東軍飛行第十大隊第一中隊長
陸軍航空兵大尉 藤田雄藏

表彰狀

遼陽衞戍病院
陸軍一等看護兵 岩崎右三郎

右は資性溫厚勤務に精勵格勤して內務の履行確實にして患者に接するや熱愛懇切を以てせり

今回滿洲事變勃發するや關東軍第一臨時野戰病院に配屬せられ各地に作業す殊に江橋、昂々溪附近の戰鬪に際しては零下三十餘度の酷寒にありて徹宵傷病者の救護收容後送の任務に奮勵せり凱旋後當院外科病室に勤務中昭和七年十二月二十三日岫巖上空に於て敵狀偵察中左大腿骨折貫通銃創を受けたる飛行第十大隊第一中隊騎兵中尉木下春二郎を遼陽飛行場より當院に收容せしが出血多量のため顏貌蒼白脈搏殆んど觸知すること能はず諸種の手當も効を奏せず輸血の必要なるを聞くや同看護兵は自ら進んで約二百五十瓦の鮮血を捧げしに爾今經過良好に赴き遂に同中尉の生命を九死の內より救ふことを得たり此の報傳はるや其の熱情に對し同隊將兵を初め一般の者に至る迄深く感激せしめたり

思ふに前記の行爲は實に犧牲的精神の發露にして一般の模範とするに足るものと認む仍而茲に之を表彰す

昭和八年二月十一日
遼陽衞戍病院長
陸軍一等軍醫正 從五位勳四等 貴島禎三

熱河討伐に皇軍出動

新京商業學校の卒業生七十五名
總裁賞は平島正作君

【新京】新京商業學校では二十四日午前十時より第九回卒業式を擧行したが本年度卒業生七十五名で卒業後の希望、自營三名、就職五十九名、滿鐵教習所一人、高等學校二名、高等商業學校七名である、また平島正作君は滿鐵總裁賞受領その他成績左の如し

一、優等生 平島正作、芹澤典雄、小槻濟弘、岡部良忠、新行內義兒、中村光輝、銅野忠男、田古里公朗
一、五箇年皆勤者 伊藤新次郎、中村次男、中村秀雄、北濤軸、李泰君
一、五箇年精勤者 阿部良忠、麻生業雄、土屋裕、土屋豊、小林進、金平吉、島名登、下德直熊、白川正満、芹澤典雄、銅野忠男、土井一義、中村均、中村光輝、西村楯雄、平島正作、山下オ一

奉天高女創立記念祝賀

【奉天】奉天高女では二十六日同校に於て左の如く創立記念祝賀を催すが多數の參觀を希望するとの事

一、午前九時半より音樂會
二、音樂會終了後一時間バザーを開催(生徒の作品)
三、十二時半から園遊會(賣店、すし、しるこ、うどん、果物、コーヒ)

安東の市民大會 二十七日擧行

【安東】光榮の孤立に國民意氣を宣揚すべく安東市民會は全滿に魁けて非常時市民大會を開催せんとかれて計畫中であつたが各地とも風を望んで蹶起し一齊に大會を開催し祖國に呼びかけんとする機運に至つたので市民會理事會は二十四日會合、開催につき具體的に打合せを爲す筈で大體二十七日夜公會堂において開催、決議文を中央要路、全國青年團、在郷軍人會等に飛電することになる模樣である

華工宿舍出火

【撫順】二十四日午前七時半頃市外塔連機械工場華工宿舍第八棟王瀛洋方より出火、時を移さず松本消防監督以下消防隊現場に急行防火に努めた結果十戶續きのうち二戶を燒失したのみで鎭火したが、原因は焚き過ぎのため煙突の繼目より燃え移つたものであると

大同自動車公司自動車から出火
四臺と車庫を全燒す

【撫順】二十四日午前十時半頃當地西門裡大同自動車公司古賀敏方より失火し自動車々庫兼事務室であつた爲め燃燒物多く火焰は忽ち猛烈な勢ひとなつて擴大し殊に火元が車庫入口にあつた自動車であつた爲め內部の自動車三臺も引出す遑なく僅かにガソリン數缶を運び出したのみで自動車四臺家具建物全部烏有に歸して損害莫大の見込みなるも同公司は法庫門鐵嶺間交通連絡の重要機關であり全力を盡して復舊を圖るやうである、因にこれによつて法鐵間の連絡は專ら運轉中の自動車は二臺あり當分これに依るであらう、急報によつて滿洲側並に居留民會義勇消防車隊等馳つけて類燒を防ぎ同家一棟を全燒したのみで正午鎭火した

地方委員會

【撫順】撫順區地方委員會は二十五日午後一時半より中央事務所に於て開かれたが三月開催の全滿聯合會に提出する議題につき附議同三時散會

寒稽古納會

【吉林】酷寒の眞中大寒を期して擧行の領事館劍道寒稽古は無事終末を告げて之れが納會を十九日午後十時より領事館樓上において擧行櫻井巡査の一等を最高に盛大な納會をなして午後二時無事閉會した、處が現在この尙武なるもの吉林には獨り領事館或は憲兵隊のみにして民間に設備なく小學兒童より少年青年を通じて相當希望の士あるも道場なきがために如何共なし難くこれがため今後道場の設置運動を起すべく目下考究中の由である

四平街競馬會の創立總會
二十三日電燈會社で

【四平街】既報四平街競馬會の創立總會は二十三日午後二時より電燈會社樓上において開催された、出席人員は四十三名(二八二口)にしてこの外委任狀四三名(一三五口)あり關原競馬會の江尻理事長を始め奉天の黑田氏、新京、公主嶺の某々氏等の顏も見えてゐたが、勞頭茶谷榮治郎氏推薦されて議長席につき、議案の審議に入つたが、定款、議定、創立費承認の件を異議なく可決し續いて役員の選擧に入れば理事に茶谷、山添、佐藤、菅野田中佐、池田吉、鵜見、木藤品櫻井、竹本の十氏、幹事に竹村伊藤新、高村の三氏が滿場拍手裡に當選、更に茶谷氏に依り左記二項目が提議されたがこれ又異議なく可決し、午後五時和氣靄々裡に散會した

一、競馬會に於ける每年度純益金の半額を教育救濟、警備費等に寄附する目的の下に公共資金として積立てること
二、前項積立金の處分は總會の承認を必要とする

旅順放送

▲米岡旅順市長は二十三日午後六時から市會議員及び伴警長其他を瓢亭に招じ就任宴を開催した

▲滿洲出版會、軍事公論社事業部營業部長高下政雄といふ名刺を持つて到る處無錢飮食を働いてゐる男が二十三日滿電バス待合所から高森、佐藤兩刑事に任意引致された、この男は別名を栗原景岳と呼ぶ請求

▲近頃は盛んに飮食店の開業出願がある、不況を物語るのか、海軍々人當て込みか、又敦賀町には千成、乃木町三丁目には信濃屋といふ二軒が許可願を出した

▲紡城子會由家屯で二十二日の夜貨物自動車が約九尺下の堤下に轉落し劉逢丹(二四)が頭部へ負傷した事故があつた

▲旅順に入つて來る各種の雜誌はあらゆる方面を通じ配分多數によるが調査によると最高は主婦の友の七六〇册、キングの五七〇册で、少年俱樂部はその次に位するさうである

優秀商品紹介號

株式會社 山口商店

G.Y.　大阪 備後町

取扱品目
加工綿布
人絹織物
毛織物
モスリン
冨士絹
綿ネール

仕向地
日本内地一円
朝鮮　滿洲
支那　印度
南洋

海と空と (122)

高杉晋一郎作
橋本清史畫

明暗(十)

父の部屋を出た裏は、廊下の端に内庭に面して突出してゐるバルコンへ出て、暫く心を鎮めた。落着いてゐるやうだつたが矢張、凍るやうな興奮をしてゐるのだつた。バルコンから見ると夜空を一杯に覆うて雪が降つてゐた。街燈の描いてゐる圓い光輪の中へ降りしきる雪片の姿が美しく見えてゐた。夜が歸宅する頃僅かにはらはら散つてゐたのがもうこんなに大降りになつてゐるのだつた。塀の背や内庭の植込にぼんやり積り始めてゐる。

一寸思案した。明日去るつもりでゐたのだが、父さ會つて見るさもう今夜ものめ〳〵さ家には居れないやうな氣がした。風が無いので靜かにでは、雪は、音も無く降つてゐたが、見てゐる中に街路樹の枝や電柱や向ひの病院の屋根に白々さつもつて行つた。

眺めてゐる裏の背後にいつの間にか暢が來て立つてゐた。ふさ身動きして裏は暢を認めた。

「あゝ兄さん、お話があるんでした」

「降るね」

暢は感慨深さうに云つた。

「え、大分大降りです、さにかくお部屋へ行きませう」

裏は暢を促して、兄の部屋へ入つた。兄の部屋の窓を通しても雪の氣配は見えた。

「どうしたんだい。お父さんさ喧嘩して了つたやうぢやないか」

「え、、そんな事はもういゝんです。さにかく僕は家を出ます」

「うむ、今の所お父さんさお前さは一緒には居られないさ思ふがね。然し何處へ行く」

「何處だか」

さう云つて裏は窓から外の闇を見た。さにかく雪の中へ、だつた。

「それより僕はあの瑞枝さんの話をしなければならないのですがね」

暢は默つてゐた。その事で裏を疑つてゐた自分の心も反撥して來た。今は然し一言では説明のし難い氣持にあつた。裏は靜かに口を開いた。

「兄さんは、まだ瑞枝さんと結婚するつもりでゐますか?」

暢は下を向いてゐて顏を上げなかつた。

「どうなんです」

「うん、申込んだ以上は」

「兄さんへ直接には、勿論まだ何の返辭もないんでせうね」

スタンドの淡い褐色の光の中で肯いたか肯かぬ位に暢の顏は縦に搖れた。

「僕は、お約束してから度々瑞枝さんに逢ひましたがね。兄さんの話は一言もありませんでした」

「…………」

「さうして若し僕に云ふ事が許されるならば、あの人は淫婦だ、さ僕は思ひました」

暢の顏には苦痛の表情が靑く走つた。裏も落着いた態度ながらに緊張の色をはつきりさ見せた。

「それで、若し、兄さんがどうしても瑞枝さんさ結婚したいのださすれば、僕は何んさも云へませんが、唯、僕さしては——」

暢は靑白い顏をあげて裏を見凝めた。

「それを喜ぶ氣持にはなれません。不贊成です。それさ一緒にこんなこともお斷りして置きます……」

裏は流石に暢の顏を正面に見てゐることは出來なかつた。然し、もうこれが兄さも最後の會見ださ思へば、何物も殘しては置けなかつた。彼の氣持は眞摯だつた。最後の兄への心情だつた。

「瑞枝さんは絶對に兄さんを愛してはゐないさ云ふ事を斷言して置きます。それから……」

「…………」

「それから、もう一つ、こんな事さへありました。音樂會の夜、會場のベランダで、瑞枝さんは僕に接吻を要求したりしました」

新刊紹介

▲農業の滿洲(二月號)佳木斯自衛移民を中心さする座談會、農諺集(水野薫)世界に於ける苹果の生產さ其の加工(須佐寅次郎)苹果の根に關する二、三の問題(大塚義雄)苹果の品種試驗報告(蛙田正)北中合衆國に於ける大豆の生產さ利用並に生產品(村越信夫)地方並に季節による桑の養蠶の差異(池田正五郎)自給肥料の必要に就て(吉村清尙)肥育肉の出現を望む(吉川政市)果實袋の自家製作に就て(井上修一)滿洲の果樹害虫(近藤繼馬)蔗廊の栽培(定價三十五錢、發行所大連市紀伊町八十五番地滿洲農事協會)

▲健康の光(三月號)特輯さして「性生活の危機」を輯錄して居り療養記事、讀物を滿載してゐる(定價三十五錢、發行所東京市麴町區飯田町六丁目二二番地健康之光社)

▲大連時報(第四二號)定價五十錢、發行所大連市敷島町大連時報社)

▲滿鮮(第六四號)定價五十錢、發行所大連市須磨町六滿鮮社

▲獺祭(二月號)定價四十錢、發行所東京市品川區東大崎四丁目二二二獺祭發行所

▲政界往來(三月號)議會最中に當るので議會を中心さして居り「議會展望」書くは都下一流の政治記者、聯盟の空氣から芳澤前外相の「國際聯盟の實體」があり、目下の政局が何處へ落ち着くか?にまで押迫つて來たので都下三大新聞の政治部長の執筆になる「次の政權は何人に行く……」を掲載し、別に鈴木平沼、宇垣の三後繼内閣の組織者さ閣僚の豫想を書き綴つてゐる、時節柄最も興味あるもの、その他人物評論さ口繪漫畫は「新聞街より」「大不平、小不平」などあり、隨筆は相變らずの大洪水である(定價三十錢、發行所東京市芝區琴平町二虎之門會館政界往來社)

▲月刊撫順(二月號)撫順において發行され地方雜誌さして異色ある編輯を見せてゐた月刊撫順は内容の充實に伴ひ且つ茲一年間の動向に從つて眼界を擴大されるに至つたので、これを契機さして「月刊滿洲」さ改題し、滿洲の一角に根を下した雜誌さして今日これだけの發展を遂げたのは非常に喜ばしいこさである、今後の活動が又期待される(定價二十五錢、發行所撫順東八條四十七番地月刊撫順社)

けふの放送

大連 JQAK

二月二十六日

▲午前十時 新譜レコード(ビクター)
▲午後零時十分 ニュース
▲午後零時廿五分 非常時大連市民大會實況放送(滿俱球場より)
▲午後二時 非常時大連市民大會演說會(協和會館より)
▲午後六時 ニュース(以下内地中繼)
▲六時三十分 箏さ絃曲(一)繁太夫節「千鳥」三絃米川文子(二)箏尺八合奏「越後獅子」箏米川文子、尺八靑木鈴慕
▲七時 新内「道中膝栗毛」(赤坂並木の段)淨瑠璃岡本文彌、三味線同宮之助、上調子同染之助
▲七時三十分 聲色さ物眞似「吹き寄せ」川田芳子、市川左喜松
▲七時五十分 講談「仇討傳の三曾我十番斬り」柴田南玉(以下大連放送局より)
▲八時三十一分 ニュース
▲氣象通報

妻迄苦しめた

頑固な淋病を

自宅で治した實話

栃木縣 靑木喜一郎

淋病は不治であると云ふのは詐言で、現に私は二十年來の執拗な慢性淋を根治した體驗の持主であります。私は恥を忍んで此の告白をするものは、自分の苦き經驗に鑑み治るべき淋病に惱んで居られる人々を、一刻も早く治療法の邪道から御救ひしたいと云ふ念願只一つなのであります。私の前身はブリキ職人で、靑春の元氣にまかせ、不攝生な生活の連續で、到々淋病に感染して仕舞ひました。そのため賣藥を買つて飲んで見ましたが

胃腸を損ね

る斗りで効果なく、友達に相談すると、昔の職人なぞは無茶な亂暴者揃ひで『自惚と瘡氣の無い者は有るもんか、淋病なんぞ誰だつて掛る、酒を飲んだり脂肪濃い物を食べて毒を出して仕舞へば自然に癒る』と云ふので、私も若い生意氣盛りでしたから、その通り實行した爲めヨク〳〵惡くして仕舞ひ尿道口は赤く腫脹上り排尿の後に血尿が出、夜も眠むれぬ痛さに我慢が出來ず、醫者に通つて洗滌や尿道を擴げるブーヂー挿入の激痛に慘々泣かされましたが一ケ月斗りで痛みが薄らいだのを良い事にして、金に限りの有る職人の身ですから醫療を打ち切りましたが、痛みの止まつたのは

慢性に移行

したので、それからと云ふものは來る年も來る年も、陽季の更り目とか激しい仕事で身體を使つた後とか深酒の翌日などはきまつて尿が茶褐色に混濁し、疼痛があり尿道に沿つて押して見ると少量の膿が出て絶えませんでした。安靜にして賣藥なぞを飲んで居ると大抵一週間位で癒つて仕舞ふので別に氣にも留めず放置しましたが、これが後年家庭に恐ろしい暗影を投げ掛けるとは神ならぬ身の知る由も有りませんでした。

淋病にコリた

私は道樂を止め、稼いだ甲斐が有つて小金も出來料理屋の株を買ひ之が順調に行つて次第に繁昌も廣くなり、人手もいるので世話さるゝ儘に今の女房を貰つて家を揃へて働き出しました。處が中年斗りすると達者な女房が顏色が惡くなり惡臭の下物が始まり足腰が痛みヒステリーになつたので喫驚したが元の起りは私の罪にあるのですから嫌がつて尻込するのを賴む樣にして醫者の診察を受けさせますと淋毒から來た子宮内膜炎でこの儘にして置くと不姙症や色々の婦人病の原因となり

一生の不幸

を見ると云ふ話で、私は慘々女房に嫌味を並べられ閉口し醫師に相談しますと私の慢性淋も根治しないと尿道狹窄になり、尿浸潤性陰嚢炎や副睾丸炎と云ふ恐ろしい尿毒症や又は淋毒性關節炎や攝護腺炎や副睾丸炎となり足腰も立たぬ樣になることが有るとの事で、夫婦一緒に治さなければ駄目だと云ふので揃つて療治を受けることになり、幸に女房は初期だつたので經過良く二ケ月斗りで全快しましたが、私は商賣柄ヤレ組合の會合だとか、來客の座敷へ呼ばれたり兎角飲酒の機會が多く、治療もハカ〴〵しく行かず、再び女房に感染さす樣な事が有つたら大變ですから、種々豫防法を講じ味氣無い思ひで居りました時、懇意な客筋の一人が『淋病なら今度出來た

ケンゴールが良

いから使つて見ろ』と敎へて被下さいましたが、其藥は新聞に時々一頁の大廣告を出すので知つて居りましたが『山カン藥』だらう位に思つて聽き流して居りましたがその客は來店の度每に『何故試さないのだ、ケンゴールは前吉原遊廓病院長が永年の經驗と學理に基いて研究に研究の結果發表された藥で、俺も實は使つて治つたんだから』と恥を割つての熱心なお勸なので、ツイ使つて見る氣になり近所の藥屋から慢性用十五日分を買ひ求め醫療を止めケンゴールを試して見る事にしましたが、新藥だけあつて外の藥と違ひ尿道へ塗布する位少量注入すれば良いので

使用が簡單

で素人にも出來安全で刺戟も少なく仕事の邪魔にもならず、こんな平易なもので効果が有るものか知らと半信半疑二三日注入をしますと、今まで少なかつた膿が急に增えて來たので喫驚し、藥屋へ電話をかけると『それは藥の効いた證據だから心配せず根氣よく續けなさい』との話なので、更に一週間程注入しますと膿がピッタリ止まつて仕舞ひました。大喜びで尿をガラスのコップに採つて透かして見ると未だ淋糸があるので又十五日分取りよせて使ひましたが每朝このコップを見るのが樂しみで、一日より一日と減つて行くのが目に見えて解り、浮遊物や淋糸が無くなつたのは二十日目の朝でした。私は苦しみに苦しんだ慢性淋を

根本から征服

したかと思ふと晴れ〴〵として二十年振りで大安心を致しました。其後試驗的に深酒をして見たり、板前で夜更しをして冷え込む事が有つても絶對に再發致しません。私は馬鹿正直で人の云ふ事は何でも一應は信用する性格ですから、良いと云はるゝ儘に最初のうちは手當次第、尿が藍色になる藥だとか、出鰈の黑燒だとか、白檀油なぞ飲みましたが効目なく賣藥にはコリ〴〵して居た矢先ですから、ケンゴールも初めは疑つて使用を迷ひましたが實驗して絶大な効力に驚嘆しました。世間には淋病藥の選擇にお迷ひの方も多いと思ひます。御使ひになれば速く効果の解る事ですから敢て私がケンゴールの提灯を持つ必要も有りませんが事實を事實として申上げることの體驗談が皆樣の御參考になりますれば此の上もない幸だと存じます。

前東京吉原病院長佐藤樂先生發見泌尿科醫學博士山崎和雄先生製劑指導のプラオン銀、ケンゴールは急性用、慢性用、婦人用の三種あり、藥價は二〇瓦三十日量十圓、八〇瓦五十日量七圓、五〇瓦十五日量三圓八十錢。品切れの際は東京芝三田通新町十三、日東藥化學研究所へ直接申込まれよ。振替東京三一九四三番。使用法其他詳しき說明書ハガキ申込次第無代進呈す。

滿日 日曜ふろく

（1）大昔から支那と滿洲を區切つた萬里の長城—山海關から北平の北を通つて何百里も西の方へつゞいてゐます

（2）鴨綠江上流にある高勾麗の遺跡—高さ六メートル好太王の碑で今からおよそ千五百年昔に建てました

（3）奉天の北陵—溥儀執政の御先祖で淸朝の第二番目の皇帝太宗文帝は中央の白い土饅頭の中に眠つてゐます、この方は蒙古方面の征伐で勇名をとゞろかせました、又奉天に帝都を定めた最初の皇帝ヌルハチは太祖武帝といひます

（4）錦州城內にある高勾麗時代の城門—こゝは古い昔から蒙古貿易の要路となつてゐました

（5）金の上京—ハルビンの東阿什河といふところにあります、およそ八百年の昔こゝに立派なお城や市街があつて今でもその頃の器物が掘り出されます

（6）榮光に輝く首都新京—人口百萬の大都市を目標に素晴らしい勢ひで家がたつてゆきます、寫眞は中央廣場を中心にみた未來の新京の設計圖です

（7）お若くて聡明な滿洲國の元首溥儀執政とお美しい溥秋妃

滿洲國が生れてはや一年　三月一日はめでたい建國記念日

平和に輝き、希望にみちた滿洲國が生れてはや一年になります、三月一日はそのおめでたい建國記念日にあたるので首都新京を初めいたるところ盛んなお祝ひの旗行列が行はれることになつてゐます、方々を荒し廻つた惡い匪賊も殆ど平げてこれからは色々な產業も盛んになるでせう、長い間惡い政治に苦しめられた三千萬の人々はこの新しい滿洲國を世界中どこの國にも劣らない立派なお國にしやうと一生懸命です、お隣に出來た幼い滿洲國のためにわが日本はまつ先きに兄弟國となりました、さうしてこれから仲よく手をつないでゆかうとしてゐます、おめでたい建國記念日にちなんで古い歷史をもつた滿洲國についてお話しませう

滿洲と支那は昔から萬里の長城が境
溥儀執政を新國家に迎へる迄　面白い滿洲國の歷史

ずつと大昔から滿洲に住んでゐたのは肅愼といふ民族です、三千年も昔のことですから穴のなかに住んで豚の肉をたべ皮をまとひ、見るからに強さうでした、そこに新しい二つの國が出來ました、鴨綠江附近の高勾麗と長春附近の扶餘がそれです、凡そ二千年昔のことです、どちらもなか〳〵立派な國で扶餘は三百年で亡びましたが高勾麗はます〳〵榮えて七百年もつゞきました、その頃支那は戰國春秋の時代といつて、ひどく國が亂れてゐましたので、高勾麗は支那本土や北朝鮮までも勢力を伸ばして大きな領土をもつてゐました、皆さんは神功皇后さまの朝鮮征伐を知つてゐるでせう、高麗、新羅、百濟をあはせて三韓といひましたが、高麗は實は滿洲の高勾麗國のことで日本では朝鮮の一部だとばかり考へ違ひをしてゐたのでした、こんなに榮えた高勾麗も今から千二百年程前天智天皇の頃に唐のために亡ぼされてしまひました、唐は何べんもこの高勾麗を攻めましたが散々な目にあつて大連附近までもどん〳〵追はれてきたことさへあつた程です。

その後まもなく渤海國が興りました、ロシアのウラヂオストックの方までも平定してなか〳〵大きなお國になりました、恰度わが國では聖武天皇の御代で日本へもお使を出して交際をもとめてきました、こんなに古くから日本と滿洲國とは正式なまじはりがあつたのです、渤海の次には滿洲國の一部である熱河省から契丹民族が興つて遼といふ國をたてましたが南の方に勢力を伸ばして不便だつたので遼の政治に力を入れなかつたゝめ、再び渤海が盛り返して金といふ國をつくりました、これが恰度今から八百年の昔、源義家が安倍貞任を亡ぼして源氏が榮えようとする頃でした、金は今のハルビン附近に立派なお城をたてて支那の宋を侵し大きなお國になりました、遼金時代といつて滿洲獨特の文化が一番榮えた時代です、その次に現れたのは成吉思汗といふ偉い蒙古の大將でした、支那はもちろんヨーロッパの今のイタリー附近までも征服して世界中で一番大きな元といふ國をたててそれはそれは素晴らしい勢ひでした。

わが國の弘安四年の元寇の役といふのはこの國が攻めてきたのでした、北條時宗がよく戰つて雲霞のやうに押よせた大軍を見事に打ち破つたのを御存じでせう、こんなに強かつた元も色々と內亂があつたために初めて漢民族の明に亡ぼされてしまひました、豐臣秀吉の朝鮮征伐の時、明は朝鮮を助けて刄向ひましたが、程なく仲直りをして、明の使が、はるばると海を越えて大阪城にやつてきました、さうして「秀吉を日本國王にする」といふ無禮な手紙を持つてきたので、秀吉は大いに怒つて、明と戰ふために再び朝鮮征伐に出かけたことがありました、明は二百七十年の間滿洲と支那に勢力をふるひましたが今度は滿洲から興つた淸のために亡ぼされてしまひました、撫順の東の興京といふところから努爾哈赤といふ偉い大將が出て明を追ひ拂つてそこに滿住國をたてたのは三百二十年前のことです、これが後に明を亡ぼして全支那を平定し代々皇帝となられた淸の太祖であります。

滿洲から淸朝が今の北平に首都を定めて十二代の皇帝がつゞきました、新しい滿洲國の元首さまである溥儀執政は宣統帝と申して十二代目の天子さまでした、皇位を退かれて二十年を經た今日、滿洲三千萬の人々から迎へられて再び御祖先の地にお歸りになつたことはどんなに感慨深いことでせう、元來私達のいふ支那人は漢民族といつて黃河の川べりに起つて今日の支那をつくり滿洲に住む民族を北夷などゝ野蠻人扱ひにしてゐました、萬里の長城といつてお屋敷の塀のやうな城壁が山海關からずつと西の方へ幾百里とつゞいてゐます、これは昔支那が外敵を防いだところです、だからお塀の外は支那とは別な滿洲であつたことがよくわかります、そこに新らしい滿洲國が生れたのは當然のことといはねばなりません。

萬里の長城を自動車道路に
當にならぬ支那の話

萬里の長城は今から凡そ二千餘年も以前秦の始皇帝といふ強い大將が外敵を防ぐために高いお塀のやうなものを二千五百哩もつくり、このほか用もないのに大へん大きな阿房宮といふ自分の御殿もつくりました、馬鹿のことをあほうといふやうになつたのはこれ以來のことです、お話は元へ戻りますがこの萬里の長城を修繕して自動車道路に使はうといふ計畫が支那政府で問題になつてきました、何でも口さきばかりでなか〳〵實行しない支那のことですから計畫だけでお流れになるだらうといはれてゐます

『滿洲』といふ名はどうして生れた？

どうして、どこから滿洲といふ名前が生れたのでせうか、これには色々な面白い說があります

×

滿洲實錄といふ古い本には淸の太祖努爾哈赤（ぬるはち）がまづ滿洲一帶を平定してそこに「滿洲」といふ新しい名前をつけたと書いてあります

×

一說には太祖の薨去したのちの、おくり名が「滿住」といふ名であつたためともいひます

×

女眞族の酋長に「李滿住」といふ人があつて、太祖の興つた渾河の上流には「滿住」と名のつく人が非常に多かつた——とこれは朝鮮の古い本に書いてあります。

×

それから又、チベットから淸朝に捧げた手紙のなかに「曼珠利大皇帝」といふ宛名を使つてゐます、これは印度の佛教文字で非常に尊敬した言葉になるさうです。

×

さて、このうちどれが今日の「滿洲」の起源になつたかはつきりと判りませんが、或はこうした似通つた言葉を次々と通つてゐるうちに、何べんも變化して次第に今日の名になつたのではないでせうか。

×

支那人のことをロシア語でキタイスキーと言ひます、これは今の熱河省に興つて滿洲に「遼」といふ國をたてた契丹族（キタイぞく）といふ民族の名をさつたものです、恰度それは今の支那全體を滿洲民族（正確に言へば蒙古人との雜種族）の名で呼んでゐることになつて面白いではありませんか。

牡牛を倒し人を救ふ
感心な警察犬

ニューヨーク州のある農園に飼はれてゐたおとなしい牡牛が急に狂ひ出して、お掃除のために檻の中へ這入つた仲よしのネーフといふ勞働者にとびかゝつてきました、せまい檻の中で逃げ場をふさがれたネーフは何べんも角で突かれながら大聲で救ひを求めてゐますとこれを聞いた農園の飼犬が飛んできて猛りたつた牡牛ののど元に咬みついたので漸く危い一命が助かりました、この飼犬は賢くて評判のよい警察犬でした

第卅五回　こどもの考へもの
これはへんだ　電氣スタンドでなし

これはどうもをかしいぞ、寫眞の置き違ひでせうか、電氣のスタンドにしてはたれさがるはずのフサが上をむいてゐます、なんでも應接室や會社などにはたくさん使はれてゐるものださうです、何でせうか、わかつた方は來る三月五日までに大連市東公園町滿洲日報社內「滿日日曜附錄係」あてにハガキでお答へください、正解者にはいつもの樣に籤をひいて二十名に限りご褒美を差上げます

第卅三回の答　ソロバン

第三十三回の考へものはソロバンを裏から寫眞にとつたものでした相變らず正解者が多いので籤をひいて今度は左の方々にご褒美をあげることにしました、大連市內の方は當籤通知のハガキを持參して本社でご褒美とお引きかへください、沿線の方には直接お送りいたします

當籤者

▲撫順河本茂▲奉天河田宜昌▲同大神正保▲鞍山中野政志▲普蘭店岩切亨▲新京村上康夫▲四平街小野澤裕逸▲遼陽迫誠司▲新京鈴木良子▲旅順橋本美代子▲大連金崎順▲同松下正敏▲同宮西一子▲同片岡鈴子▲同井手布美子▲同今津始▲同河本順子▲同石田芳雄▲同山形時子▲同佐野清子

なほ當籤者の方はご褒美の中にある森永のミルクキャラメルやチョコレートの空箱を必ずお菓子やさんの店先にある支那事變の「戰傷兵士を勞はりませう」と書いた箱の中にお入れください

おことはり

日曜練習課題の先週のお答へは第四面にあります

三千頭の馴鹿が
アラスカからカナダへ
二年まへから駈けつゞけてゐる
エスキモー人大喜び

動物が大きな群をつくつて移動することはご存じでせう、鼠の群や猿の群がシベリアの廣い野原を何萬と隊をくんで食物のないところから食物のあるところへ、寒いところから暖かいところへ幾十日も幾百里も進んでゆくことは度々です、今恰度アラスカの荒野を三千頭の馴鹿がドン／＼東の方へ進行中です、しかも二年も前から駈けつゞけてこの頃やうやくカナダとアラスカの國境までやつてきました、此調子でゆくと今年の夏あたりカナダのマッケンジー河に到着するだらうとエスキモー人は手具脛ひいて待つてゐます、エスキモーは狩の上手な人種ですから一頭も殘さずにうちとめて、おいしい肉も澤山たべやう、よい毛皮の服もつくらうと、また馴鹿のこない年歳も前からホクホクものです、世界地圖を御覽なさい、アラスカは南北アメリカの一番西の端にあります（寫眞はトナカイ）

電氣仕掛の チウ助退治

アメリカのセント・ルイスで開かれた發明品展覽會で一番人氣のあつたのは電氣仕掛の鼠とり器でした、この鼠とり器は金屬のお皿に電氣を通し、その上に御馳走をのせておきますとチウ助さんがそれをみつけて失敬しやうとすると忽ち電氣死刑にあふ仕掛けに出來てゐます

歐洲大戰豫言の 千里眼のお婆さん死す

十五年も前から歐洲大戰を言ひあてた千里眼の名人リスペート・ジードラーといふお婆さんが最近ドイツのベルリンでなくなりました、このお婆さんはドイツ軍人の集まつた所で歐洲大戰の起る原因や、日時まで豫言しましたが、果して一九一四年の七月オーストリアの皇太子がピストルでお撃たれになつてセルビアとの戰爭が始まり世界の人々をアッと驚かせました、ドイツの參謀本部では戰爭毎に幾度もこのお婆さんに勝敗をみてもらひましたが一つとして間違つたことがなく最後にドイツが敗北する事までちやんと教へてゐました

コドモ ノ オハナシ
ボク ノ マリ
マサモト・イサム

ボク オカアサンカラ マリ ヲ カッテ モラッテ、ヒトリデ ソノマリト マイニチ アソンデヰマシタ。

カベ ニ ナゲツケテ ポント ハネカヘツテクルノヲ ウケテヰタノデスガ チカゴロ オヤネ ヲ コスコトヲ オボエマシタ ニイサンカラ オシヘテモラッテ。

ニイサン ガ オウチ ノ マヘ ニ ヰテ ボク ガ ウラ ニ イッテ コシヤイコ ヲ シマス。

「イクヨー イクヨー。」

ツテ ニイサン ガ イフト ボク ガ

「アーイ。」

ト、イヒマス。スルト シロイタマガ オヤネ ノ ウヘ ヘ スット タカク ミエテ、ソレガ モンドリウッテ ボク ノ アタマ ヲ コシテ、ウシロ ノ ハラッパ ノ マンナカ ヘ ポント オチマス。

ボク ハ コロガルヤウニシテ オッカケテ ユキマス。ボクガ ヒロッテクルト コンドハ ボクガ オウチ ノ ハウ ヘ ムイテ

「イクヨー。」

ト イヒマス、ニイサン ノ

「アーイ。」

ト イフ コエガ キコエテキマス。

ボク ハ 一シヤウケンメイデ ナゲマスガ ナカナカ コエラレマセン。オヤネ ノ ナカホドカラ アトガヘリシテ オチテキマス。ボク ハ イソイデ マリ ヲ ヒロッテキマス。

「ナニシテルンダー。」

ト ニイサンガ ドナリマス。

「イクヨー。」

ト イッテ マタ 一シヤウケンメイデ ナゲルト コンド ハ ヤット オヤネヲ コシマス。

ボク ハ ダマッテ ニイサンノ コエ ヲ マッテヰマス。ト

「イクヨー。」

ト イヒマス。

「アーイ。」

ト イフト マリ ガ マタ トンデキマス。オヤネ ノ ウヘ ニ マリ ガ ミエタカラ ボクハ ウシロムキ ニ ナッテ ムチウデ ハシッテイキマシタ。

ナンダカ マリ ガ ポント ハネカヘッタノヲ ミマシタガ ソレキリ ドコヘ イッタカ ワカラナクナッタンデス。

アッチ コッチ サガシマシタガ ミツカリマセン。

ボク ハ ナキゴヱデ、

「マリ ガ ナイヨー。」

ト イフト、ニイサン モ ヤッテキテ サガシテ クレマシタ ダケド マリ ハ トウトウ ナカッタンデス。

ボク ハ アクルヒ モ ハラッパ ヘ イッテ サガシマシタ。

「アヽ マタ カッテアゲルカラ」

ト オカアサン ガ オッシヤイマシタ。

アノマリニハ ニイサン ガ チヤント ボク ノ ナマヘ ダト イッテ エーゴデ M。コンナ ジ ヲ カイテ クレテ アリマシタ。

ダカラ ダレカガ ヒロッタラ キット モッテキテ クレルンデス。ガ、ダレモ ヒロッテキテ クレマセン。

「マリ ガ ナイカラ ツマンナイナア。」

マイニチ サウ イッテヰタラ オカアサン ガ

「イマカラ マリ ヲ カヒ ニ ユキマセウカ。」

ト イヒマシタ。

「ボク モ イクヨ。」トイッテ イソイデ フク ヲ キカヘテ オカアサン ト フタリデ デカケマシタ。

ウレシクテ、ウレシクテ。

ウラ ヘ デテ ハラッパ ヲ ヌケテ イクト、シナジン ノ チヒサイ オウチ ガ ナランデ ヰマシタ。

ソノ アヒダ デ アカイ キモノ ヲ キタ シナジン ノ コドモ ガ タクサン アソンデヰマシタ。

ボク ハ ソレ ヲ ミイミイ ユキマシタラ、フイニ ボク ノ アシモト ヘ コロコロト マリ ガ コロガッテキマシタ。シナジン ノ コドモ ガ ナゲタンデス。

ボク ハ ハシッテイッテ マリ ヲ ヒロッテヤラウ ト シマシタ。

「シヤー、シヤー。」

ト イフ コエ ガ キコエマシタ。ボク ハ マリ ヲ ヒロッテ、ヒヨットミルト M ト イフ ジ ガ カイテアリマシタ。

「アヽ ボクンダ。」

サウ オモッテ シナジン ノ コドモ ヲ ミマシタラ、ミンナ トテモ ウレシサウニ ニコニコシテ、ボク ノ ハウニ ムイテ

「シヤー シヤー。」

ト イッテ テ ヲ ダシテ マッテヰルンデス。

「コレ ボクンダヨ。」

ココロ ノ ウチ デ サウ オモッタガ ミンナ ノ エガホ ヲ ミルト、ボクハ ダマッテ ナゲテヤリマシタ。

シナジン ノ コドモタチ ハ キヤーキヤー イヒナガラ コロガルヤウニシテ ヒロヒマシタ。

ボク ハ イソイデ オカアサン ノ ソバ ヘ ハシッテユキマシタ。

春浅し かなづる 子らの明暗曲

痛む・小さき胸 試驗場風景五つ

ザラ紙の答案紙に噛ぢりついた痛ましい眞劍さをみてやって下さい、試驗地獄の聲があがって既に幾年、これを緩和すべき無試驗入學制度のために殘された受驗生は更に幾倍の試驗苦に喘がねばなりません、怒濤のやうな物凄い志望者の殺到を、デパートの盛況と同視すべきではありますまい、切實な大きな今日の社會問題です、恵まれない子供たちはその不運と不幸を自分の責任においてどんなに小さい胸を痛めることでせう

× ×

「ふむふむ……さうか」

中折のパパは試驗場から出てきたわが子の報告をきゝつゝ、鼻息を凝してゐます、親娘でのぞき込んだ試驗問題を持つ手は小さくふるへてゐるではありませんか

× ×

兄さんらしい金釦の滿鐵社員、セイラー服の娘さんと立ならんで朗かな談笑を交してはゐるが底に潜んだ不安さは打消すことは出來ない、けたたましいベルがなると控室一杯のさゝやきがやんだ

「今度も、落ちついてやるんだよ」

激勵の言葉に無言のまゝ頷いて少女は立去るのでした

× ×

硝子窓に映える校庭の賑かなざよめきをよそに小さい子等は一心不亂です、遊びざかりの彼女等もセイラーの制服と女學生たる名譽を獲得するために一心不亂いぢらしい努力をつゞけてゐます

× ×

「何故この學校を志望しましたか?」

「働いて早くお父さんお母さんを安心させようと思って……」

「ほう、感心ですね、運動は水泳がお得意ですね、水泳は面白いでせう」

緊張し切った少女も巧なテストについ釣り込まれて無邪氣な笑顔をみせるが、俄に受驗を自覺したかのやうにまた堅くなってしまひます

悲喜交々 愛し兒の『非常時』

林檎の如くはり切ってゴム毬のやうに快活な子供たちの世界にも矢張り暗い不安の影がある、新しい學帽とランド・セールに近く「一年生」たらんとする子らは力一杯の元氣で樂しいお唱歌をうたひつゞけてはゐるけれど、雲雀のやうに快活だつたお孃さんも、天眞らん漫そのまゝの坊やも、試驗苦に喘ぎながらいぢらしい勉强の强行軍をつゞけつゝ小さい心臟は不安と焦燥に大きくふるへてゐます、下級生から上級生へ益々自尊心を擴大する平穩な進級生にさへ「點數」の心配があり、「銀時計の約束」が解消される惧れが多分にあるとすれば芽出たく螢雪の功を積んで嬉しい花嫁姿を胸に描きつゝ校門を去らんとする彼女たちにも悩みがないと誰が言ひ得るでせう?、悲喜交々を織まぜた小さき子らの「非常時」にうつる淺春の明暗相はなんと皮肉な人生の縮圖ではありますまいか

もう幾つねたら…… こどもの「テンゴク」風景

うらゝかな早春の陽を浴びて無邪氣な園兒たちは小鳥のやうにはしやぎながら跳ね廻ってゐます、新しい學帽を被り、新しいランド・セールをつけて有頂天な少年少女たちも「一年生」たらんとする無上の誇りをどんなに嬉しく感じてゐるでせう

「もう幾つねたら學校へゆくの?……」

彼等にとってお正月以上の期待である筈です、平和と歓喜にみちた天國のやうに純眞な子供の世界はなんと羨ましい明るさでせう

饒舌と哄笑 午さがりの校門朗か

學年試驗の憂鬱と卒業の喜悦を織まぜて朗かな饒舌と哄笑が校門から吐き出されてゐる

「アタシ二番目の定義忘れちやって…」

「駄目だつたアタシも…ゆうべの音樂會どうだつた」

「ステキよ、試驗と音樂會とダブルの、よくないワ」

凡そ意味のない會話で彼女たちの憂鬱はたちどころに解消してしまふのです

剛勇美人 女騎馬武者

木暮白芘

哀れ江波五郎の奇略に 長尾爲景が無念の最期

天文十二年のことです。加賀の國に一向宗土匪が起り、土地の豪族で、武勇の聞え高い、神保良衡江波五郎等と一手になりながら、長尾爲景に叛旗を飜へしました。爲景はその頃、北國に威を張り覇を稱へた猛將であつたから「小癪な奴ども、これぞ正しく龍車に向ふ蟷螂の斧だ。只一ひしぎに、取りひしぎくれん」と、早速出陣の用意をとゝのへ居城を後に、叛兵等の屯せる梅檀野の方へ向ひました。

梅檀野といふのは、一望十里にわたる廣野で、森なり、小川なり茫々たる草は、ところにより、腰を沒するほど深く生ひ茂つて居りました。

爲景は勢ひを恃んで、最初から殆ど彼れ等を物の數とも思ひません。程なく、敵陣間近に進み寄ると、金切割の采配を、さつと打ち振つて「それ、者ども、かゝれや、かゝれ！」と、下知して、無二無三に突擊をはじめました。

この時、敵の先鋒は、江波五郎でありましたが、しばらく戰ひを交へ、懸命に取り支ふるうちに、次第に旗色が惡くなり、係へかねたと覺しくて、さう/\足並みしどろに、本陣の方へ逃げ出しました。

爲景はそれと見るより「やあ、醜き敵の振舞ひかな、その分ならば、追ひ擊ちにして、一人殘らず擊ち止めい！」と、みづから馬をまつ先に進めて、一さんにその後を追つかけました。

ところが、丁度森と森との間の一きわしげく、茅萱の生ひ茂つたあたりへ差かゝつた時、爲景をはじめ、前後にあつた家臣ども、二十餘騎の一團は、あつと叫ぶ間もなく、人馬もろとも、地下幾條とも知れぬ大穴の底へ落ち込みました。

これぞ江波五郎の計略、わざと戰ひに敗けたやうに見せかけながら爲景を誘き出したもので主從がまんまと網の魚、罠の獸となつたと見るや、左右の森から、どつと伏勢が起り、又今まで、逃げ足の早かつた五郎の兵も、急に返して來て、三方より手痛く挾擊し、何の苦もなく爲景以下を討ち取りました。

そんなことゝは、夢にも知らず、遅れ馳せに馳せつけた後續の一隊、主君の無殘なる最後を、且つ悲しみ且つ憤つて、いづれも必死の覺悟雄々しく、敵陣へ躍り込んだが、その中に、一だん人の目を惹く一騎の若武者がありました。

名ある勇士と思ひの外 花もはぢらふ女武者

容顏は花の如くに美はしく、緋縅の中二段を、ゆかりの紫に縅しなしたる鎧を身にまとひ、半月の冑の緒を、しかと引き締め、片鎌の手槍を提たるさま、天晴れ勇ましき武者ぶりの中に、何處やら、優雅の面影もしのばれるやうなのが、まつ先驅けに、馬を飛ばして當るを幸ひ、忽ちのうちに、敵五六騎を突き伏せ、六七騎に傷を負はせ、猶も怯まず、去らず、縱橫無盡に荒れ狂ふ勢ひの烈しさ、すさまじさには、さしもの敵勢も「あれこそ、人ぢやない。正しく鬼神の出現ぢや」と、膽をつぶして驚き、怖れ、その槍先に、立ち向はんとするものは、一人もないのでした。

若武者は血に染む手槍を引きしごいて、獅子王の羊の群れを狩り立てるやうに、前後となく、左右となく、八面應酬の素晴らしい早技に、敵を突きくづし/\してゐましたが、神保良衡は、本陣の方より、遙かにこれを見ると、

「うむ、天晴れの若武者、必定爲景が小姓のうちに、名あるものであらう、殺すもいと惜く思はるゝが、誰かあれを生捕にするほどの勇者はないか」

と、居合す近臣どもを顧みました。その言葉の下より、

「仰せ畏まりました。拙者首尾よく彼れを生捕にいたしませう」

と、答へて、馬を乘り出したのは、大力無双の上に、打物業にも人にすぐれたる手並みのある越石縫殿でありました。

縫殿は、若武者のほとりへ近づくと

「先刻よりの心にくき働き、敵ながら感じ入る。これは神保方に、さるものありと知られたる越石縫殿、相手にとつて不足はあるまい。いざ。見參！」

と、名乘りかけさま、槍をあげて、若武者の冑を突きました。突かれた機みに、冑は飛んで、丈なす黑髮を、おどろに振り亂したのを、よく/\見ると、年の頃は二十二三と覺しく、拔き眉毛の薄化粧にほやかに、鐵漿くろ/\と齒を染めなし、丹をふくんだ花の唇、風情、まこと繪に見るやうに美しく、優しき女武者でありましたから、縫殿もあまりの思ひがけなさに、あつと仰天せずにはゐられませんでした。

「ほう、何のことだ。定めし名ある勇士であらうと思ひの外、花も羞らふ女武者とは……」

いさゝか張り合ひ拔けの態で、心のうちにつぶやいたが、この美人こそ、誰あらう、爲景の寵愛を一身にあつめた側女の松江といふもの、纖纖にも堪へぬ纖弱い姿に似もやらず、巴、板額を地下より呼び生けたやうな勇婦であつたから、爲景は戰陣の間にも、常に彼女を從へ、影の形に添ふ如く、雙々手捕き働きぶりを見せるのが例でありました。

たゞ遠まきに矢玉の霰 勇婦矢庭に生捕の憂目

松江は馬の腹帶を締め直すために、爲景に遅れて、その先途を見屆けることが出來なかつたから、憤怨、悲傷の情やらん方なく、

「一人たりとも、餘計に敵を打ち取り、好き相手に出會つたならば刺しちがへて、冥土の道連れにしよう」

と、根かぎり、精かぎりに、只一騎、奮戰、奮鬪をつゞけるのでした。

縫殿に戰ひを挑まれると、なにかはためらふべき、疲れたる精神を勵まして、彼女は早速これを迎へ、火の出るばかりに、烈しく槍を合はせました。

二合……三合……四合……五合するうちにも、縫殿はいく分か侮る心があり、その上、手捕にしようとの考へもあるところだから、どうかすると、受け身になりがちのことが多いのでした。

「こりや、油斷がならぬ。實に恐ろしい勇婦だ。うつかりすると、手捕にするどころか、あべこべにこつちが突き伏せられるかも知れぬ」

やつとさう氣がついたものゝ、時は既に遅く、頽れかゝつた勢ひを、又盛り返すだけの餘裕は失はれました。

「えい、己れ、これでもか。これでもか」

疊かけて、彼女が突きかける鋭い槍先を、或は擡いくゞり、或は刎ね上げなどしながら、しばらく苦戰をつゞけるうちに、縫殿は馬のふとした躓きから、鞍つぼによろめいたところを、ぐさと一突き、胸板を突き通され、敢なく、一命を落すことになりました。

さあ、それに、敵はます/\恐れをなして、我れ手捕りにせん、我れ討ち取らんとするものもなく、只四方より、遠卷に取り圍んだ上、雨の如く、霰の如く、矢玉を射かけ、打ちかけるばかりでした。

「卑怯なる奴原、多寡が一人の敵を討ちとることが出來ずして、飛道具を用ふるとは何ごとぞ」

彼女は芙蓉のまなじりに血を注ぎ、齒をぎり/\と嚙み鳴らして口惜しがりもし、殘念がりもしたけれど、どうする譯にも行きませんでした。

手にした槍をからりと投げ捨て陣刀の鞘を拂つて、秋の蝗よりもしげく、身邊に飛び來る矢を、わづかに切り拂ひ/\しましたが、その間にも、鎧に立つ矢は蝟毛の如く、だん/\重なる矢疵の痛みに、さすがの勇婦も、いさゝか怯み氣味にならずにはゐられませんでした。

その樣子を、見るより早く、蒔田主計といふものが、つと馬を馳せ寄せて、むんづとばかり組みつき、遂にこれを組み伏せた上、生捕にいたしました。

「貞女は二夫にまみえず」 遺書して見事に自刄

やがて戰ひ終つた後、松江は良衡の前に引き出され、一應の取調べを受けることになりました。

矢疵に惱んで、いく分の衰へは見えるけれど、聞えた勇婦だけに少しも惡びれたさまはなく、俎上の鯉の健氣な覺悟は、その淸き眉目の間に、あり/\とうかゞはれました。

敵となり、味方となるのも、戰ひの習ひ、その頃の武士の胸には溫かな情の血が通つて居りました

「まつたく女には珍しき健氣もの。もし爲景の胤を孕んで居らぬやうなら、生命を助けつかはさう」

敵將の妻妾で、身ごもつたものは、生命を助ける譯にはゆかない、これが當時の定法とせられたのは後に禍ひを殘さゞらんがために外なりません。

良衡は旨を蒔田主計にふくめて松江を彼に預けました。そのついでに、今ひとつ次のやうなことをつけ加へました。

「あれが、いよ/\只の身であると決まつたら、まだ定まるものゝない其方、宿の妻にいたしたらどうか。昔和田義盛が、巴御前を娶つて、剛勇朝比奈三郎を生ませたゝめしもある。そのやうなことにもならば、其方ばかりの仕合せぢやない。つながる縁の予も、如何ばかり喜ばしいことか分らぬ」

主計は大きに喜びました。縹緻といひ、勇力、早技と云ひ、世に類稀なる彼女を、妻にすることが出來れば、これに過ぐる幸福はないと思つたからでした。

我が家において、矢疵の養生をさせてゐる間に、主計はひそかに心をつけ、妊娠の有無を探りましたが、いゝあんばいに、そんな樣子は、ちつともないらしく見かけられました。

「よし、それではいよ/\口說き落しにかゝるとしようか」

彼れは或る夜、奥の一室に、松江を訪づれて

「のう、松江どの、斯樣なことを申しては、お氣に觸るかも知れぬが、おん身の年ごろ賴母しきものにせられた人は、既に梅檀野の露と消え果てられた。されば、今更誰に、遠慮もござるまい。拙者不肖なれども、神保方では、兎に角、多少は人に知られたもの、おん身とは梅檀野以來の、淺からぬ諠みもござれば、この際、枉げて拙者の妻女となり下さる心はござらぬか」

と、面はゆさの中からも、熱心に口說き立てました。

松江は始終を聞いて、いとも興醒顏に

「お志のほどは、まことにお嬉しう、何ともお禮の申上げやうもございませぬ。さりながら、妾として、只今卽答をいたす譯には參りませぬ故、どうぞ一兩日の間、ご返事を御延ばし下さりますやうに……」

と、哀願するやうに云ひました。

主計は心のうちに、

「かうなつたら、彼女も自分より外に、賴りにするものがないんだから、多分自分の望みを叶へるであらう」

と、さう思ひ/\、その夜は、心もちよく臥床につきました。

すると、その翌日になると、

「なまじ死におくれて、かゝる恥辱を見ることの口惜しさよ。貞女は二夫に見えず、まして、敵方に從ふなどは、聞くも汚らはし」

と、一通の遺書をのこして、見事に彼女が自殺したのを見出しました。時に年二十三、まだ盛りを過ぎぬ身を、無殘の嵐にまかせたのでした。

（終）

中等學校入學志望者の 日曜練習課題

先週のお答 （一たんこれでお休みします）

算術

(1) 計算 略記

(答) イ• 0.41餘0.0036

ロ• 4/13

(2) イ•○ □ △

(3) 18錢＋2錢＝20錢

18錢 20回

20錢 X回

反 20:18＝20:X

X＝18×20/20＝18回

(答) 18回で運べます。

(4) △×11/33＝187人

187人÷11/33＝561人

(答) 志願者は561人です。

(5) 540錢−450錢＝90錢……もうけた金高

(答) 90錢÷450錢＝0.2 利益の步合は二割です。

【注意】 利益の割合は自分の出した元金卽ち原價に對する割合であることを忘れてはなりません

國語

一、大空に高くそびえてゐる高い山でも登らうとすれば登る道はあるのだ

此のやけつくやうな日中に蟻はどこをさして一生けんめいに行くのだらうか

二、(1)食物はほど/\にとらねば胃を害します

(2)出發せんとする折から雨が降りだした

(3)ヨーロッパは暖流の影響を受けて氣候が溫暖である

(4)あの人は快活といふよりはむしろおてんばの方だ

三、(1)編輯局をさす

(2)營業局をさす

(3)總務局 編輯局＝編輯 營業局＝販賣、廣告

四、(1)退始×—治

(2)郡×—群

(3)威藝×—勢

(4)程席×—度。底イ×—低。

供同×—共

五、買フ。無智。乘ジ。安イ。品高。賣付ケ。見本。精良。使。實際。注文。對シ。粗惡。送。篤ス。事。

國史

一、(イ)欽明天皇の御代（一二一二年）に百濟から傳はつた。

(ロ)聖德太子や聖武天皇

(ハ)行基、空海、最澄

二、神代（4）

大和時代（5）

奈良時代（6）

平安朝（7）

鎌倉時代（1）

吉野朝（8）

室町時代（3）

戰國時代（9）

江戶時代（10）

明治大正時代（2）

三、(イ)鎖國…家光將軍

(ロ)寬政の治…家齊將軍

(ハ)幕府中興の政治…吉宗將軍

(ニ)通商條約…家定將軍

(ホ)大政奉還…慶喜將軍

四、三條實美、岩倉具視、大久保利通、西鄕隆盛、木戶孝允

五、(イ)下關條約 日淸戰爭の講和條約で、我が全權は伊藤博文、陸奧宗光、支那の全權は李鴻章で、明治二十八年四月下關で條約を結ぶ。

其の條約

1、朝鮮の獨立を認む

2、遼東半島、臺灣、澎湖島を日本に讓る

3償金二億兩（我が三億五千萬圓）を出す

(ロ)天津條約

明治十七年の朝鮮事變の時、伊藤博文を淸國に遣はして、其の使臣李鴻章と天津で條約を結んだ。其の天津條約の內容は次の如くである。

1、兩國とも朝鮮に兵力をとゞめないこと

2、若し必要あらば互に通知した後に出兵すること

(ハ)ポーツマス條約

日露戰爭後明治三十八年九月五日米國のポーツマスで行はれた日露間の講和條約で、日本の全權は小村壽太郎、露國の全權はウイッテで世話した人は米國大統領ルーズベルトである。

條約は

1、露國は淸國より借受けた關東州を日本に讓ること

2、露國は長春、旅順間の鐵道及炭坑を日本に讓り渡すこと

3、露國は樺太の北緯五〇度以南を日本に讓り渡すこと

4、露國は日本の韓國に於ける權利を認めること、等

地理

一、日支貿易品（近年日支事件で多少異つてゐますが）

輸出 綿織物、砂糖、麥粉

輸入 綿、鐵鑛

二、1、工業が盛んになつた理由

1、石炭、鐵の產出が多い。

2、海外の植民地から原料を得易いからである。

主なる工業

紡績業、織物業、製鐵業。

三、世界大戰の結果國力が非常に衰へてゐたのに、其の後國民の努力によつて再び戰前の樣に榮えかけてゐる。そして學術の研究と其の應用の盛なことが特にえらいと思ふ。

四、日米貿易品の主なるものは

輸出 生絲、絹織物、陶器、茶

輸入 綿、木材、鐵及鐵材、機械類等。

五、米…印度、印度支那

砂糖…ジヤワ島、キユーバ島。

生絲…日本、支那、

石油…アメリカ合衆國、スマトラ（ボルネオ）

六、神戶—門司—上海—ホンコン—シンガポール—コロンボ—マルセーユ—ロンドン。

七、1、ウラヂホストック…日本海にのぞむ港でシベリヤの門戶である。我が敦賀との間に定期航路が開かれてゐる。

2、ボンベー 印度にあつて綿、小麥の輸出が盛な港である。

3、ベルリン ドイツの首府である。

4、ケープタウン 南アフリカ聯邦にあつて其の門戶である

5、サンフランシスコ アメリカ合衆國の西海岸にある良港で我が橫濱との間に定期航路が開かれてゐる。

理科

(一)頭＝腦。

胸＝肺。心臟。

腹＝胃。腸（小腸、大腸）。肝臟、膵臟、脾臟、腎臟、膀胱

(二)A ヒフ

B 管

(三)1含水炭素 2脂肪 3蛋白質 4ヴイタミン

(四)A(1)ヴイタミンA〜夜盲症 セムシ

(2)ヴイタミンB〜カクケ

(3)ヴイタミンC〜壞血病

B(1)ヴイタミンA肝油、バタ、ハウレンサウ等

(2)ヴイタミンB麥類、キヤベツ、トマト等

(3)ヴイタミンCチシヤ、ミカン、タマネギ等

(五)A 1唾液 2胃液 3膽汁 4膵液 5腸液

B蛋白質は水にとけやすいものに 脂肪は乳のやうなものに 澱粉は糖類に 變化せらる

一年前の回顧

皇軍の活躍目覺し （二月六日）

隱忍をつゞけてゐたわが軍の積極的自衞戰はいよ/\目覺ましく流石に無智蒙昧な支那兵も可成り痛切に身の程を知つたらうと思はれます、二十六日は敵の飛行機五機のうち二機を墜落せしめて鎧袖一觸見事に空軍の威嚴を示しました、この外嚴家橋の塹壕に日本刀で斬り込んだ若林少尉の武勇傳、わが砲の威力など、目覺しい活躍は數へるに遑ありません、さうして二十七日午後には江灣鎭の堅城高く日章旗が輝きました

駐日四大使働く （同上）

上海における日支の激戰は果然國際聯盟に大きな波紋を投じ駐日英、米、佛、伊の四大使は共同租界內のわが軍事行動を撤去されたい旨申込んできたが、芳澤外相は租界外人の生命利益の保護を念として何らその利益侵害をしてゐない旨回答すると同時に認識不足の聯盟理事國に對しても強硬態度をとることになりました、一方これに調子づいた無智な支那兵はいよ/\積極的な抗戰をつゞけて各所に激戰が演ぜられました、又滿洲においては匪賊僞勇軍の跳梁を慮つて鐵道沿線から兩側五百米の地域に於て警戒の障碍となるべき穀物の播種を禁止する旨臧奉天省長から布告が發せられました

支那側に誠意なし （同二十七日）

わが代表部は聯盟理事國に對して一定條件の下に上海の日支休戰につき新提議をなし、認識不足の聯盟も日本の誠意を知つて斡旋の勞をとりましたが支那側は無鐵砲な強がりをいつて誠意のみるべきものもなく漸く峠を越えたと思はれた兩軍の對陣も再び戰況活潑となりわが軍は四明公所に砲彈の十字火を浴びせました

日本側の誠意通る （同二十八日）

無理解な國際聯盟は二十八日上海事件に關する秘密通牒を十二ケ國理事國代表に手交しましたが、日本側の戰鬪中止の誠意が漸く一般に判明したので強硬な空氣は多少緩和されました

全滿に建國の聲 （同二十九日）

苛斂誅求の惡虐な軍閥政治を排して三千萬民衆の切實なる建國促進の聲が到るところにあがり二十九日には奉天で盛大な建國デモが行はれました、これと相呼應してチ、ハル、吉林、公主嶺、遼陽などでも割れるやうな人氣のうちに非常な熱を以て示威運動が各地に起りました、異樣な服裝をした蒙古のラマ僧百三十名が新國家への參加を要求してはる/\と奉天にきました 多年わが恩政に浴してゐる旅大大衆と公議會その他各種の團體が中心となつて奮起し建國の烽火は一齊に全滿各地に揚がりました、同じく廿九日にはリットンを首班とする國際聯盟の支那調査團一行が橫濱につきました

滿洲國生る （三月一日）

さん/\たる旭光を浴びて平和と希望に輝く滿洲國がいよ/\成立されました、卽ち一日附を以て初めて滿洲國の名によつて世界に呼びかける建國通電を發しました、これと同時に學良軍閥の最も大きな搾取機關であつた各地の銀行も統一されて、新しい中央銀行が三千萬元の資本金を擁していよ/\一齊に開店されました▲海の彼方アメリカでは空の人氣者リンデイ大佐の赤ちやんが居なくなつて大騷ぎを演じました

支那側愈よ不遜 （同一日）

日本側の休戰根本條件たる支那軍の二十キロ撤退要求は不遜な回答によつて拒絶する一方その虛に乘じて陸續と軍を集中してゐるので、わが第〇〇師團を增派すると共に白川義則大將を上海派遣軍の總司令官に任命陸海軍共同作戰の下に二日朝大場鎭の堅壘を占據しました

支那軍遂に總退却 （同二日）

破竹の勢ひで二日前原〇團は大場鎭を突破して夕刻眞茹無電臺附近の敵兵を一掃、更に陸戰隊は北停車場を占據したので閘北方面に密集せる敵の大部隊も先を競つて總退却を行ひお氣の毒な程支離滅裂に陷つたので、自衞的立場を嚴正に守るわが軍としては一先づ軍事行動を打切ることになりました

滿洲國人の感激 （同上）

銃後に溢れる國民の熱誠は幾多の美談を產んでゐますが、わが軍の辛苦と華々しい活躍に感激した州內の滿洲國人有志三百五十名は零細な金を集めて滿洲號の資金へ獻金方を申し出ました

大國日本の襟度 （同三日）

上海派遣軍司令官白川大將は一方的に戰鬪行動中止の聲明を發して大國日本の襟度を示しました聲明は 日本軍の軍事行動は在留邦人保護のため已むなき手段であつて支那兵を目的通り追拂つたからはその挑戰がない限り戰鬪行動を中止する といふ威嚴と誠意にみちたものでした・

聯盟總會開會 （同上）

上海事件を骨子とする日支紛爭に對する聯盟總會がいよ/\三日ジエネーヴで開かれました

滿洲里に兵變 （同四日）

新國家に歸順したハイラル滿洲里の護路軍約千名は建國匆忙の間隙をねらつて遂に兵變を起し同地の在住邦人は危險に陷つた

二月二十五日發行
發行人　鈴木昇
編輯人　橋本富代治
印刷人　木村武盛
大連市東公園町卅一番地
發行所　株式會社滿洲日報社

滿洲國の熱河肅清に皇軍の協力する理由

武藤軍司令官の宣言書

滿洲建國こゝに一周年、內、庶政革まり、群匪掃蕩され民衆和平に樂しまんとし、外、日滿の親善はいよ／＼敦厚を加へ列國は聯盟の名によつて滿洲國の獨立承認を政治的に回避する傾向あるも、新國家の現實的成立に對しては經濟的において事實上諒解するの已むを得ざる現勢にあり、この秋に方りひとり熱河省の疆域のみ舊態依然として軍閥の跋扈に委し、匪賊また跳梁し、加ふるに北支政權の軍隊紊りに省內に侵入し、今や同地方の住民は苛斂誅求に生色なく、しかも熱河混亂の餘波は全滿民衆の安定を阻害すること尠少にあらず、事態かくのごときを以て今次滿洲國政府はその國軍をして大擧熱河省の肅清を斷行せしむることゝなれり、惟ふに同省が滿洲國の疆域たる事實は同省の地理的位置たる悠久四千年の歷史に鑑み、將また滿洲國建國の宣言に明徵され、寸毫の疑義を挾むべからず、換言すれば今回の事たる滿洲國のため單なる國內問題を解決するに過ぎざるなり、軍は日滿親善の精神に基づき如上滿洲國の崇高至當なる行動に對し、滿腔の贊意を表し、所要の兵力をもつて協同事に當ることゝなれり、從つて軍はその實力行爲を滿洲國領域外に脫逸せしむるが如きは斷じて好まざるところ、しかれども北支政權にして我軍に對し積極的實力行動に出づるが如き場合において、戰禍惹いて北支に及ぶも亦已むを得ざるべきは何人と雖も首肯し得るところにしてその責任の彼に屬すべきも亦もとより當然なり、これを要するに軍の庶幾するところは滿洲國の健全なる發達と、東洋全局の和平にあり、こゝに熱河の事起るにあたり、如上の趣旨を中外に宣明し以て公明正大なる我が關東軍の態度を鮮明ならしむ矣

昭和八年二月二十五日

關東軍司令官　武藤信義

松岡代表

けふ壽府出發

【ジュネーヴ二十四日發】松岡代表は明二十五日ジュネーヴ發歸國の途に就く事となり先づパリに赴く豫定である

皇軍勇躍北票に入城

敵匪千五百算を亂し潰走

【朝陽寺二十二日發】張學良の使嗾に乘つて錦州方面に逆襲せんとする叛徒の機先を制すべく、熱河討伐最初の火蓋を切つて北票に入城した我討匪軍中央攻撃部隊たる第〇〇團長麾下の早川部隊は二十日午後最前線部隊として錦州出發、二十一日午前一時朝陽寺に集結隊伍を整へ、早川主力部隊を中央に右翼平柳枝隊左翼島村枝隊の三手に分れ二十一日拂曉勇躍、北票に向つて一齊に進撃を開始した、朔風吹き荒む朝まだき起伏する丘陵の積雪を蹴つて皇軍將士は元氣一杯で進軍又進軍、島村枝隊の鈴木分隊は早くも南嶺驛を奪還午前八時大凌河南岸に至るや散兵線を布き堅氷を突いて一擧扣北營子に迫る、我軍の一撃に南嶺を放棄して後退した兵匪を合した扣北營子の敵匪約一千の大集團は山上の陣地より迫撃砲、小銃の猛射を以て抵抗する、此間島村枝隊の第一線は第一高地を占據、第二高地に肉薄せんとし、第二線の早川部隊も遲れじと第一高地線上に達するや、敵の攻撃益々激しく先頭に進む水上藤吉一等兵は迫撃砲彈の爆破破片を浴びて蜂窩狀になつて斃れ、最初の尊き犧牲となつて戰死し、他に五名の負傷者を出すや將士の意氣極度に昂る、敵匪は我軍の猛撃に次ぐ猛撃に支へ切れず、午前十一時雪崩を打つて北票方面に退却した、我各部隊は附近一帶の殘匪を掃蕩しつゝ同夜島村枝隊は扣北營子驛に、早川主力部隊は同驛南方に、平柳枝隊は北方の各部落に宿營、二十二日未明錦朝枝線の末端北票に向つて總攻撃を開始し、午前十一時島村枝隊先づ北票に入り、續いて午後一時二十分早川部隊は旭光に映ゆる〇〇旗を先頭に威風堂々入城した、敵匪一千五百は前日扣北營子の一戰に皇軍の威力を初めて知り怖れをなして夜半二時算を亂して北方に潰走したもので、こゝに熱河の一咽喉を完全に占據し、錦朝支線交通確保の目的を達成し住民は歡呼王道善政の陽光に浴した

朝陽附近要圖

北票　扣北營子　朝陽　蜂牛營子　朝陽寺　大凌河　義州　錦州　女兒河　連山　葫蘆島　山海關　秦皇島

日滿國旗雪空高く開魯城頭に飜る

居住民が總出で歡呼

【通遼二十四日發】二十三日通遼を發した茂木部隊の先頭は早くも二十四日正午開魯城東門に達した東門入口には日章旗雪空に高く飜へり、城內各戶には悉く眞新しい滿洲國五色旗が揭げられ、商民は積雪を物ともせず手に手に日滿國旗を打振り老若男女總出で皇軍を歡迎した、商民等の高唱する「日本軍萬歲」「滿洲國萬歲」「王道樂土萬歲」の聲は天地を搖がす、敵匪はこれより先、日滿軍來るとの噂き風を喰つて西方に遁走した

【開魯二十四日發】滿洲國軍は開魯から更に南進を開始した、なほ張海鵬將軍は二十四日正午開魯に入城した、城門には滿洲國旗が揭揚されて居る

討熱作戰軍司令部

行動開始に俄然緊張す

【新京電話】討熱行爲の開始とゝもに新京滿洲國軍政部內に臨時設置された討熱作戰軍司令部は俄然緊張し大多忙を極めてゐるが、早くも討熱軍中隨一の勇猛を謳はれてゐる王永清軍のもの凄い活躍に天を衝く氣勢を示しその歡びは滿ち／＼てゐる

朝陽を目下攻撃中

【錦州廿五日發】二十日以來行動を開始せる鈴木部隊の從屬部隊は目下右左兩翼より朝陽を攻撃中である、敵匪は西北方に逃走した模樣で同地の陷落は目睫に迫つてゐる

【錦州二十五日發】鈴木部隊は二十四日蜂牛營子石門子溝の線に前進したが二十五日午前八時より朝陽東北方地區に陣地を構築して蟠居しつゝある敵匪に對し猛撃を開始し銃砲天地を震駭せしめつゝあり朝陽の陷落近し

皇軍朝陽に入城

【新京特電】關東軍司令部發表＝我飛行機の偵察によればわが騎兵部隊は二十五日午前十一時威風堂々と朝陽に入城せり

毒瓦斯等を學良供給

【綏中二十四日發】張學良は日本軍を斃すためには如何なる手段方法も選ばぬとの決意を爲し、目下西南國境にある孫德荃の第百十九師に對しダムダム彈及び毒瓦斯を供給したとの說がある

陸軍省公報

【東京二十五日發】＝陸軍省公表

一、滿洲國政府はその國軍をして國內治安回復のため大擧熱河省內の肅正を斷行することになつた、關東軍は日滿親善の精神に基き、且つ日滿議定書の示すところに從ひ、同國の崇高、至當且壯烈なる行動に對し滿腔の贊意を表し、こゝに所要の兵力を以て之に協同することになつた

二、關東軍は滿洲國軍と緊密なる連絡を保持し、二月上旬より諸準備に着手し、既にこれを完了し得たので、二十五日を期し各方面一齊に行動を開始し、酷寒を冒し嶮峻なる山地を越え所在の兵匪を驅逐しつゝ熱河省內に進軍中である

三、二月二十一日早川部隊は千餘の敵を擊攘し北票を完全に占據し北票支線を確保した

四、二月二十四日滿洲國軍の一部隊は開魯を急襲占據し吹雪の中に城頭高く新五色旗を飜へした同軍は續いて進軍を繼續してゐる

五、敵軍內部には動搖の兆歷然たるものあり、劉桂堂軍約二萬は二月二十日逸早く反張の通電を發し滿洲國に歸服し今次討伐に參加してゐる、その他各方面に投降し來る部隊多數ある見込み

六、關東軍並びに滿洲國軍の將兵は意氣衝天の概あり、その連絡も頗る圓滿緊密であつて、未だ各方面共敵軍と正面の衝突は見ないが戰はずして既に赫々たる勝利を得てゐる

我代表部に引揚命令

總會經過の公報到着を待つて聯盟脫退手續を執る

【東京二十五日發】二十四日の總會は不幸なる豫定の筋書を辿り、四十二對一で報告書を採擇し、松岡代表は反對宣言を殘し議場を退席し、茲に聯盟と我國は事實的絕緣狀態に入つたので、政府は直に松岡代表にジュネーヴ引揚げを命ずると共に、代表部より總會經過に關する公報の到着するを待ち脫退手續きを進めることになつた、而してその時期は最も有效な時期を選擇する必要あるため、代表部の公報如何によつては松岡代表歸着を待たず脫退通告を發すべく、直に樞府諮詢その他につき外務省及び法制局兩當局間に萬端の準備を完了せしむることになつた

杉村次長歸朝

【ジュネーヴ二十四日發】杉村聯盟事務局次長は本日辭表を提出、三月二十八日發の郵船諏訪丸で歸朝の筈である

滿洲國育成に今後は全力を傾注

我外務某當局の意見

【東京二十五日發】二十四日の總會が報告書を採擇したとの報に外務省の某當局は非公式に左の如く語つた

これで聯盟は完全に極東問題に對し無理解不誠意なることを暴露した、聯盟各國は歐洲の政情不安に目が眩み日本の公正なる主張に耳を傾くるの熱心と公平な心情を缺いてゐるのである、かゝる歐洲本位の聯盟各國により、これ以上我々の死活問題たる滿洲問題を論議されることは我々として絕對に容認し得ない我々はこの上は滿洲國の育成に全力を傾注するのみである、聯盟としては思ふところまで行つたのだから滿足だらう、たゞそれが聯盟自身の墓穴を掘る所以なることに氣づかざる點は憫まざるを得ない、日本としては煩雜な聯盟から離れることが出來て寧ろ滿足である

諮問委員會

けふ第一回會議

【ジュネーヴ二十四日發】今日の總會で設置された二十一國諮問委員會の機構は未だ明確を缺くが、要するに十九國委員會の變形で、總會の繼續委員會として日支事件の推移を監視するものだ、委員會は二十五日第一回會議を開き米露招請問題その他につき協議する筈

わが陳述書提出

東京ではあす公表

【ジュネーヴ二十五日發】我代表部では二十五日全文二十數頁に亘る長文の陳述書を聯盟に提出する事に決した、右陳述書の發表は二十六日東京でも同時に公表される豫定である

その夜の外務省

人氣なく靜寂

【東京二十五日發】日本を踏みつけにした報告書が四十二對一で採擇された、その第一報が入つた二十四日午後十時の外務省は、まるで伽藍堂で興奮などいふ氣配はない、內田外相は午後六時頃さつさと退廳し有田次官は家族に不幸があつて私邸に歸り、谷亞細亞局長白鳥情報部長等は此の夜、三月一日ドイツに赴任する永井大使の送別會が東京會館に行はれたので、それに出席し、外務省に立ち寄らず、情報部筒井課長が午後九時半頃倉皇として外務省に現れたばかりで四十二票對一票も豫定の行動と許り外務省內は靜寂そのものだ

滿鐵社員會幹事

けふ選擧開票の結果

滿鐵社員會の八年度幹事長および全評議員互選による幹事二十四名の選擧開票は二十五日午前十時、社員會事務所において粟屋選擧長代理、里村英夫、塚原懿智三、落合兼行四氏立會の下に開票されたが、有權者四百九十八名（缺員七票）中有效投票四六一票にて、幹事長には豫期されたごとく伊藤審査役が絕對多數にて當選した

幹事長

當選　四五三票　伊藤武雄（審査役）

次點　三票　北條秀一（經濟調査會）

他に一票づゝ二名

幹事當選者（△印は新當選）

二三三票△上田竹槌（鞍山驛）
二一一票△田中幸英（四平街驛）
二〇票△武智幸廣（安東驛）
一七票　武田嵐雄（營口地方事務所）
一六票　渡邊柳一郎（鐵道部）
一五票△有光清（蘇家屯驛）
一五票△森景樹（公主嶺地方事務所）
一五票　直塚芳夫（大連機關區）
一五票　曾田正彥（總務部文書課）
一四票　鎌田正顯（奉天驛）
一四票△七田積（大連鐵道事務所）
一三票△松本重平（撫順炭礦庶務課）
一三票△兼安長右衞門（撫順經理課）
一三票　篠原豐三郎（鐵道工場庶務課）
一三票　藤井萬（撫順古城子採炭所）
一三票　塚原懿智三（鐵道新線建設本部）
一三票　田崎淺次郎（撫順炭礦製油工場）
一三票　種村吉衞（大連檢車區）
一三票　川上榮五郎（撫順老虎臺採炭所）
一二票△長井次郎（鞍山製鐵所庶務）
一二票△落合兼行（鐵道部電氣課）
一一票△一萬田七郎（埠頭築港區）
九票　河端長吉（新京機關區）
九票△高木彌一（埠頭事務所）

社告

熱河方面の風雲俄然急なるものあり本月二十一日未明、奉山線北票支線附近における彼我の壯烈なる衝突を契機として、戰局漸次發展の形勢となつたにつき、本社は取敢ず左記七名の記者並に寫眞班員を特派從軍せしめたが、右は何れも既に前線に到着し、夫々各部署に就いて活躍中である。本社はなほ戰局擴大に伴ひて、引續き特派員を現地に送ると共に、一方關係各地における支社、支局その他あらゆる通信網を總動員して、廣大なる各戰線に亘る各種の狀況並に正義公道に基づく日滿兩國軍の壯烈なる行動を、記事に、寫眞に細大洩らさず敏速且つ正確に報道すべく、既に各般の準備を整へた。今日以後の紙上は爲めに一段の精彩を放つであらう、期して刮目せられんことを望む。

二月二十五日

滿洲日報社

本社特派員

記者　五百旗頭佐一
記者　島田一男
記者　板屋猛
記者　立上武三
記者　白石紫雄
記者　山代丈二
寫眞班　山口晴康

蛇角

◇一昨年の十三對一が今年は四十二對一になつた。

◇邪惡の票數增して、正義の一票ます／＼光彩を加ふ。

◇聯盟が自殺の豫告をなした、いはく「死にたい」（四二タイ）とは如何です。

◇勸告の本體は「支那國際管理」の通告だ、と松岡代表峻烈。

◇小便をブッかけられつゝ、ガア／＼喜んで居る「支那蛙」の醜態を諷し得て妙々。

◇熱河方面、果然爆發！

◇「無力聯盟」、「實力日滿」、それを立證する秋は來れり。

號外發行

本社は聯盟總會並びに熱河討伐に關し二十五日前後四回に亘り本紙不再錄號外を發行す

人事

▲小川順之助氏（大連市長）廿五日午前八時大連着列車にて歸連
▲山邊一郎氏（大阪商船旅客係主任）同上
▲龜岡精二氏（四洮鐵路顧問）同來連
▲青木信一氏（新京鐵道事務所長）同上
▲古川達四郎氏（奉天鐵道事務所長）同午前七時大連着列車にて來連
▲久保孚氏（滿鐵撫順炭礦長）廿五日午前鳩にて歸撫
▲江崎重吉氏（大連鐵道事務所長）同上大石橋へ
▲浦島榮吉氏（國際運輸營口支店長）廿五日午前八時列車にて着連ヤマトホテルへ

支那代表愕く

シャムの棄權に

【ジュネーヴ二十四日發】本日總會における報告案採擇の際の情景は劇的であつた、支那代表顏惠慶は日本以外は皆贊成と見込みをつけ、指名點呼の進むにつれ、支那代表附近のスペイン代表マダリアガ氏、アイルランド代表レスター氏等を顧みつゝ議場に似合はぬ不作法な笑ひを泛べてゐたが、三十五番目のシャムの名前が呼び上げられるや、シャム代表デヴァイルア氏は明晰な聲で「アブスタンション（棄權）」と叫んだ時は、顏代表はぎよつとしてその方角を睨み一種の動搖を惹き起した

東天紅（5）

田中純作　林一三畫

ライラックの夜（五）

「それで、君は今、何處に住んでゐるんです。鎌倉ですか？」と、神田康造が訊いた。

「えゝ。尤も、鎌倉には今夜着いたばかりですが」

「それで、當分こちらにゐるつもりなんですか」

「解りませんね。氣が向けば、明日にも何處かへ行くかも知れませんから」

「しかし、それでは、當てにならないね。野球は今度の土曜にあるのだから」

別の男が言つた。

「いや、それだけは大丈夫です。折角、久しぶりに野球が出來るんですもの。それまでは、どんな事があつても鎌倉に居りますから」

「それでは、兎に角、土曜日にはこの人に——相良君と言ひましたかれ。相良君に野球場まで來て貰ふことにしようか」

「うむ。さうしよう」

「では、おい、お光ちゃん」と、神田は、先刻からの女給に聲をかけた「この人の盃をこつちへ持つて來て呉れ給へ。一緒に飮むから」

「では、お會計も御一緒で好いんでせう？」

お光は、ちよつと安心したやうに言つた。

「無論さ」

「けち／＼するない」

「では、吾等の新投手のために乾盃しよう」

「ブラボウ！」

「ブラボウ！」

乾盃が濟むと、一座は急に陽氣になつて來た。

「それで、相良君は今まで、ずつと關西にゐらしたのですか」

その賑やかな酒盃の交歡の中で神田がまた訊いた。

「ええ、いえ、今から一週間前には、まだ上海にゐました」

「上海に？ほう、それはまた面白いところにゐらしたのですね。上海では御商賣ですか？」

「ええ、まア、商賣と言へば商賣ですが——國際的な自由勞働者とでも言ひますかね。ホテルのボーイから、ダンスホールのクラリオネット吹き、淫賣宿の客引きまでやりましたからね」

「はッ、はッ。それで、鎌倉に來れば早速投手業ですか」

「えゝ。僕は、何でもやりますし何處へでも行きますよ。三年ばかり前には、しばらく馬來半島の方をぶらついて見ましたが、あれも面白かつたです」

「その時は何をしてゐらしたのです？」

「ゴム園でも働きましたし、日本の運動具屋の番頭みたいなこともしましたし、一時は、サーカスの道化役にもなりましたし……」

「驚いた人だね」

神田が、さう言つて、愉快さうな聲を擧げた時には、同じ卓子の仲間ばかりでなく、そばに立つて居る女給たちまでが、興味と好奇心とに充ちた目で、この不思議な青年を見つめてゐた。

實際、彼には、さう聞いて見ると、何處かに浮浪者らしい樣子があつた。その日燒けのした額や、節立つた指や、赤茶けた背廣服や汗じみたネクタイや——それらのすべてに貧困と勞苦と疲れの跡がにじみ出て居るのであつたが、それにも拘らず、彼の動作や、言葉や、顏つきには、不思議な朗かさや、健康さや、人懷こさが溢れて居る。彼に、墮落の跡は微塵も殘つてゐないのだ。

「面白い人だわ、この人」

さう思つたのは、先刻から、そばでじつと彼の顏を見つめて居るお光ばかりではなかつた。

名譽の北票一番乘り 裝甲單車決死隊

彈丸の如く驀進する

【北票二十二日發】我早川部隊が熱河省内敵匪掃蕩の幕を切つて落すや之れが先頭の名譽を負うた者は鐵道突擊隊富田〇隊の兒玉大尉が指揮する水間中尉以下〇〇名の**決死隊員が搭乘する裝甲單車で廿一日午前五時半朝陽寺驛發車**目にも止らぬ早業で途中破壞線路を修理しつゝ**午前八時南嶺驛を占領**速度を早め橋礎の破壞された大凌河鐵橋を大冒險で突破、次いで群がる敵匪の彈雨をくゞつて扣北營子驛を無停車で驀進、一路北進して北票驛五百米に肉薄したが敵の死物狂ひの猛射を浴び遂に敵彈は裝甲單車の鐵板を貫いて**小淵軍曹は背部に盲貫銃創を**負ふに至り勇士は北票を目前に見つゝ涙を呑んで午後六時扣北營子驛に引返した、明くれば二十二日午前七時今度こそはと再度の攻擊に進發長驅北票驛に迫り逃げ遲れた匪兵を掃蕩して**午前八時北票一番乘りとして凱歌を揚げて入城**すれば續く富田本部裝甲列車も來着、**驛頭高く日滿國旗をひるがへした**北票に頑張つて居た敵匪は前日の大膽不敵な裝甲單車の突擊に怖れて北方に總退却をしたので我軍の入驛するや奉山線警務局員を始め北票市民は豫て用意されてあつたと見え**滿洲國旗を押立てゝ歡迎し**水間中尉以下〇〇勇士の榮を飾つた

殊勳の小淵軍曹

【北票二十二日發】北票に一番乘りの裝甲單車に搭乘不幸敵彈の爲め背部盲貫銃創を受け生死を氣遣はれつゝある小淵信太郎軍曹は二十一日午後三時半全軍が敵の猛射を浴びつゝ北票驛前一千米の地點に近づくや敵は地形を利用し機關車を逆落しにして我裝甲單車を破壞せんとする模樣あり水間中尉の命令の下に金子上等兵を從へ大膽にも敵彈雨と降る中を五十米位宛前方に走りながら交替に脫線機をつけ外しつゝ裝甲單車を前進せしめ遂に北票驛前五百米に迄達せしめたが敵の猛射愈々加はり水間中尉は危險と見て兩人に乘車を命じ敵の猛射に裝甲車中より機關銃を以て應射せんとした際不幸敵の一彈は裝甲車の鐵板を貫ぬき軍曹の背部を見舞つたものでその沈着大膽な行動は驚嘆されて居る

彈雨を潜つて北票へ 裝甲單車に便乘して

【北票二十二日發】二十二日午前零時、朝陽寺構内に横はるグロテスクな怪物——兒玉大尉、水間中尉以下決死の鐵道突擊隊〇〇名を乘せた富田〇隊の先驅裝甲單車は北票支線に對する逆匪の頻々たる妨害を默過し難く

破壞　二十一日深夜愈々石本氏拉致事件の根據をさせぬ北票支線の交通線確保に必要な手段に出ると聞いた余（帆足國通記者）は第一目標、北票一番乘を敢行すべく急遽朝陽寺に馳せつけ隊長の諒解の下に怪物裝甲單車に便乘した、深夜の曠野、寒さが凍てついた鐵板を通してひし〳〵と身に迫る、揮發油の臭のしみた狹い裝甲車の中に身を縮めて凍つて感覺の無くなつた足をやけに踏鳴らしがたがた震ふ齒をかみしめながら發車を待つ「出動」兒玉大尉の命令一下午前五時三手に分れて北票に向つて行動を起した早川部隊の焚き殘した篝火が所々に燃る中を貫いて余等の便乘せる鐵路の

怪物　は動き始めた、連結裝甲單車二臺先頭には水間中尉搭乘後車は兒玉大尉指揮し富田〇隊本部を乘せた修理列車これに續く、雪明りに蒼白く光る二條のレールの上を轟々と響を立て乍ら一路逆匪の第一線南嶺へ、夜が白々と明ける、鐵路西側に處々地肌を見せた雪の丘陵が續く、楊の疎林が見える枯淡な然し親み深い熱河風景だ、六時半裝甲單車がピタリと止まつた最初の敵の鐵道破壞箇所だ、小さい橋梁の枕木四本が無殘にも燒棄てられてゐる「素破！」と修理班が飛び降りる、エンサ〳〵と枕木を並べる、鹿足挺で持ち上げる、ハンマーで

犬釘　を打つ、軌間定規を當てる、眼にもとまらぬ早業だ、忽ち修理を了し裝甲車はぐん〳〵進行する、南嶺驛に五百米の地點から三ケ所或はレールを取外され、枕木を燒かれ犬釘を拔かれ、滅茶々々に破壞されてゐる、先驅裝甲列車は枕木のない地面にいきなりレールを並べ狹路で止めてよろけ乍ら危險を冒して敵匪の第一線目がけて進二無二前進する、あとは修理列車の仕事だ、敵匪の第一線南嶺の南方七百米、流石に隊長以下緊張の色を見せる、だが南嶺方面は水を打つたやうに靜まりかへつてゐる、人の善さそうなお百姓達が悠々と野良に働いてゐる、牛や豚がのろ〳〵と餌をあさつてゐる、暢やかな場面だ、水間中尉は部下を率ゐて下車

敵情　視察に向ふ、南嶺驛には敵匪は一兵も居ない、鄭副驛長の話で敵兵匪數百は二十一日午前五時早くも扣北營子方面に退却したとが判明した、だが南嶺驛に至る六百米の間鐵道軌條も枕木も無い電線も電柱も南嶺南方一里の間一本もない無殘さだ、已むなく兒玉大尉以下全員徒步で南嶺驛に向ひ戰はずして午前八時半南嶺驛を占據、續いて九時十五分北票攻擊左翼部隊島村枝隊の鈴木部隊が南嶺驛に入る、南嶺の村長許德香氏がわざ〳〵自身で驛に我軍を向へ自分等は日本軍を心から歡迎する、昨年十月以來北票支線の杜絶で我々は苦しみ拔いてゐる、何卒我等

住民　のため貴軍の手に依つて同鐵道の治安を維持され度し、然らば我等の感激はこれに過ぐるものなしと嘆願する處あつた、許村長の語るところに依ると六百米の枕木と一里の電信柱は昨年來兵匪がこの村から徵發したといふのだ、これには呆れもし彼の日本軍歡迎がお世辭でない所以が肯かれた、面白いのは驛員達で驛長以下兵匪の下にありながらこつそり錦州に出張しては滿洲國奉山鐵路局の給料を受取つて居たと云ふのである、心配された南嶺北方のトンネルは無事と判つた、修理班の必死的努力で破壞された六百米の修理も間もなく成つた、午前十一時十分裝甲單車は南嶺驛に入り同三十五分同驛發前陣扣北營子に向ふ、

大膽、鐵橋を突破し 脫線機を仕掛け前進

扣北營子の手前は破壞を傳へられた大凌河の鐵橋だ、扣北營子驛側より五本目の橋脚が爆彈で五ケ所穴を開けられてゐる「これ位なら」と大膽不敵に押し切つて徐行遂に同鐵橋を渡り午後零時半、扣北營子に入る、同驛は既に島村枝隊の手で占領されてゐた、息もつかず直に

勇躍　一擧北票に向ふ、扣北營子北方三十七哩の地點に至るや前方丘陵上より突如現れた數百の兵匪の猛射を受け我軍は直に機關銃を以て應戰しつゝ午後二時給水のため一先づ扣北營子驛に後退同二時半再び同驛を發したが早川部隊の前進と共に敵は漸次後退の模樣に一氣に駱駝營子驛を突破、猛然北票に向つて突入、午後三時半北票驛を認め將士意氣彌や昂り勇躍前進する北票驛前一千メートルの地點に達するや驛兩側堆土の蔭から灰色の服を着た約千五百の兵匪矢庭に亂射を浴せ來る、我裝甲車は直に機關銃を以て應戰、彼我の間に物凄い火戰の幕は切つて落された

激戰　の中にも敵が急坂を利用し機關車を逆落しに突放す樣子あるを目ざとく認めた裝甲車は脫線機を仕掛け乍ら驀進又驀進中午後四時十八分突如砲塔の機關銃を射ち續けてゐた小淵軍曹が「やられました」と叫びながらばつたり斃れたと見ると座席は眞紅の鮮血の海だ、敵彈が裝甲車の鐵板を射ち拔いて軍曹の胸部を貫いたのだ、瀕死の重傷だ、今はこれまでと水間中尉は悲痛の面持ちで後進を命じ北票驛を眼前に見つゝ恨みを呑んで全速力で扣北營子に引返す、小淵軍曹は折柄大凌河鐵橋應急修理の枕木サンドルを組む修理班の松明が氷結した凌河の河面を眞赤に照し出した中を

擔架　に乘せられて後方修理列車に送られた、かくて恨みを呑んで同夜は同じくこの日扣北營子の戰鬪で戰死一、重傷五を出した島村枝隊と共に扣北營子に宿營した

北票驛頭に萬歲を絶叫

商務總會代表が歡迎

明くれば二十二日小淵軍曹を失つた裝甲單車は今日こそは全員斃れるとも北票に入らずんば止まずと復讐の意氣物凄く午前七時五分扣北營子發全速力を以つて一擧北票驛に

突入　した驛前方に至るや突如滿洲國旗を掲げた一隊が現れた、何事ぞと急停車して質せば奉山鐵路局員が我軍歡迎のため出迎へたのだと言ふ、千五百の敵は昨日我軍の不敵な北票驛突入に怖れをなし二十二日午前二時悉く北方に潰走したと云ふのである、そこで全速力を驅げて北票驛に進入、午前八時水間中尉を先頭に兒玉大尉以下北票驛に降り立つ、北票一番乘りだ、續いて五分遲れて富田〇隊長搭乘の裝甲列車も堂々ホームに入り驛頭高くスル〳〵と大日章旗が揚げられ萬歲の聲は天地を搖がす、富田〇隊長は出迎への奉山鐵路局北票警務長曾慶連氏の先導で先づ警務局に赴いた、警務局の

正門　には早くも日章旗と五色旗が掲げられてゐる、此處で富田隊長は約二十名の商務總會代表の歡迎の挨拶を受けこれに對し隊長は日本軍は平和の擾亂者に對しては秋毫も假借せぬが何等他に意なきを以つて安んじてその業に努められたいと旨を述べ、續いて曾氏案內で北票炭坑事務所を視察同所の藏前出身の周君は流暢な日本語で兵匪の鐵道破壞により同炭坑が休業の已むなきに至つた經過を詳述、日本軍の入城によつて我等は初めて蘇生の思ひをなしたと滿腔の感謝の意を表した、斯くて驛に引き返す、驛頭には初めての日本軍を見んものと北票

市民　が蝟集して居る、それ等の瞳は何れも人なつこい親みの瞳ではある、赤煉瓦の美しい北票の街を眼下に瞰下しながら北票一番乘りの殊勳者水間中尉は裝甲單車に同乘共に彈雨を潜り死線を越えて北票の新聞記者としての最初の第一歩を印した余の肩をたゝいて左の一句を示した

闇の鐵路を裝甲列車は走る捧げし命皆乘せて

熱河討伐の我決死隊

【上圖】朝陽寺に於ける我決死隊【下圖】北票一番乘りを敢行した裝甲單車【山口特派員撮影】

凍る月光を浴びて 勇躍する早川部隊

軍旗の前方をすゝむ我從軍記者團の一行

【南嶺にて五百旗頭特派員二十一日發】奉山線北票支線の運行保全と修理掩護のため同線一帶に蟠居する匪賊を一掃すべくわが早川部隊の主力は二月〇〇日午後九時錦州發の

軍用　列車で一路朝陽寺に急行した、翌日午前一時朝陽寺驛着直に軍馬その他の積卸しを完了し出發までの小閑を得た勇士達はそれ〴〵驛前の廣場に六、七箇所の圓陣を作つて篝火をたいた、沁み入るやうな冬の中天に篝火が赤々と燃えたつ有樣は全くの陣中風景だ、嵐の前の靜けさ、篝火を圍む東北緣の勇士の會話は極めて朗かだ、その間早川部隊長は驛司令部室に幕僚を集め直に幹部の軍事作戰會議を開いたが、これよりさき早川部隊の島村支隊は既に〇〇日午後十時に朝陽寺を發し翌日未明には

南嶺　に在つた約二百の匪賊を擊退し、更に前進をつゞけた、幹部會議も終り作戰全く成つた早川部隊はここに非常な確信を持ち〇〇隊を先頭に一路奉山線の炭都北票支線の終點北票までを強行軍と決定〇軍旗を擁へした本隊が驛を離れた時は上弦の月が山の端に殘つた午前五時二十分、ここに熱河掃蕩の最初の大部隊の行進が開始されたのであつた、從軍記者の一團は軍旗の前方に一團となつて進んだが凍てつく殘雪の熱河への道は二月末とは言ひながら零下まさに二十五度僅かに現した口の吐息が白く外套の襟に雪となつて凍てつく雪に包まれた

顏と　顏の進軍だ朝陽寺から北票への道それは四方を山に圍まれた盆地を進む緩かな上り道であるが、午前八時までには第一目的地に着くべく本隊の行進は急である團旗を先頭とした修理列車の點燈を右に見る北票支線のガードを拔け河に沿つて進むこと十里上りの道は漸く急となる陽は既に東天に登り一行の元氣はます〳〵旺盛、ただ從軍記者團の足並には既に相當の苦痛を見ることが出來た沿道の開墾は全く成り道端にポツリ〳〵と並ぶ土壁の百姓家はさして貧しさを思はせず皇軍の行進を見送る、午前七時四十分遂に本隊は南嶺驛を前方にする高地に到着この時一臺の飛行機は通信筒を投じて南方に去つた、前方の匪賊狀況の報告である

高地　に達して少憩すれば山の彼方から飛行機の爆擊と大砲の音が連續的に聞えてくる、即ち飛行隊の扣北營子の攻擊であつたのだ、氣遣はれた驛子營子の附近大凌河谷にも敵兵なく、扣北營子の陣地にも敵兵は既に影を潛めてゐたが、敵兵近しと知つた早川部隊はその丘に少憩後元氣更に百倍非常な緊張の裡に出發し遂に北票を突進したのであつた

扣北營子の戰死傷者

【錦州二十四日發】二十一日扣北營子附近における戰鬪における早川部隊の戰死傷者左の如し

戰死、二等兵　飛澤義男
右上膊砲彈破片傷
重傷、一等兵　川崎留三
右上膊及左中指砲彈破片傷
上等兵　都島長作
肺部左肩砲彈破片傷
二等兵　大弓貫吉
肺部砲彈破片傷
特務曹長　高橋鶴二
左膝下砲彈破片傷

關東廳警察機けふ命名式

周水子飛行場で擧行

今回新設せられた關東廳航空警察班の拔群および日滿人の獻金によつて出來上つた警察機タイガー・モス及びフォックス・モス兩機は名も相應しい隼、白鷺と決定、二十五日午前十時半から周水子飛行場に於て林關東廳警務局長、加藤航空官、各警察關係及び滿大官民多數參列の上盛大なる命名披露式を擧行、引續き兩機の試驗飛行に移り隼機まづ場の北端より滑走し見事離陸するや期せずして拍手歡聲起り春光に銀翼を輝かせつゝ約十分間に亘つて場の上空を旋回飛翔しかくて無事飛行を終り正午より關係者一同を市內扇芳亭に招致披露宴を張つた（寫眞は林警務局長の命名式）

御會葬御禮
男 井坂馨
親戚 一同

三女利子儀二十一歲豫て病氣療養中の處昨二十四日午後七時十分遂に永眠致しましたに付平素御懇情を賜はりたる御方樣に謹告し且つ生前の御禮を申上ます
追而明二十六日午後三時譚家屯產業敎育場に於て葬儀執行致します
昭和八年二月二十五日
父 藤根壽吉
母 　　八重

家庭

滿洲國熱河省 ㊆ 林西東南の烏丹城

林西の東南八十キロのところに烏丹城がある、そこには今から凡そ八百年程前滿洲に興つた遼金時代の古城趾といはれ當時を物語る古碑があり、人口凡そ四千、原始的な蒙古市が毎月定期にあつて名高い

これは思ひつき お庭に鳥の巣箱
空箱や竹筒、空鑵を利用して 立派に家庭で出來る

滿洲 では何處の造林地を見ても大なり小なり松毛蟲の害を蒙つてゐないところはない位松毛蟲の發生が夥しく關東廳や滿鐵でもこの松毛蟲の驅除には百方手を盡してゐますが未だに思はしい成績を見ないやうです、滿鐵農務課では數年來これに就て種々研究した結果歐米諸國や日本内地で森林地や農作地の害蟲を驅除するために巣箱を設けて鳥類の繁殖を計つてゐる例に倣ひ、近く滿鐵關係の造林地、公園、庭園、苗圃、果樹園等に巣箱を設置して鳥類の

增殖 を計り松毛蟲ばかりでなく一般農作物の害蟲をも驅除しようといふことになりました、ところで滿洲に於て害蟲驅除に最も有効な鳥の種類、巣箱の構造、設置場所等に就ては既に熊岳城農事試驗場あたりで充分實地に研究されてゐますので農務課では「今度こそ大丈夫」と大變な意氣込みです、今滿洲で一番多く巣箱を利用するだらうと豫想されてゐるのは四十雀、椋鳥、雀などで五十雀、ツグミ、ヒタキ、啄木鳥類ミミヅク、梟等も相當巣くふだらうとの見込です

巣箱 として最も理想的なのは空洞のある丸太で、丸太を適當に切つてくり抜いたもの、樹皮をくみ合せたもの、空箱、竹筒、空鑵なども鳥の種類と拵へ方によつては立派に巣箱に役立つさうです、梟、みみづく等はちよつとむづかしいが燕、四十雀、五十雀位のものでしたら庭園の廣い庭木の多い家なら個人的に巣箱を設置して繁殖を計るのも面白いでせう、殊に燕などはどんな人家稠密の所でも巣箱や巣臺さへあれば巣くふ鳥ですし、毎日營々と蟲を求めて働き一羽の燕で一日に數百の蟲を捕へるさうですから個々の家でひさしの下にでも

巣臺 を拵へてやれば可愛い勤勉な小鳥や雛の姿になぐさめられた上に全滿洲の樹木や農作物の上に大きな益をもたらす事になりませう

半襟
うすく明るく 日本趣味の復活は刺繍のうへに歴然

▼…厚ぼつたい毛皮やウール地一の襟巻がされて、重苦しいコートが脱ぎすてられて、あでやかな女のきものが巷ににほふ頃になると半襟の色合や柄が俄然大きな美的價値をもつて來ます

▼…昨年の秋あたりから段々薄くなつて來た色合ははがらかな春を迎へやうとしていよく薄く明るくなつて來ました、日本趣味の復活は刺繍の上に飛躍的な進境を見せて平縫だけでなく渋いすがぬひやけしぬひで櫻、たんぽゝ、柳藤、牡丹、れんげ、土筆、すみればら、すゞらん、チューリップ等に蝶や花籠、流水、笙、鼓、小鳥まん幕、春霞などをあしらつて美しくも長閑な春景色をほうふつさせます

▼…若向にはクリーム、青磁、淡紅、鳩羽系の極端に薄い地色に柄も一般に大柄の圖案風のものが好まれ、中年以後には薄水色や青磁の錆のある地色にぬひも小模樣の上品なもの、老年向には依然鼠系が優勢です、生地は上物には古渓、普通品は縮紗地が多く金銀糸の使用は矢張り廢りません、殊に中年以上の方に金銀の平糸一式の刺繍が現れたのも古代趣味の復活でせう

▼…大島や綿物の下に昔ながらはやり廢りのない絞り襟と並んで春霞や色々の模樣をほのかに織出した織り模樣の半襟も不斷襟として相當この春の人氣をヒットするでせう、一方人絹物の進出もめざましくベンベルグものなど組織に染色に刺繍に一見正絹物に劣らない優秀なものも澤山出て來ました暮れあたりには相當先高を憂慮された半襟も呉服界と同樣一先づ落着いて刺繍襟は正絹物で一圓二三十錢から七八圓、人絹五十錢より一圓三十錢見當、無地物は正絹五十錢から三圓、人絹二十錢から四五十錢まで四田絞や織模樣の半襟は四十錢から二圓七八十錢見當です（寫眞は今春を飾るべき刺繍と織模樣の半襟＝今中洋行調べ）

家庭顧問

鼻が低いので惱む年頃の女

【問】二十二歳の女、鼻が低いので惱んでゐます、思ひ切つて隆鼻術を受けたいと思ひますがどんな方法がよいでせうか、又大連でうまくなほしてくれる病院がありませうか（花子）

隆鼻術は不自然になり勝ちです

【答】鼻にパラフィンを注射して高くする方法と象牙或は牛骨を入れて高くするのと、自分の骨（主に脛骨）を入れる方法とが行はれてゐます。パラフィンは傷もつかず最も簡單ですが二三年も經つとパラフィンが固まつて團子が出來手術前より遙かに見苦しい鼻になりますからお勸め出來ません大連醫院では象牙を入れてゐますが割合に簡單で比較的成績もよいやうです、但し隆鼻術などといふものは餘程鼻の低い人でもない限り却て不自然な形になり勝ちですから御注意なさい（唐澤準吉）

腦溢血に灸治はよいものか

【問】腦溢血に罹り只今は醫師の指導により電氣マッサーヂの治療を受けて居りますが、多數の人から灸治を勸められてゐます。效力のあるものでせうか？又電氣マッサーヂとどちらがよいでせうか？併せて適當な手當法御教示願ひます（一愛讀者）

害はないが精神の安靜が最も大切

【答】腦溢血は腦の中樞の病氣ですから電氣マッサーヂや灸のやうに末梢神經を刺戟しても急に效果はあげられません。殊に灸は個人によつて效果が違ひますが別に害にはなりませんから試みられても差支へありません。しかし精神の安靜を保つことは最も大切ですから家族や看護の者も常に同情を以て患者をいたはることが特に肝要です【土井三郎】

ミツタンとポンコン
センソウノマキ
(28) 橋本清史案並繪

フネガミエマスヨ
ドレカシテゴラン

「フネガ、ミエル、フネガ、ミエル」トポンコガ、マタ、サケビマス。「ドレドレ」ミツタンハポンコカラメガネテ、ウケトリマシタ。

ミエルデセウ
ウーム〇〇コクノハタガミエル ウーム

ジットミテキタミツタンハ、ウナリダシマシタ。〇〇コクノハタガタシカニミエマス。「ミエルデセウ」トポンコガ、ウシロカラ、セキタテマス。

バクダン
ミツタンコイツヲ一ツドカント…ユカイダナ

モウ、ポンコハバクダンチ、カツギダシマシタ。「コイツチドカントヤツタラ」トポンコハ、ウレシガツテキマス。「ミツタンハヤク、ヤリマセウ」

シヨウセンデモカマワナイデミヨ
ポンコダメダヨ〇〇コクノシヨウセンダカラ

ミツタンハ、アワテヽ、ポンコチトメマシタ。〇〇コクノフネダケレドモシヨウセンハグワイコクトノヤクソクデシズメルコトハデキマセンポンコハザンネンサウデス

現代女性は如何に生くべき？ …（三）…
滿洲新女性社主催の 女性生活座談會

バースコントロール

A、可とする説……優生學的立場からも粗製濫造は禁物、數少く產んでよく育つべきだ。又現代では五人も六人もの子供を產んでこれに一通りの教育を受けさせることの出來る家庭はごく少い。多產の結果は經濟的に苦しくなるばかりでなく出產と過勞の爲に妻は早く老い衰へてしまふ。子供にばかり手をとられて早く老衰へて行く妻は夫にとつては決して有難くないだらう。日本の女性は特にお產のために衰へ易いやうだが一つには多產のせゐであらう。妻の健康のために、家庭生活、夫婦生活を樂しくするために或程度のバースコントロールは必要である。特に職業に携はつてゐる妻は社會的にも家庭的にも產兒制限の必要がある。バースコントロールは今日世界の大勢で「產めよ、殖えよ」の基督教會でさへ今日ではほとんどこれを認めてゐる食物を食べすぎておなかをこわさない用心と同樣に、子供を產みすぎてあとで困らぬやう豫め用心する事は最も賢明な策である。但しその方法に就ては充分愼重な態度が必要である。

B、否とする説……民族發展を促す最も有力なものは民族の數的增加である。今や我國は全世界を向ふに廻して戰はねばならぬかも知れない非常時に際會してゐるから產める者はどんどん產んでほしい。貧乏人は兎も角、經濟的に困らぬ者が自己の享樂や容色の爲に出產を避けようとするのは以ての外だ。自分の體は犧牲にしても悔いないといふのが母心の常である。報酬を望まない没我的な愛があつてこそ子供はよく育つのだ。近年若い者の間に特にBC問題が研究されてゐるやうだが、これは徒らに享樂的氣分を助長するやうなものだ。現にアメリカでは女子大學の學生時代にBCの知識を充分與へられるのでその結果貞操觀念が非常に薄くなり接吻さへ性交とほとんど同じ程度に考へる傾向さへあると聞く、一般に若い間は子供の騒ぐのを望むが歳をとつて來ると子供は一人でも多い方が樂しみになるものだ。別に制限せずとも神から與へられる子寶は尠い。多く產みしかもそれを皆立派に育て上げることは女性の國家に對する最大の奉仕である。もつとも現下のやうな非常時にあたつて民族發展の立場から多產を奬勵するとすれば、子供を產んでも育て得られないやうな貧乏人にとつては完全な母子扶助法といふやうなものが實施されて、世の母が安心して子供を產み育て、國家社會の爲にさゝげ得るやう國家がこれを保障すべきであらう……

家庭人として更に修練を
羽衣高女校長談

良妻賢母をモットーとし實際的な家庭婦人の完成を以て在滿女學校の一異色とされてゐる羽衣高女では近く四十名の第二回卒業生を送り出すことになつてゐるが、上級學校志望者は一名もなく職業戰線に乘り出すものも僅か數名に過ぎないこれについて岡内校長は語る

近來內地の權威ある女學校でも學術中心主義から家政教育中心に轉向せんとする趨勢にあるのは社會實際の要求に應じたものといふべきでせう、私の學校では卒業から結婚までの僅かな期間をやゝもすれば危險の伴ひ易い職業陣に乘り出すよりも寧ろ事情がゆるされるなら堅實な良家の家庭へ家事見習として住みこむことを薦めてゐますので本年の卒業生中にも既に二三名の志望者が決定し、殘りのものもそれぞれの家庭内に留まつて家庭婦人として更に修練をすることになつてゐます

滿日各地版

日滿教育聯合會は愈けふ發會式 新京高女講堂で擧行

【新京】既報新京日滿教育聯合會について日滿兩國側に於て計畫準備を進めてゐたが日本側にては去る二十二日午後三時半より新京高等女學校講堂に於て臨時總會を開催會長に金特別市長、副會長荒木地方事務所長、名譽顧問に鄭國務總理武藤全權大使を戴き日滿知名士を顧問に推して愈々「日滿國の和衷協力は先づ教育から」をスローガンとして日滿の提携に奮起することになり來る二十六日午前九時より高等女學校講堂に於て盛大なる發會式を擧行する

各團體合同して盛大な催し 大石橋滿洲街の祝賀

【大石橋】大石橋滿洲街を中心として營口縣海城縣蓋平縣各村邑民は來る三月一日建國一周年記念日當日精神的に意義深く

慶祝の 意を表すべく慶々協議中なりしが第二區委員長孫滿延は村會を招集して計畫案に就き審議を重ぬると共に協和會大石橋辦事處の指導下に最も理想的方法に依り當日を記念する事となつた之に關し日本側に於ては隣邦友朋國の盛儀に對し絶大なる祝意を表すると共に援助方に關し地方有志の會合を爲した、なほ大石橋小學校に於ては當日歡喜に滿ちたる小國民なる學生達に對し

滿腔の 赤誠を以つて日滿國旗を打ち振りつゝ滿洲國學生の旗行列に參加する事を申込み且つ午前十一時よりは滿洲街の式場に參列する事となつた、當日は定めて盛大に且つ日滿親善の眞美が發揮される事であらう因に當日の次第左の如し

計畫案 協和會發表

一、日滿小學生の旗行列 二十箇村七校の小學生五〇〇名は午前八時半迄に營口區立第四小學校集合の上樂隊先頭に宣武街を通過蟠龍山に至る蟠龍山下に於て大石橋小學校、幼稚園、家政女學校の五百名と會し協同隊を編成の上忠靈塔に參拜日滿兩國の萬歲を三唱し歸路警察、地方事務所、憲兵隊、守備隊に行進を進め感謝の萬歲を三唱の上日滿學生共に滿洲街の式場に臨む

二、記念式 午前十一時
イ、國旗掲揚式
日滿學生滿洲國歌合唱
ロ、執政の教令捧讀
ハ、國務總理訓示朗讀
ニ、孫委員長諭告
ホ、來賓祝詞
ヘ、協和會辦事處長祝詞
ト、建國萬歲

三、煙花打揚
四、敬老會 六十歲以上滿洲國人二〇名
五、孝子節婦表彰
六、芝居演劇
七、慶祝開宴

二十箇村各村長、自衛團代表、官市民代表、學校關係方面約百名、來賓日本側、軍、警、滿鐵各箇所代表、學校側、地方側有力者及聯合婦人幹部を交ぜ約二百名盛大なる慶祝宴を催す筈なりと謂ふ

建國一周年記念 安東の祝賀方法

【安東】滿洲國側の三月一日における建國一周年記念祝賀次第は既報の如くであるが、日本側の慶祝方法に就いては二十四日市民會理事會を開き協議の結果大體次の如く決定した

一、市民會代表は午前九時縣長主催の祝賀式典に參列する

二、市民、各學校生徒より成る祝賀旗行列は午後一時縣前廣場に集合、關係市民會々長の祝辭の後同二時出發、大和橋通り滿洲國街を經て縣公署に到り滿洲國萬歲を三唱し、市民會幹部は縣長に祝辭を述べ歸路は石紫前街、興隆街、市場通りを經て廣場に歸着日滿兩國の萬歲を三唱して解散する

三、大和橋通り滿洲街境と驛前廣場にイルミネーションを設ける

四、夜二十發の煙花を揚げる

五、市民會代表より執政府に賀電を送る

四平街祝賀會

【四平街】來る三月一日の建國一周年記念日に日滿合同の大祝賀會が開催される事は既報の如くであるが、當日は朝來より瑞祥な象ごる煙火の打揚げを行ふ外市内の四ケ所に電飾を施し明朗な氣分を誘出する由

世界に傳波された露國の食料暴動說 火のない所に煙は立たぬ 都會と農村の發火？

【ハルピン】本年一月初め頃から誰れ云ふとはなしにソウエート聯邦の各地に食料暴動が勃發したと流布され歐露からソウエート國内を通過して來る多くの旅行者までが申し合したやうに「一般に不穩な氣がみなぎつてゐる、どこかに暴動が起つてゐるらしい」と云ふ又モスクワ在住者からの

手紙 にも「各地に食料暴動があるらしいと流言が盛んだが事實らしい」と他所事のやうなことを云つて來る、だがソウエート新聞紙には勿論それらしい記事は見當らない、北滿在住の露人は赤系も白系も半信半疑でゐたが同樣なセンセイショナルな流言が世界の各方面に飛んだものと見えて一月中旬巴里の白系露字新聞が盛んに書き立てゝしまつた、その反響は忽ち世界各國に居住する露國人の間に傳波し一月下旬からは各地の暴動狀況なるものが傳へられた然しその原因があまりはつきりしないのと

情報 の出所が訛れて見ると多くは地方人から聞いたと言ふ旅行者の言である、そんな譯で今度の暴動說程不可解な現象も稀らしい然し社會的不安が全世界を蔽つてゐる今日ではその原因如何に依つては單に他國の一社會問題として傍觀は出來ない、ハルピンに領事館や縣報機關を有する各國政府からはその眞相をしきりに問ひ合せて來た、それが又一層北滿の露人間に反響し益々大きくなつたが依然として眞相が解らない、不可思議千萬なことではある、然し乍ら「火のない處に煙は立たぬ」は世界のあらゆる民族間に

通用 する諺だと言ふから全く火のないこともあるまい、そこで最近のソウエート國内の狀況はどうか、何が暴動說を生んだかを判斷して見よう、本年一月の黨大會に於て第二次五ケ年計畫實行案につき種々紛爭のあつたことは世上周知の通りである、第一次五ケ年計畫は最終年度に於て軍事工業を急いだ爲めにやゝテンポを緩めたがそれでも豫想の九分通り達成したと報告してゐる、その結果ソウエート國民の所得は二十八年度の百三十三億留から三十二年度の三百七十億留卽ち三倍となつた之に反し

資本 主義諸國の國民所得はドイツは前年度に比し三十年に七・六パーセント、三十一年度には七・九パーセント、英國は三十年度に二・一パーセント、三十一年に八・一パーセント增加で到底ソウエートの比較にならぬ、と發表してゐる、そして總生産高の前年に比しての增加率は

年	增加率
一九二九年	二五・四％
三〇年	二三・三％
三一年	二一・三％
三二年	三六・〇％

この第一次五ケ年計畫の達成を基礎として第二次五ケ年計畫に邁まうと云ふものである、然しこの尨大な數字やパーセンテージで示された華々しい

成功 がどう國民の實生活に効果を齎したらうか、五ケ年計畫の完成した時には國民の生活はずつと向上すると約束されてゐたのに何等四年前と大差がない物資は極端に不足し物價は益々高騰し勞働を與へられない、勞働者の數は益々增加し之等に對する配給は減少し生産高における成功は事實であるが消費經濟を顧みないで生産高の增加ばかりを圖つた結果數字に示された增産は基本工業のみで直接消費される製品の製造は依然十年一日の如くである、そこに大きな

矛盾 がある、黨員中にも一先づ一、二年の休憩を置いてから第二次計畫に移れと主張する者も相當多い、またこれと反對に生まじ計畫經濟をやつてゐるから國民の生活は向上しないのだから全産業を動員してもつと徹底的な統制を實行せよと主張する分子もある、本年一月の黨大會はこうした波瀾を殘して幕を閉ぢたが其の結果は中庸をとつて多少テンポを緩めて卽時第二次計畫に着手することゝなつた、然しそれが爲めに全國的に兩端相反する反對分子を增加したことは事實である、嘗て四年前トロッキーを

追ひ 出したと同じやうな反幹部派とも云ふべき不平分子が激增し必然的に黨幹部は所謂「黨の擁護」を開始しカメネフ・ルイコフ等は再び反幹部派に投じて排斥された、新聞紙上には又復「陳謝公開狀」がポツ〳〵出て共産黨の非常時を物語つてゐる、農村の狀況はどうであらうか？政府は例に依つて尨大な數字を掲げて成功を吹聽してゐるが私營分子に依る農作物の出廻りは激減し政府の穀物買付けも甚だ不勝手である、資本主義諸國に於けると同樣農村青年の都會集中にはソウエート當局も手を燒いてゐる、失業者は益々

增加 する工場は收容能力がない、過去四ケ年に於ける都會人口はモスクワ、レニングラード、ロストフ各四割程增加スタリングラードは二倍、マケエフカは百九十パーセント增加その他の都會何れも三割以上七割の增加である之等都會住民は何と言つてもソウエート革命の擁護であるから何物を措いても政府は養はねばならぬ從つて政府の穀物買付は今冬以來一層拍車をかけた、昨年秋の收穫は豐作であるにも拘らず買付成績は至つて惡い、穀倉と稱せられるウクライナ及び北部高架索が最も不成績である、政府はしきりに

鞭撻 してゐるがさつぱり成績が上らぬ、殆ど徴發に等しい買付けだが農民は穀物を隱匿して政府の手に渡さない、各所に之等官憲と農民との間に小競合が行はれてゐる、農民が穀物を賣り惜む原因は種々あらうが新經濟政策以來中産階級中心の政策に轉向したので却て農民が退歩するのと所謂クラーク（金貸）の跋扈である政府は又復之等クラーク征伐を開始してゐる模樣だが兎も角も政府と農民との間は依然しつくり行つてゐない、都會と農村との連絡は革命以來のことだが今も危險な狀態である

國策遂行のため國難に殉ず ＝國際聯盟の勸告に就て＝ 撫順鄉軍分會聲明

【撫順】國際聯盟の橫暴なる態度に帝國臣民は今や上下を擧げて憤激してゐるが、撫順在鄉軍人分會では今回大橋會長の名を以つて左の如き聲明書を公表した

國際聯盟の勸告に就て

聯盟今回帝國の正義を認めず、東洋平和の基調たる滿洲國の成立に異議を唱へ剩へ我國の自衛行動を否認せんとするのみならず、或は日支交渉に介入せんとし、或は排日貨運動を認めんとす、此の如き聯盟の態度は斷じて我々の容認し得ざる所なり、聯盟尙悟らず旣に規約第十五條第四項を適用せるを以て帝國政府は斷然聯盟と絶緣するの決意をなせり、我々は昨年六月奉天に同十月東京に於ける全國大會に於て要路に具陳し、或は中外に宣明せし如く國策遂行のため悅んで國難に殉ずるの確固たる決意を有す、若し夫れ此際膝を屈することあらば信を滿洲國に失ひ、侮を全世界に受くるに至るべきを思ひ我々は事茲に至つて何等躊躇することなく吾等三百萬會員を擧げて國民と共に國策遂行に邁進し以て奉公の赤誠を致すのみである

▲卒業式次第
第一鈴職員生徒着席、第二鈴來賓父兄着席、一同敬禮、勅語捧讀、卒業證書授與並表彰、學校長式辭、總裁告辭、來賓祝辭、在校生總代送辭、卒業生總代答辭、卒業生父兄總代挨拶、校歌、一同敬禮

撫中卒業式

【撫順】撫順中學校第六回卒業式は二十四日午前九時から同校講堂に於て職員生徒並に來賓父兄一同列席の下に盛大に擧行された、式は國歌君が代合唱、勅語捧讀について寺田校長より今期卒業生四十一名に對し又成績優秀者に對し卒業證書及賞狀賞品を授與し終つて寺田校長、滿鐵總裁代理富澤庶務課長、來賓總代槇木實習所長等の訓辭、告辭、祝辭演說あり、かくて在校生總代岡俊郞君の送辭、卒業生總代稻葉萬雄君の答辭保護者總代根來乙五郞氏の謝辭あり、卒業生、在校生、職員一同校歌を合唱して同十一時閉式した、尙當日の授賞者は

△總裁賞稻葉萬雄△校長賞宮之原誠一△優秀賞紀井二男、小林忠男、山口一郞、三木當一、飯田恭弘△體育賞井上正門△五ケ年精勤賞安本貫一

尙今期卒業生中目下に靖安遊擊隊に入隊中の林一郞、三木順一、坂本治聰の三君も參列したが匪賊討伐に當り三君等が奮鬪した槍、野砲手榴彈、ラッパが當日陳列されてゐたのは人目をひいてゐた

奉天中學校の第十回卒業式 廿五日同校講堂で

【奉天】奉天中學第十回卒業式は二十五日午前九時同校講堂に於て擧行されたが本年度の卒業生は八十四名でその氏名、卒業後の希望、式次第は左の通りである

▲卒業生氏名（五十音順）
赤堀正顯、秋水滿、阿部蕭、淺田隆志、荒木五郞、池田徹、池田和夫、池田保次、磯村納、井上正雄、伊藤久米義、入江道開、岩元穗保、上田幸男、鵜久森正滿、遠藤政郞、南高庄太郞、小野鋪男、大谷恭一、奧村典三、川岸喜夫、加藤博美、鴨田保、金澤萬、木村房好、後藤一秀、小松辰雄、小山繁、小島明、小島三郞、高麗文昌、小森勇、小林忠二、佐藤一雄、佐々木盛夫、篠塚勘治郞、柴田英三、島瀧正行、田中太郞、田中英敏、田久保榮春、高橋千尋、武田勝治、竹本益重、茶谷潔、塚本秀雄、辻欽雄、富田滋、野口文雄、野澤次男、中明信義、林充巳、廣里清輔、日野傳三郞、平佐毅次郞、平岡忠明、藤田數馬、藤田俊雄、藤島善太郞、布施志乃夫、舟田安義、朴英秀、堀成一、前田春男、松井泰孝、牧野直次、滿平素臣、溝口満一、光井運、村上龍夫、村越孝春、森坂信、百崎健太郞、山本節雄、山岸寬、矢部佳雄、山田順藤、山内寬、山上丈夫、湯下佐一、米本英彥、米村寬、藪岡小太郞

▲卒業後志望別
醫大豫科十一名、高等學校十名、官立大學豫科十名、旅順工大豫科、高商各六名、南滿工專、藥專各五名、日露協會、遞信講習所各四名、高工、外語各三名、鐵道教習所、東亞同文、醫專、齒科醫專、高師、武專各一名、實務十三名

實業學校を志望 鐵嶺小學校の卒業生

【鐵嶺】鐵嶺小學校では來る三月下旬卒業式を擧行するが本年學びの庭を巣立つ兒童は尋常六年男子二十二名、女子三十六名、高等二年男子十二名、女子七名、合計七十七名でその中中等學校入學を希望せるものは過半數の四十一名あり殊に就職難の喧しい折柄中學或は高女を選ばず實務方面の育成、滿鐵教習所、遞信講習所、工專附屬、滿鐵看護婦等の志望者が十二名もあり商業學校志望が四名あるなど幼き者の頭にも父兄の胸にも就職難の深刻さが痛切に感じられた事を物語つてゐるやうであり、殊に高等二年卒業生の統計によつて其感を深くする尙卒業生の外に高等一年修了生男子十二名女子二十名あり其中から中等學校希望六名あり希望學校は左の如く決定してゐる、第一志望のみ

校名	尋六	高一	高二
奉天中學校	三	一	｜
新京中學校	三	｜	｜
新京商業校	二	一	｜
鞍山中學校	二	｜	｜
奉天高女校	五	｜	｜
新京高女校	七	｜	｜
安東高女校	二	｜	｜
撫順高女校	三	一	｜
大連女商業	一	｜	｜
旅順高女校	三	｜	｜
大連商業校	｜	一	｜
滿鐵育成校	｜	二	二
鐵道教習所	｜	｜	一
遞信講習所	｜	｜	四
工事附屬部	｜	｜	一
滿鐵看護婦	｜	｜	二
合計	三一	六	一〇

(明治卅八年十月二十五日第三種郵便物認可)

満洲日報

列國、熱河討伐に關し警告するも一蹴

我外、陸當局の態度決定

【東京二十五日發】熱河討伐に關し聯盟及び英米の列國より我政府に對し不當なる警告その他注意喚起の來るべきことを豫想し、外務、陸軍兩當局は過般來協議の結果、斯かる警告に對しては左の論據を强調して之を一蹴し、國際輿論の敎導に努むることに決定した

一、熱河省は古來地理的に滿洲の一部であり、昨年滿洲國建國の際同省民代表が之に參加せる事實によるも**滿洲國領土なること一點の疑ひなし**、然るに熱河省内には支那正規軍侵入し、土着匪賊を使嗾し治安攪亂を圖りつゝあり、滿洲國政府は過般來支那政府に對し正規軍撤退を要求しつゝあつたが、支那政府これに肯んぜず今日に及べり

一、こゝにおいて**滿洲國は國内治安維持のため反滿軍及び匪賊討伐のことを決せり依つて帝國政府は日滿議定書による義務に基きこれを援助**するに至れり

一、熱河討伐は全く滿洲國内の國内警察行爲にして何等國際條約に抵觸せず

一、支那正規軍が滿洲國領土侵害を止め支那軍隊を撤退せしめば、不幸なる事態の擴大を見ずして已むべきも、**然らざれば事態の不幸なる擴大を見ることあるべく**、之に對する責任は支那政府にあるものなり

一、日滿兩軍は平津地方の治安を紊す意圖毫末もなし、然れども**平津地方支那軍隊が萬一在留邦人の生命財産に危害を與ふるが如き行動に出づるに於ては帝國政府は在支駐屯軍をして現地保護の措置を講ぜしめ**ざるを得ず、斯くの如きは熱河討伐とは別個に發生すべき問題であつて、帝國政府は斯かる不幸なる事態發生を防ぐため極力支那政府及び軍民において誠意ある措置を講ぜられんことを期待してやまず

熱河肅清成算あり

皇軍、義軍たるの實を擧げん

わが○○團長の聲明

【錦州二十五日發】○○團長は本二十五日出動を前に左の聲明を發した

滿洲國完成のため最後の聖戰たる熱河肅清に際し、我○團がその主力方面を擔當するは、部下將兵と共に余の最も光榮とするところなり、熱河の政權及び之を支持する舊勢力の惡虐とは倶に天を戴く能はざるは既に論ずるの要なし熱河省五百萬の民衆は日滿軍の速かに到りて救助せんことを待ちつゝあり、余は忠誠勇武、而も犧牲的精神に燃ゆる麾下部隊を率ゐて、今や將に熱河省内に第一歩を印せんとす、胸中既に堅き成算あり、余は我皇室の無窮なるに感激し、銃後國民の支持後援に感謝すると共に、必ずや皇軍の義軍たるの實を擧げ、所期の目的を達し以て皇恩の萬分の一に報い奉ると共に、日滿兩國民の期待に副はんことを期す

熱河討伐の目的は我主權の擁護

行動の範圍は我領土内に限る

謝外交總長の宣言

【新京特電】熱河討伐に際して謝外交總長より南京政府及び張學良一軍閥に對し發せる宣言は左の如くである

わが滿洲國は建國以來日本軍の協力を得て略國内の匪賊を討平したるも、その殘黨は我の北滿方面に兵を用ひて顧るの遑なきに乘じ、擧げて熱河省内に集結してわが執政の下に

王道樂土 の慶福に浴せんことを期待せる人民を搾取虐待し更に北支軍閥は南京政府と聯絡して恣に大軍を同省内に移動してわが主權を侵犯し、匪賊と合作してわが人民を虐遇しつゝあるの警報頻りに來れるに鑑み、わが政府は曩に數次南京政府及び北支軍閥に對し非道を指摘しその軍隊の退却を要求したるも彼等はこれに對し一言の返答も爲さゞるのみならず、最近益々大軍を增派し

暴虐を累 ね、今や事態一刻も猶豫し難きに至りたり、こゝにおいてかわが政府は斷乎必要の兵力を急派し同省内の兵匪を徹底的に剿滅し侵入軍隊を擊攘するの決心を固め、同時に日滿議定書の精神により日本軍に對し協力を求め、既にその同意を得たり素より我國は右討伐により熱河省民の痛苦を除き國内匪賊の平定を完成すると同時に北支那軍閥の侵略行爲を排除して我國主權を擁護せんとするの外他意あるにあらず、從つてわが行動の範圍は嚴にわが國

境域内に 限るべきも、若し

皇軍の入城せる北票市街

聯盟は日本に對しやゝ遣り過ぎた

總會後の壽府の空氣

【ジュネーヴ二十四日發】總會を終つたジュネーヴは全く颱風一過の觀があるが、各方面の情報を綜合するに、聯盟筋では日本に對しやゝやり過ぎた氣味を感じたらしく、殊にシャムの棄權は可なり興味を惹いた模樣である、報告案可決について中立的立場にある聯盟最高筋では

日本が全部正しいとはいへぬがあんな理論のみによつて壓迫すれば日本が拒絕するのも無理はない

といつてゐるが、これは强ち日本贔屓のみの意見でないことは顧維鈞代表が松岡代表の演說に盛んに罵詈を浴びせた際、各國代表部や傍聽席に口笛や足擦りが起り、議長が顧代表をたしなめるや、議長を應援して「ブラボー」が飛んだほどで、若し續けば熱河問題について の挑戰により關内波及で限り案外支部の宣傳は效力知れぬといふ樂觀論さへゐる

訪ひ、滿洲問題を中心として約三十分密談をなしたが、聯盟今後の出方に對するアメリカの意向を告げ、且わが具體的方針等を質したものと解されてゐる

南洋統治問題を米國最大の關心

日本の意見と相反す

臨時閣議に聯盟經過報告

暹羅公使に好意を深謝

澤田局長謝シャム代表に

米軍縮代表・松平大使と密談

熱河の北、東部の反滿軍十二、三萬

武器、食糧缺乏に悩む

崔興武

飽まで日本との友好を保て

英前藏相チ氏喝破

大吹雪の大平原を日滿兩軍前進

全軍の士氣益々軒昂

兩大使引揚

開魯縣長等種々陳情

張海鵬上將に

高田部隊開魯に入城

兩枝隊開魯に入城

湯に歸順を勸告

部下の趙旅長等から

我兩部隊綏東奪還

敵匪約二千建平方面へ退却

鄧桂林錦西へ進出企圖

崔興武部下西南方に潰走

凌源、平泉に堅固な陣地

我空軍最初の爆撃

陸上部隊と相呼應して

崔興武歸順の使者派遣

山海關支那軍威嚇發砲

護國第三集團軍も出動

李部隊出動

豫算案分科へ

追加豫算案可決

貴族院豫算總會

朝陽附近に敵匪を認めず

わが三部隊朝陽部隊に參加

建川軍縮全權

三月末歸朝に決定

社説

勸告書の決議と國民の覺悟

紀元二千五百九十三年二月二十四日、國際聯盟總會は日支問題に關する勸告附報告書を決議した。日本は反對の一票を投じ四十二對一で敗れたのである。此は日本にとりて一大歷史的事實である。思ふに日本は明治維新の始めより、自ら立つと同時に、東洋の解放、自立、和平、幸福を謀るを國是と爲した。東洋の幸福即ち日本の幸福がその標語である。此點は西洋流の國家主義とは天淵の差で、即ち東洋流の治國平天下主義であるのだ。明治の二大役も、世界戰爭に參加したのも、國際聯盟に加參したのも、すべて此の標語を生かす爲だ。而して、吾々東洋人の利害に最も痛切な關係ある日支問題に當りて、不幸隣邦の爲政者に達見なく、國際聯盟が認識を缺きて、日本主張の正義を解しない。却つて多數を以つて我國を壓伏せんとする。日本が敢然として、四十二對一の敗を期して反對したのは、一に我が國是を遂行し、正義を伸さんと欲するからである。日本は既に國際聯盟が東洋の和平幸福に貢獻するに足らざるを知つた。松岡代表の演說中にも、日支問題に關する日本の協力は、既に限界に達した事を陳べてゐる。蓋し今後は、全然聯盟と絶ち、獨自の力を以て、日支問題の解決に當らんとするの意であらう。

◇

曾つて紀元二千五百五十五年四月二十四日（今度の決議と日を同じくす）日淸戰役の後に、三國干涉があつた。之れは東洋和平を名としたが、實は露國の對東洋の野心と對露政策の爲め寧ろ露國を使嗾し、佛は自己の歐洲政策の爲に捲き込まれたのだつた。今度の國際聯盟も、東洋和平を名となすも、實は各國の對東洋野心、及び歐洲政策に因するもので、之れを統ぶるに認識不足を以てするものである。前には、相手は三國であつたが、今は四十二國である。前には武力を以て干涉されたが、今も經濟封鎖乃至武力を以て脅されんとする。前には我國力が戰後なる爲めに既に竭き、熱涙を吞んで干涉の前に伏した。今は國力汪溢、敢然威嚇の前に立つ。較し來つて無量の感慨なきを得ない。

◇

三國干涉を受けた當時の日本人は肝腸寸斷の思ひあり、直に臥薪嘗膽が全國老若男女の胸裡に鏤刻された。實際文字通りの當時の日本人の實感であつて、當時十歲以上に達してゐた日本人なら、必ず今日でもまざまざと胸中に思ひ浮べ得る。今は四十二國の干涉を受け居るに拘らず、人心左程に緊張せるを見ない。國力強し、正義は吾にありとの自信ありて然るものならば慶すべきだが、若しそれ程の自覺なく、或はインフレーションを期待し、或は政權爭奪に埋頭するによりて、眞正の意味に於ける擧國一致、國是貫徹の熱誠を缺くものであるならば寒心すべきだ。此際吾人の最も恐るゝものは、四十二國の反對でなく經濟封鎖でもない。只、人心の弛緩である。警しむべきは此一點にある。

時局大會と日滿の結束

時局の重大味に鑑み、市民の反省と決意とを促すべく、本日を以て日滿兩國人の大會を開催することゝなつた。趣旨に於て何人もが滿腔の贊意を表する所なるのみでなく、この地在住の兩國民が、かくも一致共同の精神を發揮したことは、未だ曾てその類例を見ざる所だ。是は畢竟國際聯盟會議の結果に就いて理利均しく兩國民の生活に大影響あるが爲であるが、就中日本對聯盟衝突の結論が、滿洲國獨立の名分一點に押詰められたことは、益々兩國人の同舟感を深うした。現地の事情に通じない歐洲諸國人は、日滿のこの主張を非常に危險視し、若くは自己主張の爲に理由附けたように考へて居る。何が故に日本が一國の運命を賭して迄も、それを支持するに至つたかに至つては、深くその淵源する所を理解して居ない。然るに何より明かな證據は、僅々一箇年間に滿洲國の獨立體裁が備はり、着々新方針を樹立しつゝあることである。

◇

この事實を中外に宣傳することは、今や聯盟會議決裂の際に於て殊に必要だが、日滿兩國人は期せずして玆に一致の行動に出た。かうした成行きはそれ自體第三者の誤見を喝破するに十分だが、唯だ吾人が一言注意したいのは、この精神を實にする爲の心得である。聯盟會議の結果が齎らすべき影響に就て、世間は夙に種々の推測を發表して居る。或者は聯盟何かあらんなど無關心に高を括らうとする。勿論さうした勇氣は必要だ。併し今日の國際關係は總ての方面に暗雲低迷して居る。之を理論と臆測とのみでは裁判し難い。況んや滿洲問題は僅かに國際會議の理論を了つた許りだ。之からの波動は國際間の事實であつて、それが果して聯盟條約の文字通りに現はれるか何うかは疑問だ。經濟封鎖など出來得ないとは、算盤勘定を目安の專門家の議論であるが、時の勢ひは屢々數理を超越した豫想外の現象を勃發せしめる。歐洲大戰の前例がさうだ。所謂小事大觀だ。日滿兩國は今や正にさうした國際心理の中核にある。必要なのは飽まで初一念を達成する爲の實行力だ。內部の結束だ。國際聯盟の認識不足のみ責むべきでなく、彼等が遂に認識せざるを得ない事實を、益々鮮明に、鞏固に建設することが肝要だ。

重役會議で內定の滿鐵一二分增配

增資案の細目協議

【東京特電二十四日發】林、八田正副總裁は二十四日午前十時より麻布狸穴社宅に在京理事を招集、增資問題のため來月六日開催の臨時株主總會に於ける諸般の準備に關し打合せを行ひ總會當日總裁の行ふべき演說の內容に就き審議する所あり午後四時廿分散會した

【東京二十四日發】滿鐵では林總裁を迎へ二十四日午前午後に亙り狸穴の社宅で重役會を開き林、八田正副總裁、竹中、大淵兩理事、橋本主計課長、林田經理課長出席八田副總裁其他關係理事より八億圓增資案の經過に就き報告、增資案の細目に就き協議の結果

一、增資株の振り當は舊株二株に對し新株一株とする事

一、第一回拂込は一株につき十圓とする事

を決定、右拂込期日は九、十月頃

山崎滿鐵理事　けふ海路上京

山崎滿鐵理事は林總裁よりの招電に接して二十六日うらる丸で夫人同伴上京することゝなつたが、同理事は語る

突然來いとの電報が來たので二十六日の船で上京することにした、一體どんな用事か私にも見當がつかず增資問題も解決してゐるから今さら行く必要もなく議會で何か問題が起つたものとすれば材料の用意が要るが何ともいふて來てないところを見ると恐らくさうではなからう、從つて僕だけまだ東京方面へ新任挨拶をしてゐないのでその挨拶をさせようといふのではないかと想像してゐる、凡そ一箇月で歸連する豫定である

滿洲化學工業株　プレミアム附で應募

【東京特電廿五日發】滿洲化學工業會社の株式募集は二十三日から行はれてゐるが二十四日既に滿株に達し、二十五日締切りまでには相當超過し、プレミアムも附き、人氣良好である

幹事長は辭退したい　伊藤審査役談

後任難の滿鐵社員會幹事長には豫定のごとく伊藤審査役が絶對多數で當選したが、同氏は下馬評に上つた時より絶對に引受けぬことを明言して居り果して引受くるや否や注視されてゐるが、當選の報を齎して病氣引籠中の氏を自宅に訪へば左のごとく語つた

他の仕事ならいざ知らず、この時局重大の際とても自信がないからお斷りしたいと思つてゐるここにまだ當選したといふことを聞くのも初めてだし、前幹事長からも正式に話がないから正式の話は一寸申上げかねる

「それでは郡幹事長より正式に依賴されゝば考慮の餘地があるか」と訊すと

どう考へても僕はその任でないと思ふから今の氣持ではお斷りするより他ない

と答へた、しかし伊藤審査役が拒絶すれば幹事長難は絶對的となり社員會の統制至難となるから、無理矢理にも伊藤氏を口說き落す筈で同氏も結局は就任するの已むなきに至るものと觀測されてゐる

滿鐵增資案　廿八日議會提出

八分配當確實の見込

【東京特電二十五日發】滿鐵增資案は拓務省より「豫算外國庫負擔となるべき契約に關する件」として二十八日議會に提案をみる模樣であるが、滿鐵では既に正副總裁竹中理事等上京、臨時株主總會の準備を進めてゐるが、增資に伴ひ今期業績好轉の事實を說明し決算において民間株主配當を二分增配して八分配當となすことを株主に提示するものとみられてゐる、滿鐵今期の業績は三月末締切の上ならでは適確の數字を示し得ざるも大體昨年度よりは好成績にして二千五、六百萬圓の增收見込みで、昭和四年當時の好成績時代に匹敵する模樣で、鐵道總收入一億圓を突破、經費四割增を差引いても千三百萬圓增收は確實である、港灣收入は千百萬圓の見込みで三百萬圓の增加、鑛事業は收支償ひ、旅館收入は相當增加の見込みであるが、石炭收入は大體好轉して來たが、南支一帶の排貨により多少の缺損は免れぬ模樣である、とにかく鐵道收入の好成績のため八分配當は最早確實とみられてゐる

雄、羅線の敷設認可

愈よ來四月工事に着手

【京城特電二十五日發】北鮮の雄基、羅津間鐵道敷設工事實行について滿鐵よりその認可申請を鐵道局に提出中のところ二十四日附をもつて認可になつたが、今回の工事は、雄基および羅津の兩終端停車場だけ除いて雄基起點四百四十米より十三キロに至る十二キロ五百米で、直に請負に附し四月一日から工事に着手する豫定であるが右兩終端を殘した理由は雄基の方は鐵道局線との連絡發着線の設備のためで、羅津の方は築港計畫の關係である、また同線中には雄羅トンネルの三キロ八十五メートルといふ頗る雄大なものがあつて完成の時には朝鮮一となる

經濟封鎖は事實上不可能

小林松岡代表秘書等歸朝談

【東京二十四日發】ジュネーヴに活躍中の松岡全權の秘書代議士小林絹治、鷲澤與四二兩氏は郵船淺間丸で二十三日午後六時橫濱入港で歸朝した、兩氏は松岡全權の活躍振りに關し交々語る

松岡代表の活動は全く目覺ましいもので、特に例の十二月八日の大演說の時は僕等の側に居た某國外交官夫人が吾々の肩を叩いて「松岡氏は自分の國の爲に演說して居るのに顧維鈞は自分の演說の爲に喋つてゐる」と痛烈に皮肉つた位ゐた、聯盟では小國側が色々出しやばつたが、大體聯盟があるお蔭でやつと出來上つてゐるやうな小國が聯盟擁護、延いては自國の立場を護るためにぐづぐづいひたいのに何も我生命線である滿洲國是非の問題を論爭の具に供するのは愚の骨頂だ、脫退の肚は最初から決つてゐた、有力な日本が脫退した以上、聯盟なるものはまるで糖分を取り除いた蜜のやうなる間の抜けたものになるだらう聯盟をして滿洲國不承認の不明を悟らしめるには滿洲を一日も早く充實せる立派な獨立國家たらしめることで、之が脫退の意義あらしめ、日本の外交的世界征服を完成せしめる唯一の鍵である、各國とも財政的に疲弊の極に達し、特にアメリカの如きは恐るべき恐慌時代に直面して居るから經濟封鎖等の強壓手段を執ることは先づ不可能である

爲替管理法

衆議院委員會

【東京廿四日發】衆議院の外國爲替管理法案委員會は二十四日午後一時四十分開會したが滿洲に於ける爲替管理法に就いて左の應答があつた

●野中徹也君（政）滿洲に對する爲替管理は如何にするか

●富田理財局長　關東州同樣餘程愼重な取扱ひをしなければならず國策上の問題として爲替管理の點のみから論じられぬ

●野中君　滿洲に對しては資本逃避と無爲替輸出等が簡單に行はれると思ふが之を如何にする方針であるか

●堀切次官　日滿經濟政策上から特別な取扱ひをせねばならぬが爲替管理法に違反する行爲は滿洲とても取締られねばならぬ

●野中君　今迄事實上日本に於て無爲替輸出の事實があつたが、滿洲の方は如何であるか

●富田局長　滿洲を經由し歐米に資本が逃避する點は鮮銀其他の報告に徵しても事實上無爲替輸出はなかつた、又昨年一般に無爲替輸出が行はれたとの說があつたが無爲替輸出と無爲替に依る資本逃避は別個であり從來同樣取締る必要はない

昭和八年度一般會計　大連市豫算案內示

總額百卅四萬八千圓

大連市昭和八年度歲入歲出豫算は市理事者に於て鋭意編成中であつたが特別會計大連市中央卸賣市場の歲入歲出豫算を除くの外は既に小川市長最後の査定も濟み謄寫も終へたのでいよいよ二十四日午後六時から市參事會員ならびに一般市會議員へ內示された、來る二十八日午後二時から市參事會を招集次いで市會へ提出される、按ずるに本豫算案には別に注目すべき新規事業費も計上されてないが物價の昂騰に禍ひされて自然膨脹を餘儀なくされ、その結果總額は歲入歲出とも金百三十四萬八千七百九十二圓に達し前年度豫算總額に比し二十萬四千七百九十五圓の增加を來した、今その內容を揭ぐれば左の通りである

歲入

經常部	一、二一三、一六九
臨時部	一三五、六二三
合計	一、三四八、七九二

歲出

經常部	一、一〇二、三一三
臨時部	二四六、四七九
合計	一、三四八、七九二

八相　五十行以內　中傷はさらす　投書歡迎

電停『忠靈塔前』　內藤生

◇當大連市民一般が忠靈塔に對し餘りにも無關心な事は遺憾な事です。本年一月十五日より二月十五日まで一ケ月間電車の乘客について調べて見ましたが忠靈塔に對して敬意を表したる人は餘り見受けませんでした。

◇たしか一月二十日頃と思ひます內地より來て間も無いやうな一老人が忠靈塔を見て、あれは何ですかと問ひ忠靈塔ですとの答へを得て車內を見廻して居りましたが「この中には日本人は一人も居ないやうですネ」といはれて私も實に赤面致しました、それも市民が忠靈塔に無關心な一つの例證でせう。

◇そこで私が思ふに、あそこの停留場の名稱「中央公園」を「忠靈塔前」と改稱したらどうでせう。

◇電車の停る每に市民一般の頭に自然忠靈塔が認識される事になりはしないか、滿電當局は萬難を排しても是非實行して戴きたいものです。

報國號の獻金　海防子

◇國防は一にして二ではない、報國號も、愛國號も同じ意義を有するものである、殊に旅大と海軍の關係は今更申上げる迄も無く總て御承知の筈。

◇報國號獻納が、愛國號と同程度の成果を舉げる事は決して不可能な事ではない、たゞ獻納中樞人物が獻身的努力と熱意がなければ駄目だ。

◇嘗に關東廳職員が愛國號に對し應分の獻納をなし更に八分の自力が警務機を造られたる事實は大きな參考となる事だ。

◇成果は期待し得る、しつかりやらうではないか。

吉田大將離京

【東京特電二十四日發】關東軍特務部顧問吉田大將は二十四日午後二時卅分東京驛發赴任の途に就いた、尚滿鐵今期の業績好調に鑑み今期は二分增配の年八分配當を行ふに內定した

醫大評議員會

滿洲醫大評議員會は大學豫算審議のため二十八日午前九時より開催されるが評議員たる中西地方部長、有賀學務課長、千種衞生課長が出席する

關東廳辭令

關東廳囑託　岸田愛文
願に依り關東廳囑託を解く

人事

▲井川敏彥氏（日本電氣會社大連出張所主任）新任挨拶のため二十五日市內各方面歷訪

▲高橋孝千代氏（同前主任）辭任挨拶のため同上

小觀

松岡代表、怒髮天を衝きて大獅子吼の末、日本語の「左樣なら」は禪味たつぷり▲シャム代表、唯一人敢然として棄權、さすがは東洋の獨立國、よく日本主張の理論と心情とを理解す▲それに苦い顏の支那代表は我が松岡代表程の修養がない▲顏支那代表、リットン報告書は新なる光で讀み直さればならぬといふ▲新しき光で讀み直して見給へ、全支那の國際管理が必要だと書いてある▲松岡代表は、諸君の爲めにそれを警告してゐる、その時になつてあわてゝも追つつきませんよ▲顏支那代表、熱河問題を擔ぎ出したが、列國はもう澤山とばかり取合はず、何等の意思表示もなかつた▲松岡代表、我事終ると二十五日早朝ジュネーヴ出發、長岡大使も二十五日、佐藤大使も二十八日、夫々任地に引揚▲杉村聯盟事務局次長は一昨年來最も多忙な役割を勤めたが、之れも二十四日辭表提出▲建川軍縮全權も、同じく二十四日內田外相に辭電を發す▲かくて、日本はアッサリ聯盟と縁切り、あとは支那と小國群と、何なりとやうと御勝手次第、勝手にこさへた委員會などは眼中にない▲ジュネーヴ一段落、熱河方面多忙、皇軍滿軍、呼應進擊▲敵軍潰走踵相踵ぎ、良民簞食壺漿して日滿軍を歡迎す

聯盟脫退の後に來るもの（3）

經濟封鎖方法

封鎖國の權利義務

（八）經濟封鎖の各個の措置

第十六條第一項後段は聯盟國が違約國に對して執るべき經濟的手段の效用を定むるものなり、これによれば侵略戰爭の存在を認める凡ての聯盟國は

一、自國と違約國との一切の通商金融關係を斷絶し

二、自國國民と違約國民との間における一切の交通を禁止し

三、聯盟國たると否とを問はず他の凡ての聯盟國と違約國民との間の一切の通商上金融上又は個人的關係を防遏すべき手段を執るを要す

これ等の權利義務が在來の國際法上の封鎖の際におけるそれと甚だ異る點あるべきは（イ）において述べたるが如し、就中聯盟國はこの義務を遂行せんが爲には國內立法的措置を執るの要あるべし（第十二回總會決議第十九）

右（二）の交通禁止を國籍地居住何れの意義において行ふべきやは重大問題なり、第十六條の文面は一見國籍主義をとるもの如きも、封鎖委員會は居住主義を採用し、第二回總會亦之に倣へり（決議第十三及び第十六條第一項改正議定書）これにより封鎖國の住民と被封鎖國の住民とは何等かの關係に立つを得ざるも、封鎖國に居住する違約國國民の監禁、商店の差押へ、清算行動はこれを禁止するの要あり、その後第四回總會において居住主義を原則とし、聯盟國の任意により國籍主義を併用し得べしとなす規約改正案採擇せられたるが、此等は何れも效力を發生せず、從つて現行法上聯盟國に對し居住主義を強要する事能はざるべし

玆に最も注意すべきは、第二回總會が各國は直に最も峻嚴なる經濟的措置をとるの要なく、漸進的に之を行ふ事を得となせる事なり（決議第十四）從つて違約國領域への一切の貨物の輸入を直に防止するを要せず、又經濟上又は軍事上の抵抗力のため重要なる物件の輸入禁止のみに止まるべし、違約國非交戰國に對する食糧供給の斷絶は極端な壓迫手段としてのみ之を行使するを得べし（決議同上）其他個々の措置の實施に當り初めてその細目を決定するを可とす（決議第十）

（二）諸小國間の協力及び非聯盟國の經濟措置參加

聯盟國は規約第十六條第三項による軍事上及び經濟上の措置をとるべき場合において之に基く損失を及び不便を最小限度に止めるため相互に支持すべし、又聯盟の一國に對する違約國の特殊的措置に抗拒するため相互に支持することを要す、かゝる聯盟國間の連帶關係について第二回總會は一方において各國が理事會の勸告に應じて特定任務を引受けんことを要求し、他方において共同措置參加により不當に大なる痛手を受けたる諸國に對し、一定の條件の下において其の參加を全部又は一部延期する要あることを認めたり（決議第九及び第四項追加議定書）この解釋が第十六條の義務の大なる輕減を意味することは上述の如く聯盟諸國にとりて特に有利なるは明かなり、聯盟が世界性を有せざる今日、第十六條の場合における非聯盟國との了解は常に研究事項たるべし、理事會は非聯盟國の協力を確むるべき協定締結の爲努力するを要す（第二回總會決議第十七）

非聯盟國の全部とかゝる協定を締結する事は不可能なるべきを以て、多くの場合經濟封鎖と同時に行ふべき多數の場合において戰事封鎖を行ふべき多數の場合においても亦必要なるべし、各聯盟國は必要な限りは兵力的制裁に參加する事を以て原則とす、然れども理事會の提案は何等拘束力を生ぜざるをもつて、各國は相當の理由を舉げてその參加を拒絶するを得べし、然れども右は法律的拘束の存在を全然否定するものにあらず

（イ）において述べたるが如く

（D）兵力的制裁

聯盟は宣戰及び兵力的制裁を可及的に避け、經濟的壓迫によつて平和の恢復を計るを以てその本務とす（第二回總會決議第三參照）宣戰は必ずしも軍事的措置と結合するを要せず、示威のため或は經濟封鎖を完全に實施せんがため海、空軍の分遣を許し第十六條第三項の如く相互に聯盟軍隊に對しその領土通過を許し又は援助を與ふべき義務を有せず、一種獨特の立場にあり、從つて新かる聯盟國は中立の權利義務を有せず、一種獨特の立場にある中間において支持すべき義務を負ふ

聯盟國は常に第十一條により該聯盟國に對する違反國の戰爭を聯盟全體の利害

（E）除名

除名の制裁は本規約を侵破したる聯盟國に對し、之を加ふるを得べきは實際問題としては唯例外的場合においてのみ、就中侵略戰爭の責ある聯盟國に對して行使せらるゝに止まるべし、但し聯盟に世界の大國が參加せざる以上、除名の結果損害を被るは違約國に非ずして寧ろ聯盟自體なるべければなり、除名處分は違約國を除き理事會の全會一致を以てするに非ざれば之を行ふを得ず、被除名國は後に到り何時にても再加入の申出をなし得べし

學者シュッキング氏說（ドイツの國際法聯盟の制裁とは無關係に被侵略國が自衞權を有し、其際戰爭に訴へることをも得べきは言を俟たず

かゝる提案は經濟封鎖と並行して可能性を有す

關係事項と宣言して之を干涉すべき

市況（廿五日）

株式

內地株好調　當市も續騰

內地主力株好勢を入れ當市の五品は定期八九十錢高、新豆一圓高、延は五品六、七十錢高、新豆六十錢高に引け東新は五十錢高、滿鐵新は一圓二十錢高と昂騰した

特產

人氣引立たず　大豆續落

後場の定期は大豆は轉賣戾しの外新味なく續落を辿り豆粕、豆油は閑散軟調を示し、高粱も買氣薄に軟弱を呈した

◇定期後場（大豆）

錢鈔

材料薄で　保合閑散

後場半休にて爲替情報なく地場鈔票は氣乘薄にて閑散裡の保合であつた

◇定期後場（單位錢）

◇現物後場（單位錢）

商品

麻袋小戾り　綿糸強保合

●綿糸　大阪三品期近一圓方高入れ當市も相當手合せをみた

●麻袋

奧地市況

市場電報

神戶特產　大阪株式（長期）　大阪株式（短期）　大阪期米　神戶期米　東京期米　大阪綿糸

何處へ行く熱河反逆兒
薹將軍湯玉麟
大凌河々畔で反滿の第一聲

【義縣にて二十四日島田特派員發】二十三日拂曉奉山支線南嶺扣北營子間においてわが鈴木〇團の先遣隊第〇〇隊は突如大凌河畔に潜んでゐた約百五十名の學良系匪賊の襲撃を受け激戰を交へた結果約一時間で敵を撃退した、この匪賊は匪賊にして匪賊に非ず、學良系統に屬して湯玉麟の指揮を受けてゐるものである、隨つて二十三日拂曉の戰鬪こそは熱河省長湯玉麟が明らかに反滿洲國政府抗日の第一聲を放つたものでその第一回實力行動とも見るべきものである、同時に彼が第二の馬占山として又第二の蘇炳文として滅亡の道を辿る第一回の行動であり、支那本國の認識不足な學生達より救國の英雄と祭り上げられる第一回のロボット式活動なのである、曾て滿洲國成立の際その樞機に参與して滿洲巨頭の一人と稱せられ又溥儀執政就任式に當つても重臣の一人と數へられ代表を參列せしめた湯玉麟が今や第二の馬占山、第二の蘇炳文となつた、何が彼をかうさせたか、暫く彼の過去を振りかへつて見よう、彼は張作霖と同じく緑林の出身である張作霖東北四省を統一後彼の部下となつて活躍したがしばしば軍に從つて覇權を占めようとしたことがある、然しその都度失敗して張作霖の手より脱れ或は各將士の將領達と結び或は各將と結んだが最後に現滿洲國上將軍張作霖の取なしによつて張作霖の夢が叶ひ熱河省長に任ぜられたのである、その間彼が塗炭省民を苦しめたこと數へきれず、良民は一樣に彼れのことを湯將軍と呼んで恐れたともいはれてゐる、幾度となく作霖にすら戈を向け牙をむき出した薹將軍湯玉麟は作霖亡き後學良如きを問題とする筈はない、殊に滿洲を失つて北平に僅かに命を保つてゐる學良のここ等は既に彼の腦裡から消え去つてゐる筈である、然るに彼が學良と結んで反滿抗日の擧に出たることは何故であるか、茲に熱河省の特殊事情を考へる必要が生れて來る、廣袤三千萬平方粁に亘る大熱河省茲は阿片の産地として世界的に知られてゐる、この阿片の最大の華客は北平を中心とした北支一帶の地方である、この外熱河省からは種々の産物があるが、その殆ど總ては北支に向けて輸送が行はれてゐる、今湯玉麟が學良と離れることはこれ等産物の消費者を失ふこととなり彼の財源には大變動が起るわけである、加ふるに認識不足な薹將軍は未だ滿洲國の基礎を危ぶんでゐるのだ、又學良が東北の覇權を握るかも知れずと夢のやうなことを考へてゐるのだ、支那本部と境を接してゐる關係上彼は二股膏藥主義を執つてゐるのだ、その彼の煮え切らぬ態度は遂に彼をどん底まで引ずり込んでゐたのだ、學良直系の正規軍の學良系の義勇軍も約二十五萬の兵匪は既に熱河省に入込んで暴虐の限りを盡してゐる、今更薹將軍は之らの兵匪を關内に引揚げさせる力を持つてゐないのだ、大衆の動くまゝに遂に反滿洲國の旗を翻へすこと、衰亡の道は短い、二月二十二日拂曉大凌河々畔で彼の部下が放つた砲聲は忽ち熱河省の全上空に響き渡ることだらう、その時は彼が滅亡する時だ、蒙古軍、滿洲國軍並に我勇敢なる日本軍が熱河省治安維持のため活動を開始した時は彼が熱河省を離れる時だ、第二の馬占山第二の蘇炳文、湯玉麟よ何處へ行く、衰亡の道は短い（寫眞は湯玉麟）

就職を望む方へ

各官廳、銀行、會社等の採用法や經衡振りを各所の人事主任が「現代」三月號に公開、非常な參考になりますぜひ御覽あれ！

すは！號外＝二十五日うつす

髑髏の腕章眞紅に
高野必死隊の進發
無言の決意、棺の縱列を從へ
振ひ立つ東北健兒軍

【錦州にて立上特派員廿一日發】陽春二月とはいへ冷氣未だ肌をつんざく二十一日午下りの錦州驛前の廣場そこには妍物學良を膺懲し隣邦滿洲國の完全なる建設のため熱河作戰の最前線をうけたまはる東北健兒の部隊が威風堂々整然として居並ぶ、折柄吹き狂ふ蒙古の寒風は沙塵もて陽光をさへぎり黒く彩り車馬いなゝき軍刀…かながらも力の籠つた聲で語る昨年四月萬歲聲裡に送られて郷關を出でこゝに一年、今や我等が至尊に御奉公仕るさ郷土の人々に誓ひしその最後の時が來たのだ、我々は渡滿一年間北滿の守備奉山線の警備等數々の奮闘をした、併しながら全部隊を擧げての戰ひは今回が初めてである、他の部隊が北滿等に華々しい戰鬪を行つた事を聞く毎に將士一同涙を呑み、腕を扼して時の來るのを待つた、漲る

血潮 躍る腕、我等は押へに押へ隱忍自重待つ事こゝに一年天の命我に與して遂に我等に時を與へ給ふた「忍」の一字は東北健兒の祖先より承けたモットーだ、時は來た、我々の血潮は一時に沸騰する、隊員一同ずして再び生きて郷關に歸ら護國の鬼と化して赫々たる名を靑史に殘さんと血盟した士のたしなみとして一同郷土も訣別し水盃をなして一身となつた我等の部隊は決死隊でやない必死隊である、必死の身體を包むべき、棺もこの通り準備して行く、熱河攻略は滿洲國における最後の大行動だ、朝陽が陥落したとの報告があれば先づ一番乘りは眞紅の髑髏と思つてくれ、畏くも上至尊の御命令に從ひ下國民の信頼、郷土の人々の

信望 を双肩に荷ふ我々日本武士として立派に戰ふ覺悟だと隊長高野大尉は必死の言葉を殘し號令一下悽壯なる眞紅の髑髏隊を率ゐ進發した、部隊後方より續くうづ高き柩の山、記者の血潮は漲り感慨に燃え思はず喩く握りしめた傍にゐた本社寫眞班山口君の目にも、この時山口君は「この隊に從軍してこそ我等通信員の使命は完うし得られるのだ」とこれ又悲壯なる決心の言葉を殘し髑髏隊と行動を共にすべく敢然として出發した、武士の華ともいふべき髑髏隊よ汝を待つ、赫々たる武勳を靑史に遺し生きて再度會ふ日を、友よ、通信員の重大なる

使命 を果して凱歌をあげる日をと祈る記者を殘し必死の東北健兒の戰士と我等の山口君とは勇躍熱河へ……（寫眞は髑髏の腕章を附けた高野部隊の勇士）

擔架で凱旋の
山海關の花
戰傷病勇士大連着

赤い夕陽の滿洲に正義日本の實力を示すため北滿より山海關一帶各地における轉戰に名譽の戰傷を負うた勇士等、並びに極寒の滿洲で活躍中不測の病に罹つた勇士等山本利男軍曹以下五十五名は二十五日午前七時大連驛着列車で到着した、鐵嶺の衛戍病院から五名の美しい看護婦さんがやさしく護衛の任にあたり到着と共に驛頭に押寄せた出迎へ人の熱い感謝のまなざしに送られて自動車を驅つて大江町の衛戍病院の分院に收容された因に二日大連に泊つて二十七日午後四時九番バース出帆の照國丸で宇品に向け凱旋の筈

奉天省城内外に
特別警戒を實施
熱河問題平定まで

【奉天電話】熱河における反滿軍の掃討に全力を傾注し王道國家の領域に張學良系の僞勇軍を撃滅するため安奉地區警備司令李濟山は部下の精鋭を率ゐて〇〇方面に向つた留守警備司令部の一部も亦熱河討伐隊に編入され第一線に進撃し相前後して日滿聯合の皇軍も亦熱河に向つたので省城の警備につき二十四日獨立守備隊において滿洲國側奉天省警務長、警備司令部、日本側憲兵隊、奉天警察署の各關係機關が會合し協議の結果熱河問題の平定するまで日滿協力し特別警備を行ふことに決定し廿五日から省城内外に特別警戒を實施した

朝鮮拳銃强盜は
學良手先のギャング
犯人の一人爆死
昨日記事解禁

【平壤二十五日發】去る二月四日午後七時三十分頃南德川郡德安面實上里農業王澤淳（二）方に二人組拳銃强盜侵入し拳銃一彈を發射して家人を威嚇し在滿朝鮮獨立團軍資金と稱して現金百五十圓を强奪逃走した犯人あり時局柄德川署では事件を

重大視し 大活動を開始犯人搜索中六日平北寧邊郡邑内市場に於て新しい十圓紙幣で買物したもの、人相着衣等が犯人に酷似するとの聞込みあり、搜査の結果北平寧邊郡百嶺面龍潭洞…

發見押收 …

同一味が …

滿鮮經濟調査に
學生使節を派遣
明大自動車部から

明治大學教授松平康昌侯を部長とする明大自動車部では曩にスキーサイドカーを陸軍省に獻納して陸軍のため大いに貢するところあつたが今回部員を以て日滿親善經濟調査學生使節を派遣し滿洲、朝鮮軍並に在滿鮮同胞を慰問すると共に滿洲、朝鮮都市接續道路調査、經濟調査、滿鮮自動車に關しての調査等を行ふ事となり既に先發が來滿種々調査中であるが一行滿洲國に獻納すべきサンプル（日本品）を持参五月上旬來滿の豫定である、國產貨車二輛を使用し滿鮮各地を巡訪調査の傍ら滿蒙行ひ歸京後東京において滿蒙物の展覽會をなす筈

高利貸を殺害し
當地へ高飛び
安田仲傳の犯罪事實

既報、市内聖德街五丁目九一番地春田秋俊方に潜伏中の殺人容疑者鹿兒島縣熊毛郡中種子村安田仲傳（三〇）は二十四日定期船で原籍地に押送されたが、其の後當局に達した彼の犯罪事實は昨年十二月三日夜同村の高利貸遠藤仲裁（五二）の用心棒として隣村に出掛け途中遠藤を殺害、その後被害者一家を脅迫して七百圓受取り情婦と共に大連へ高飛びして來たものである

靑訓皆勤者に
滿鐵總裁賞

滿洲外各靑年訓練所では本年度卒業期に當つて新京、安東における左記兩君の四ケ年皆勤者を出したので兩君に滿鐵總裁賞としてクローム懷中時計一個宛を賞與することゝなつた、四ケ年皆勤者は滿洲靑訓創始以來最初のもので兩君はそれぞれ職業に從事しながらよく勤め品行學術共に優秀なものである

新京靑年訓練所　關東軍司令部傭員　貝田克巳
安東靑年訓練所　安東機關區員　杉本進

市民大會

在滿日本人時局後援會主催の非時市民大會はいよいよ二十六日後零時半から中央公園滿俱球場において開催されるがこの日小川長は全三十萬市民に向つて一致結團體に處する覺悟を强調し次で日滿代表各一名づゝ登壇時局對する覺醒と善處を絶叫、市民總意により日滿兩文の宣言、決を爲しこれを日滿要路に打電し同二時からは日本側は滿鐵協和館、滿洲側は靑年會館で各盛大演說會を開き、非常時警鐘を打鳴らすことになつてゐる、因に本側演說會の出演者は左の通りである

一、開會の辭　小川市長
一、最惡の場合に備へよ　實性確成
一、題未定　大内成美
一、題未定　築島信司
一、唯滿洲國完成の一途あるのみ　關東軍大佐 橫山勇
一、題未定　田村羊三
一、沈思默考　高柳保太郎
一、題未定　十河信二
一、閉會

宮内省が
愛國獻金

【東京特電二十五日發】聯盟脱を機として各方面から愛國獻金行はれてゐるが宮内省では大臣ら小使に至るまで四千八百人殘ず獻金を決議、高等官四百六十は何れも俸給の百分の三を獻金は任意となり自今三ケ月間に分獻金の手續をとつたが諸官廳にけをなした譯である

「隼號」と命名

はるぴん丸 缺航

海と空と（122）

高杉晋一郎作　橋本清史畫

明暗（十）

父の部屋を出た襄は、廊下の端に内庭に面して突出してゐるバルコンへ出て、暫く心を鎭めた。落着いてゐるやうだつたが矢張、凍るやうな興奮をしてゐるのだつた。バルコンから見ると夜空を一杯に覆うて雪が降つてゐた。街燈の描いてゐる圓い光輪の中へ降りしきる雪片の姿が美しく見えてゐた。夜が歸宅する頃僅かにはらはら散つてゐたのがもうこんなに大降りになつてゐるのだつた。塀の背や内庭の植込にぼんやり積り始めてゐる。

一寸思案した。明日去るつもりでゐたのだが、父と會つて見るともう今夜ものめ／＼と家には居れないやうな氣がした。然し此の雪では、雪は、風が無いので靜かに音も無く降つてゐたが、見てゐる中に街路樹の枝や電柱や向ひの病院の屋根に白々とつもつて行つた。

眺めてゐる襄の背後にいつの間にか暢が來て立つてゐた。ふと身動きして襄は暢を認めた。

「あゝ兄さん、お話があるんでした」

「降るね」

暢は感慨深さうに云つた。

「えゝ大分大降りです、とにかくお部屋へ行きませう」

襄は暢を促して、兄の部屋へ入つた。兄の部屋の窓を透しても雪の氣配は見えた。

「どうしたんだい。お父さんと喧嘩して了つたやうぢやないか」

「えゝ、そんな事はもういゝんです。とにかく僕は家を出ます」

「うむ、今の所お父さんとお前とは一緒には居られないと思ふがね。然し何處へ行く」

「何處だか」

さう云つて襄は窓から外の闇を見た。とにかく雪の中へ、だつた。

「それより僕はあの瑞枝さんの話をしなければならないのですが」

暢は默つてゐた。その事で襄を縫つてゐた自分の心も反響して來た。今は然し一言では説明のし難い氣持にあつた。襄は靜かに口を開いた。

「兄さんは、まだ瑞枝さんと結婚するつもりでゐますか?」

暢は下を向いてゐて顔を上げなかつた。

「さうなんです」

「うん、申込んだ以上は」

「兄さんへ直接には、勿論まだ何の返辭もないんでせうね」

スタンドの淡い褐色の光の中で頷いたか頷かぬ位に暢の顔は縦に搖れた。

「僕は、お約束してから度々瑞枝さんに逢ひましたがね。兄さんの話は一言もありませんでした」

「さうして若し僕に云ふ事が許されるならば、あの人は淫婦だ、と僕は思ひました」

「………」

暢の顔には苦痛の表情が青く走つた。襄も落着いた態度ながらに緊張の色をはつきりと見せた。

「それで、若し、兄さんがどうしても瑞枝さんと結婚したいのだとすれば、僕は何んとも云へませんが、唯、僕としては――」

暢は青白い顔をあげて襄を見凝めた。

「それを喜ぶ氣持にはなれません。不賛成です。それと一緒にこんなこともお斷りして置きます…」

襄は流石に暢の顔を正面に見てゐることは出來なかつた。然し、もうこれが兄とも最後の會見だと思へば、何物も殘しては置けなかつた。彼の氣持は眞摯だつた。最後の兄への心情だつた。

「瑞枝さんは絶對に兄さんを愛してはゐないと云ふ事を斷言して置きます。それから……」

「……………」

「それから、もう一つ、こんな事さへありました。音樂會の夜、會場のベランダで、瑞枝さんは僕に接吻を要求したりしました」

新刊紹介

▲政界往來（三月號）議會最中に當るので議會を中心として居り「議會展望」書くは都下一流の政治記者、聯盟の空氣から芳澤前外相の「國際聯盟の實體」があり、目下の政局が何處へ落ち着くか?にまで押迫つて來たので都下三大新聞の政治部長の執筆になる「次の政權は何人に行く……」を掲載し、別に鈴木平沼、宇垣の三後繼内閣の組織者と閣僚の豫想を書き綴つてゐる、時節柄最も興味あるもの、その他人物評論と口繪漫畫は「秋田衆議院議長」を主題とし「新聞街より」「大不平、小不平」などあり、題筆は相變らずの大洪水である（定價三十錢、發行所東京市芝區琴平町二虎之門會館政界往來社）

▲月刊撫順（二月號）撫順において發行され地方雜誌として異色ある編輯を見せてゐた月刊撫順は内容の充實に伴ひ且つ此一年間の動向に從つて眼界を擴大されるに至つたので、これを契機として「月刊滿洲」と改題、更に一段の飛躍をすることになつた、滿洲の一角に根を下した雜誌として今日これだけの發展を遂げたのは非常に喜ばしいことである、今後の活動が又期待される（定價二十五錢、發行所撫順東八條四十七番地月刊撫順社）

▲農業の滿洲（二月號）佳木斯自衛移民を中心とする座談會、農諺集（水野薫）世界に於ける苹果の生産と其の加工（須佐寅次郎）苹果の根に關する二、三の問題（大塚義雄）苹果の品種試驗報告（蛙田正）北中合衆國に於ける大豆の生産と利用並に生産品（村越信夫）地方並に季節による桑の葉質の差異（池田正五郎）自給肥料の必要に就て（吉村清尚）肥育肉の出現を望む（吉川政市）果實袋の自家製作に就て（井上修一）滿洲の果樹害虫（近藤鐵馬）莧麻の栽培（定價三十五錢、發行所大連市紀伊町八十五番地滿洲農事協會）

▲健康の光（三月號）特輯として「性生活の危機」を輯錄して居り療養記事、讀物を滿載してゐる（定價三十五錢、發行所東京市麴町區飯田町六丁目二二地健康之光社）

▲大連時報（第四二號）定價五十錢、發行所大連市敷島町大連時報社

▲滿鮮（第六四號）定價五十錢、發行所大連市須磨町六滿鮮社

▲獺祭（二月號）定價四十錢、發行所東京市品川區東大崎四丁目一三二獺祭發行所

けふの放送　大連 JQAK

二月二十六日

▲午前十時　新譜レコード（ビクター）

▲午後零時十分　ニュース

▲午後零時廿五分　非常時大連市民大會實況放送（滿俱球場より）

▲午後二時　非常時大連市民大會演説會（協和會館より）

▲午後六時　ニュース（以下内地中繼）

▲六時三十分　箏と絃曲（一）繁太夫節「千島」三絃米川文子（二）箏尺八合奏「越後獅子」箏米川文子、尺八青木鈴慕

▲七時　新内「道中膝栗毛」（赤坂並木の段）淨瑠璃岡本文彌、三味線同宮之助、上調子同染之助

▲七時三十分　聲色と物眞似「吹き寄せ」川田芳子、市川左喜松

▲七時五十分　講談「仇討傳の三曾我十番斬り」柴田南玉（以下大連放送局より）

▲八時三十一分　ニュース

▲氣象通報

妻迄苦しめた　頑固な淋病を

自宅で治した實話

栃木縣　青木喜一郎

淋病は不治であると云ふのは詐言で、現に私は二十年來の執拗な慢性淋を根治した體驗の持主であります。私は恥を忍んで此の告白をするものは、自分の苦き經驗に鑑み治るべき淋病に惱んで居られる人々を、一刻も早く治療法の邪道から御救ひしたいと云ふ念願只一つなのであります。私の前身はブリキ職人で、青春の元氣にまかせ、不攝生な生活の連續で、到々淋病に感染して仕舞ひました。そのため國分藥を買つて飮んで見ましたが

胃腸を損ね

る斗りで効果なく、友達に相談すると、昔の職人なぞは無茶な亂暴者揃ひで『自惚と瘡氣の無い者は有るもんか、淋病なんぞ誰だつて罹る、酒を飲んだり脂肪濃い物を食べて毒を出して仕舞へば自然に癒る』と云ふので、私も若い生意氣盛りでしたから、その通り實行した爲めヨク／＼惡くして仕舞ひ尿道口は赤く腫脹上り排尿の後に血尿が出、夜も眠むれぬ痛さに我慢が出來ず、醫者に通つて洗滌や尿道を擴げるブーヂー挿入の激痛に慘々泣かされましたが一ケ月斗りで痛みが薄らいだのを良い事にして、金に限りの有る職人の身ですから醫療を打ち切りましたが、痛みの止まつたのは

慢性に移行

したので、それからと云ふものは來る年も來る年も、陽季の更り目とか激しい仕事で身體を使つた後とか深酒の翌日などはきまつて尿が茶褐色に混濁し、疼痛があり尿道に沿て押して見ると少量の膿が出て絶えませんでした。安醫者にして賣藥なぞを飲んで居ると大抵一週間位で癒つて仕舞ふので別に氣にも留めず放置しましたが、これが後年家庭に恐ろしい暗影を投げ掛けるとは神ならぬ身の知る由も有りませんでした。

淋病にコリた

私は道樂を止め、稼いだ甲斐が有つて小金も出來料理屋の株を買ひ之が旺盛に行つて次第に顧客も廣くなり、人手もいるので世話さる〻儘に今の女房を貰つて氣を揃へて働き出しました。處が半年斗りすると達者な女房が顏色が惡くなり惡臭の下物が始まり足腰が痛みヒステリーになつたので喫驚したが元の起りは私の罪にあるのですから嫌がつて尻込するのを勸むやうにして醫者の診察を受けさせますと淋毒から來た子宮内膜炎でこの儘にして置くと不姙症や色々の婦人病の原因となり

一生の不幸

を見ると云ふ話で、私は慘々女房に嫌味を並べられ閉口し醫師に相談しますと私の慢性淋も根治しないと尿道狹窄になり、尿浸潤から恐ろしい尿毒症や又は淋毒性睾丸炎や副睾丸炎となり足腰も立たぬ様になることが有るとの事で、夫婦一緒に治さなければ駄目だと云ふので揃つて治療を受けることになり、幸に女房は初期だつたので經過良く二ケ月斗りで全快しましたが、私は商賣柄ヤレ組合の會合だとか、來客の座敷へ呼ばれたり兎角飲酒の機會が多く、治療もハカ／＼しく行かず、再び女房に感染さす様な事が有つたら大變ですから、種々豫防法を講じ味氣無い思ひで居りました時、懇意な客筋の一人が「淋病なら今度出來た

ケンゴールが良

いから使つて見ろ」と教へて被下いましたが、其藥は新聞に時々一頁の大廣告を出すので知つて居りましたが『山カン藥』だらう位に思つて聽き流して居りましたがその客は來店の度毎に『何故試さないのだ、ケンゴールは前吉原遊廓病院長が永年の經驗と學理に基いて研究に研究の結果發表された藥で、俺も實は使つて治つたんだから』と恥を割つての熱心なお勸なので、ツイ使つて見る氣になり近所の藥屋から慢性用十五日分を買ひ求め醫療を止めケンゴールを試して見る事にしましたが、新藥だけあつて外の藥と違ひ尿道へ塗布する位少量注入すれば良いので

使用が簡單

で素人にも出來安全で刺戟も少なく仕事の邪魔にもならず、こんな不思議なもので効果が有るものか知らと半信半疑二三日注入をしますと、今まで少なかつた膿が急に増えて來たので喫驚し、藥屋へ電話をかけると「それは藥の効いた證據だから心配せず根氣よく續けなさい」との話なので、更に一週間程注入しますと膿がピタリ止まつて仕舞ひました。大喜びで尿をガラスのコップに採つて透かして見ると未だ淋糸があるので又十五日分取りよせて使ひましたが毎朝このコップを見るのが樂しみで、一日より一日と減つて行くのが目に見えて解り、浮遊物や淋糸が無くなつたのは二十日目の朝でした。私は苦しみに苦しんだ慢性淋を

根本から征服

したかと思ふと晴れ／＼として二十年振りで大安心を致しました。其後試驗的に深酒をして見たり、板前で夜更しをして冷え込む事が有つても絶對に再發致しません。私は馬鹿正直で人の云ふ事は何でも一應は信用する性格ですから、良いと云はる〻儘に最初のうちは手當次第、尿が藍色になる藥だとか、出蝶の黒燒だとか、白檀油なぞ飲みましたが効目なく賣藥にはコリ／＼して居た矢先ですから、ケンゴールも初めは疑つて使用を迷ひましたが實驗して絶大な効力に驚嘆しました。世間には淋病藥の選擇にお迷ひの方も多いと思ひます。御使ひになれば速く効果の解る事ですから敢て私がケンゴールの提灯を持つ必要も有りませんが事實を事實として申上げるこの體驗談が皆様の御參考になりますれば此の上もない幸だと存じます。

前東京吉原病院長佐藤榮先生發明泌尿科醫學博士山崎和雄先生製劑指導のブラオン錠、ケンゴールは急性用、慢性用、婦人用の三種あり、藥價は二〇瓦三十日量三圓八十錢、五〇瓦十五日量七圓、八〇瓦五十日量十圓、全國薬外有名藥店にあり。品切れの際は東京芝三田通新町十三、日東藥化學研究所へ直接申込まれよ。振替東京三一九四三番。使用法其他詳しき説明書ハガキ申込次第無代進呈す。

優秀商品紹介號

株式會社 山口商店 大阪 備後町 G.Y.

取扱品目

加工綿布
人絹織物
毛織物
モスリン
冨士絹
綿ネール

仕向地

日本内地一円
朝鮮 滿洲
支那 印度
南洋

國難日本刀 (254)

高桑義生 作　京極佳夕 畫

曙の勇士 (九)

弓之助はまつたく元氣を回復した。彼は一團の人々の中から、中濱萬次郎の顔を見出した。そして

「わたくしだけの力ではないのです。みなさんが陰になりひなたになつて、力を盡して下すつた。殊に中濱氏、あなたの助力があつたればこそ、わたくしの及ばぬ處を補ひ、今日速かに解決されたことを、感謝します」

萬次郎は微笑した。

「さういたしまして。わたくしは何も……」

「さうして、楊さん、あなたの骨折は、大變でしたね」

「わたし何もしなかつた……」

「お千さん、有難うございます」

「いゝえ……」

弓之助の禮に對して、誰も、はづかしさうに、自分の功を否定した。美しい情景だつた。

随一の親米家として知られ、今度の借入金の提唱者であり、裏面で最も盡力した中濱萬次郎、そのために賣國奴との、しられ、幾度身邊の危險におびやかされたか知れない彼だ。が、萬次郎は日本人だつた。日本國民としての自覺をもつてゐた。永年アメリカに生活し、最も意味ふかい青春時代をそこに送つたが、むしろそのために眞に民族的自覺に到達してゐたものであらう。サンダースン一味の陰謀を看破した弓之助が第一に、この萬次郎に協力を求めたのは、最も策を得たものだつた。弓之助の意氣と信念は萬次郎をうなづかしめた。そして弓之助が探つた秘密は、直に萬次郎につたへられ、勝安房守の耳に入つた。だが、幕府の威權回復策の主謀であり、征長の軍資金を米國から借入れようとした小野上野介は、容易に勝の意見を肯かなかつた。攘夷の諸公、すなはち幕府の硬骨派も、米國の好餌に眩惑されて、機運は動かなかつたのだ。如何に意氣の燃ゆるものがあつても、安房守の力だけでは、幕府の態度を動かすことが出來なかつた。

それで、たしかな證據を、果してサンダースン一派が陰謀を企てゝゐるといふ證據を得るために、弓之助は敵慨いよ〳〵迫るを知つてサンダースンにぶつかつたのだ。さうして彼は陷穽に落ちたが幸ひにその間に、萬次郎は上野介を説服して、幕府の態度を決せしめた。幕府は萬難を排して、最後の覺悟をきめて、米國公使に抗議を發した。

幕府の態度。幕府は強かつた。さうして勝つた。米國公使は、サンダースン一派を本國に關係のない大山師として追放することになつた。が、果してサンダースンは大山師であつたか? 母國アメリカとは無關係であつたか? 否、彼の畫策によつて、アメリカ軍艦が父島に來航した事でもわかる。嘉永の昔、ペルリが父島に貯炭所を設けた頃から、アメリカの東洋における野心が培はれてゐたのだ。サンダースンがアメリカの陰謀の手先でなかつたとは、誰が言ひ得よう。

魔手をさし延べたものはアメリカには限らなかつたであらう。混沌たる日本、當時の擾亂に乘じて英米佛露……いはゆる列強はひそかに野心を包藏してゐたに違ひない。だが、日本は、日本民族は、この國難に當面して、つひに更生したのだ。それは後の話になるが――。

さて、弓之助は小笠原島を確實に日本の領土とすることを力說した。彼は島の歴史を語り、當然日本國の一部であること、眇たる一島嶼であるが、このまゝに放任して置く時は、かならずアメリカ、イギリスなどの乘ずるところとなり、後日の禍根となるであらう――。

「斷乎としてやるのです。正義と意氣の前に、刃向ふ敵はないのです」

穴藏の中での數日の疲勞、苦痛を、忘れたやうな弓之助である。紅一點のお千は、われを忘れて明眸を、彼の横顔に吸ひ寄せられてゐた。

本紙特選 新棋戰 (其六)

角落　八段 △土居市太郎
四段 ▲志澤春吉

【圖は八六歩角迄の局面】 土居氏持駒 歩歩歩

▲七三桂　△五五歩
▲同歩　△同金
▲五二飛　△五六歩
▲六三歩　△四五歩
▲五四歩　△四四金

【土居八段談話】志澤君は敵の五五歩に對し同歩以下六三歩と打つて金の行動を束縛し、敵をして急戰の已むなきに誘つたのは老練な指し振りである、上手五六歩打は策を誤つてゐる、一旦五三歩と打ち捨て敵飛車を釣り上げ、而して後に五六歩と打つ方が攻防ともに指しよい、次に四四金の處は四四歩、五五歩、四三歩成、同金、五五歩と指す方が優る。

【萩原六段解説】志澤氏の七三桂は敵の八五歩突に備へたのと六筋の攻撃の準備である、土居八段の五五歩は金を左翼に用ひ、模様によつて六四金出や又五六金の形にする意味に五五歩と突いたのである、此で四五歩と攻めると敵に六二飛と廻られて六筋より攻められて惡いのである、然しこの四五歩の攻めに對し敵が同歩なら同桂、四四銀、二四歩、同歩、二五歩と攻めて次に二四歩と打つと上手も面白いのである、故に下手は八四角の形にした場合は上手の四五歩の攻めに對しては同歩と取らん方がよいのである、志澤氏の五二飛は敵の六四金を防ぐ手で又六三歩は敵の六四金出を防ぐ狙ひ手である。

今夜の阿部幸次氏の獨唱會

若きテナー阿部幸次氏獨唱會は二十五日夜協和會館で開催されるがプログラムは左の如くである

◆第一部 (一)マリア・マリー、ナポリ民謠、月夜のセレナータ同 (二)子守歌(中國地方民謠)山田耕作曲、六騎同 (三)日本國民歌山田耕作曲、歡喜の歌古賀政雄曲、霧峰富士山田耕作曲 (四)ヴアイオリン獨奏梅本精三 (五)歌劇ボヘーム中より(お、冷き手よ)プチニー曲

◆第二部 (一)よしきり山田耕作曲、ペチカ、夢森沙華同 (二)娘々祭園山民平曲、五月祭園山民平曲、今永茂詩、老虎灘小唄に唄ふ同、新滿蒙園山民平曲、阿部幸次曲、西創生詩、滿洲野石森延男詩、熊岳城小唄齋藤佐和曲、今永茂詩、春宵園山民平曲今永茂詩 (三)歌劇リゴレット中(あれもこれも)ヴエルデイー曲、歌劇道化師中より(笑へ道化師)レオンカバロー曲 (四)ピアノ獨奏哀詩山田耕作曲齋藤佐和 (五)蚤の唄ムスルグスキー曲

ひろじ會例會

ひろじ會では來る二十七日午後六時から連鎖街事務所にて淨瑠璃會を催すが番組左の如くである

御祝儀(入登)、籠坂(勇)、宿屋(都月)、太十(鶴松)、御所(綱玉)、當四(長門)、酒屋(元山)、沼津(三右)、阿漕(五月)、合邦(喜鶴)、五斗(松花)、三味線廣治

聯盟脫退と財界影響

―火蓋は切られた―
脫退が齎らす 財界への影響如何
各方面の所見を聽く

愈々最後のドタン場まで來た、二十四日の聯盟總會は我が公正なる主張に一顧も與へず、四十二對一を以て現實無視の架空的勸告案を採擇した、我が帝國の最後的決意は去る二十日の閣議で確定、磐石の搖も來さない、その後に來るもの聯盟脫退はいふも野暮だ、既に豫期されてゐたことゝてこれによつて我が財界が直接重大な影響を蒙るなどとは考へられないが、聯盟が制裁手段として第十六條第一項の經濟封鎖を敢行したらどうなる、第一經濟封鎖そのものが可能であるか、今假りに最惡の場合を豫想せば、經濟封鎖卽ち戰爭の挑發だ……投ぜられた聯盟脫退の一石の波紋は今後凡ゆる方面に波及して行くであらうが、第一經濟界、殊に滿洲の財界にとつてどんな影響があるか、各方面の識者の意向を左に紹介する

事態の變化には 對策を講じてる
三井大連支店長 阿部重兵衞氏談

日本の脫退によつて如何なる影響を來すであらうかは、列國今後の態度に徵さなければ何とも言へない、列國が果して如何なる制裁手段に訴ふるに至るかが判らぬためにも、各人の憹みがあるのではあるまいか、われ〳〵の方でも各國が如何なる手段を講ずべきであるか又それによつて如何なる變化、影響があるかについて早くより本店其他と打合せをやつてる次第だ、或は一部で豫想する如く經濟封鎖を敢行するに至るやも知れぬが、その場合の覺悟等についてはかれ〳〵社員等の緊張を促してゐる經濟封鎖を決定したにしても、列國のうちには取引したいものもあらうし、且滿洲關係で云へば、滿洲は支那の領土だとして封鎖しないか、又は大連經由のものとか、日本船に積んだ貨物や、日本人の手を經たる貨物のみに壓迫を加へて滿鐵經由のものには何等の制限を加へぬとか、色々と考へられる殊に支那との關係か、如何になるかも重要視すべきで、要は聯盟各國の態度がはつきりしなければ何ともいへない

ここには努めればならぬのであるが、これは完全なる經濟封鎖が出來ないといふ前提の下に考へて行くべきだ、そこで國民は萬事政府の指導の下に躊躇せず、落着いて各々の業務に精勵すれば足りるのである、また一つの方法として、今度の舉は滿洲國の問題からおきてゐるのであるから、日本は上下を舉げて滿洲國の健全なる發達を圖るやう努めて行かねばならぬ

見苦しい 態度をやめよ
築島國際專務談

既に豫想されてゐた問題であり、今更これによつて財界が狼狽するやうなことがあつては見苦しいと思ふ、現在多少戾しはしたが、先般聯盟の空氣の險惡化の報を傳へて、東株、大株市場など隨分狼狽したよやだつたが、今少し大國の襟度を示して落着きがなければいけないと思ふ、兎に角時局を靜觀して善處することが緊切である、

最惡の場合を 覺悟せよ
高田商議會頭談

聯盟も遂に落着く所に落着いた、日本としては既に覺悟してゐたことであるから、こゝに今更狼狽する必要はない、こゝに考慮すべきことは第十六條に規定する制裁である、經濟封鎖といつて到底出來ることではないがそれかといつて無關心にゐる譯にもいかぬ、この際國民は近狀並に最惡の場合を區別して相當の肚をきめてかゝらねばならぬ、最惡の場合とは卽ち完全なる經濟封鎖――卽ち戰爭を挑發する行爲であるが――此場合日本は近代的工業の發達と滿洲物資の利用によつて何等恐れるに足らぬ、現在の狀況と成る可く協調して行く……

今の處爲替に 影響あるまい
西正金支店長談

日本の脫退によつて聯盟各國が如何なる制裁手段に出るかは、今後に殘された問題であつて、わが財界に及ぼす影響、就中滿洲財界への波紋の如きは各國が果して如何なる態度に出るかによつて考察すべきである、恐らく列國として經濟封鎖の如きは容易に出來ないのぢやないかと信ぜられる

脫退によつて爲替相場がどうなるかといつても、一言に言へないが目下議會に審議されてゐる爲替管理法案も無事通過することになるだらうし、該法令が出れば、思惑的取引は全然出來なくなるのではないかと思ふ、國際關係がかうなつて來ると著しい輸入增を來すとも見えず、また移出も餘り期待さ……

日滿兩國の 協調に邁進
古田鮮銀店長談

內田外相が滿鐵總裁を辭せられそ……

れず、さうすると爲替關係だけでは甚だしい激動があるものとは考へられない、尤も今日以上に騰るといふことは海外情勢が變化せざる限り、國內的事情によつては期待されない、また今迄のやうなひどい低落もないと考へられる、尤も脫退といふ一時的衝動にかられ輸入手當をする、卽ち圓を賣るやうなことがあるかもしれないが、これも一時的現象に終らう、大連取引所の圓を賣る取引も、どの道日米にひどくやうにならうが、管理法が議會の模樣では適用されるかも知れぬから、從來の如き著しい影響はあるまい、經濟封鎖さなれば金融も個人的交通も縛られるやうになり、結局戰爭といふことになり、かくなれば國內の經濟機構も全然變つてきて所謂計畫經濟が實行されることとなりもう爲替などはどうならうと問題でなくなる

覺悟次第で 打開が出來る
東洋棉花支店長 奧田千三氏談

綿業者の立場から論じても既に今日あることを豫期してゐたから直接どういふ影響もあるまい、今後の進展次第であるが列國が日本に對して經濟封鎖といふ態度に出るかどうか疑問だ、現在でも既に日本物に對しては高率の關稅障壁を作り、その輸入を阻止せんとの態度を示してゐるが、今後これが作意的に益々露骨化して來ると大きな問題となり、輕々に論じ得ない、輸入棉花に就ては日本が困る以上に印度、米國が困らう、卽ちアメリカからでも現在一千萬擔以上の輸入を見てゐるが、それを禁止するとなれば現在の不況に更に輪をかけることゝなり、印棉は尙更日本にだけしか利用され難いものであるから、到底輸出禁止といふことは不可能だ、目先だけでいへば日本にも今相當ストックもあ……

の送洲案の措上、既に「焦土となるも辭せず」と堅い決心の程を披瀝され、我々も今日あるを豫期してゐたのであるから何も驚くに足りぬ、脫退すればその制裁、卽ち經濟封鎖といふことが考へられるが、これも何等案ずるに足りない第一そんなことが果して出來るか各國が足並揃へて日本に經濟的壓迫を加へるといふことは、その利害關係が一致してゐない以上到底出來ることではない、また出來るとしてもロシヤやアメリカといふ强大國が聯盟の埒外にあるではないか、兩國とうまく協調して行けばたとひ聯盟加入國が一束となつて來ても問題ではない、ロシア、アメリカなどが聯盟の尻馬に乘つて日本を壓迫するといふことは恐らくなからう、また日本が世界的孤立に陷つたとしても安政年代の昔にかへつたと思へば耐へられやう、人口が當時より激增したといふなら、そのはけ口は滿洲にあるし今後日滿兩國が互に相提携して行けば、たとひ經濟封鎖にあつても敢て意に介する要はない、我々國民は堅い決意を以てたゞ邁進あるのみである

金融界は インフレ濃厚
村井滿銀頭取談

今のところ大したことはないと思ふ、聯盟若くは外國がどんな態度に出でるかは輕率に豫斷は出來ないが、經濟的に日本を孤立させようといふやうなことは出來ないことだと考へる、金融界にどんな影響があるかといつたところでこれは國內的の問題で、從前と何等變りはない、たゞインフレの影響が今後どん〳〵現はれて來る位のも……

今更驚かない 充分に覺悟
山口郵船店長談

聯盟の脫退は當初より期待してゐたところで、かくなる上は飽迄わが所信貫徹のために邁進すべきです、これによつて列國の經濟封鎖を受くるが如きことあつても敢て驚くには當りますまい、列國の今後の態度が如何になるかは豫斷できませんが、列國が經濟封鎖をせずともそれに似た機運に一致すれば、自然衞動きは相當の制限を受けることになり、殊に我が郵船としては趾からぬ打擊を受けることと思ひます、然し、かゝることは脫退が豫期された以上、最初から覺悟もし、相應の對策も講ぜられてゐる筈だと思ひます

撫順炭の增掘費 三百萬圓に決す
二十四日の重役會議を通過 總裁の認可を仰ぐ

撫順炭礦の七百萬噸採炭計畫に伴ふ炭礦八礦八年度豫算の更正について二十四日滿鐵重役會議の開會を見たことは既報のごとくであるが、探聞するところによれば本追加豫算は同日の會議において在連各理事の承認を得、直に

在京中の 林總裁の決裁を得べく打電された、案の內容は最近の物價騰貴により機械類が數割……

剝土作業 及び增掘に要する電氣ショベル二臺を中心にダンプカー、機關車、レールその他で二十四日の重役會議にては約三百萬圓の追加豫算が可決された、なほ久保炭礦長は二十四日夜行にて歸撫したが精密な事業計畫案を携へて約一週間後に再び上連する筈

陸路貿易の激增 一月中成績
小麥十二倍煙草十倍

關東州の一月中海路輸入額は既報の如く二千九百卅四萬四千七百一圓であるが、右の輸入額に對し一月中汽車便にて輸移出された額卽ち對滿洲國陸路輸出額は一千九百五十萬一千百九十四圓を示し州內輸移入額の六割六分五厘に當つてゐる、之を前年同期に比較すれば實に十四割四分、一千百五十萬一千四百二十一圓の著增を示してゐる、今主要なるものに就き、前年……

舊官銀號機構の解消と 特產界の展望（上）
購運事業と金融重要性
新京にて 日笠芳太郎

特產商側の滿洲中央銀行に對する强襲の実餘なる「張派と擇ぶ所なし」といふ批難と「何が王道政治だ」といふ激語に對して公正なる批判は

一、張閥の特產買占は值段に頓着なく數量の增加をのみ念としたもので、買占後の貨幣價值を下落せしめ或は奉天票の如く無價值に等しき迄に暴落せしめ、貨幣價值の亂高下を以て利益を獨占したのだから、亂暴至極の虐政であつた、勿論特產商賣は確實に損であつて、其損失を各店の勘定に明記してあるが、一方貨幣價值の人爲に依る高低を利用し、兌換益として利益を計上してゐたので、其額は甚だ大きい、而して中銀に對する批難がこれに當るかどうか？中銀は決して貨幣價值を上下してはゐない、貨幣價值は一般商人と同一であるから此點に被害者は無い筈だ、假りに買占や買煽りをやつても、其損失は中銀が商賣だけの勘定で背負はねばならぬし之を埋める方法はない、故に商賣上損失を招くやうなことはせぬといつてゐるが雜者の適話な

る批難は以上の事實に依り全然當つてゐない

二、王道政治云々の酷評は貨幣價值を左右する行爲の有無に依る結論として發せられる譯であるが、張閥と同じやうなやり方をしてゐればさういはれても仕方がないが、既にそんな事實がない以上斷かる批難は當らぬ、唯一場の激語として聊か程度を失するものといふ外はない

◇

と見られてゐる、勿論當業者の結論的要望が買付中止である理由は、此の如き批難の起る事實を指摘したものではなくて、端的に云はゞ自己の商賣に都合が惡いから止めて呉れといふのである、併し此蟲の好い注文も、實は的を外れてゐるので、商賣敵は中銀にあらずして中銀の買控へに乘じて躍進してゐる滿洲の商人であるべき……

市況（廿五日）

特產 大豆低落 銀高と買氣薄で
豆 銀 株 糸
株式 內地株高で 地場株昂騰
商品 麻袋引締り 綿糸上放れ
滿鐵株（强調）
上海爲替情報 爲替相場 奧地相場 錢鈔 各地特產發送高 大連埠頭到着高
市場電報 銀塊及爲替 大阪株式 東京株式 大阪期米 神戶期米 東京期米 大阪綿糸 大阪棉花 橫濱生糸 印度麻袋 棉花 神戶日米

砂糖商狀賑ふ

見本市兩地開催 近く認可

大連管內 十二月主要工業

豆粕の變質を 研究開始

平和に輝き、希望にみちた満洲國が生れてはや一年になります、三月一日はそのおめでたい建國記念日にあたるので首都新京を初めいたるところ盛んなお祝ひの旗行列が行はれることになつてゐます、方々を荒し廻つた悪い匪賊も殆ど平げてこれからは色々な産業も盛んになるでせう、長い間悪い政治に苦しめられた三千萬の人々はこの新しい満洲國を世界中どこの國にも劣らない立派なお國にしやうと一生懸命です、お隣に出來た幼い満洲國のためにわが日本はまつ先きに兄弟國となりました、さうしてこれから仲よく手をつないでゆかうとしてゐます、おめでたい建國記念日にちなんで古い歴史をもつた満洲國についてお話しませう

満洲國が生れてはや一年
三月一日はめでたい建國記念日

（1）大昔から支那と満洲を區切つた萬里の長城―山海關から北平の北を通つて何百里も西の方へつゞいてゐます

（2）鴨綠江上流にある高勾麗の遺跡―高さ六メートル好太王の碑で今からおよそ千五百年昔に建てました

（3）奉天の北陵―溥儀執政の御先祖で清朝の第二番目の皇帝大宗文帝は中央の白い土饅頭の中に眠つてゐます、この方は蒙古方面の征伐で勇名をとゞろかせました、又奉天に帝都を定めた最初の皇帝ヌルハチは太祖武帝といひます

（4）錦州城内にある高勾麗時代の城門―こゝは古い昔から蒙古貿易の要路となつてゐました

（5）金の上京―ハルビンの東阿什河といふところにあります、およそ八百年の昔こゝに立派なお城や市街があつて今でもその頃の器物が掘り出されます

（6）榮光に輝く首都新京―人口百萬の大都市を目標に素晴らしい勢ひで家がたつてゆきます、寫眞は中央廣場を中心にみた未來の新京の設計圖です

（7）お若くて賢明な満洲國の元首溥儀執政とお美しい鴻秋妃

満洲と支那は昔から萬里の長城が境
溥儀執政を新國家に迎へる迄　面白い満洲國の歴史

ず

つと大昔から満洲に住んでゐたのは肅愼といふ民族です、三千年も昔のことですから穴のなかに住んで豚の肉をたべ皮をまとひ、見るからに強さうでした、そこに新しい二つの國が出來ました、鴨綠江附近の高勾麗と長春附近の扶餘がそれです、凡そ二千年昔のことです、どちらもなかなか立派な國で扶餘は三百年で亡びましたが高勾麗はますます榮えて七百年もつゞきました、その頃支那は戰國春秋の時代といつて、ひどく國が亂れてゐましたので、高勾麗は支那本土や北朝鮮までも勢力を伸ばして大きな領土をもつてゐました、皆さんは神功皇后さまの朝鮮征伐を知つてゐるでせう、高麗、新羅、百濟をあはせて三韓といひましたが、高麗は實は満洲の高勾麗國のことで日本では朝鮮の一部だとばかり考へ違ひをしてゐたのでした、こんなに榮えた高勾麗も今から千二百年程前天智天皇の頃に唐のために亡ぼされてしまひました、唐は何べんもこの高勾麗を攻めましたが散々な目にあつて大連附近までもどんどん追はれてきたことさへあつた程です。

そ

の後まもなく渤海國が興りました、ロシアのウラヂオストックの方までも平定してなかなか大きなお國になりました、恰度わが國では聖武天皇の御代で日本へもお使を出して交際をもとめてきました、こんなに古くから日本と満洲國とは正式なまじはりがあつたのです、渤海の次には満洲國の一部である熱河省から契丹民族が興つて遼といふ國をたててましたが南の方に勢力を伸ばして不便だつたので遼の政治に力を入れなかつたゝめ、再び渤海が盛り返して金といふ國をつくりました、これが恰度今から八百年の昔、源義家が安倍貞任を亡ぼして源氏が榮えようとする頃でした、金は今のハルビン附近に立派なお城をたてて支那の宋を侵し大きなお國になりました、遼金時代といつて満洲獨特の文化が一番榮えた時代です、その次に現れたのは成吉思汗といふ偉い蒙古の大將でした、支那はもちろんヨーロッパの今のイタリー附近までも征服して世界中で一番大きな元といふ國をたててそれはそれは素晴らしい勢ひでした。

わ

が國の弘安四年の元寇の役といふのはこの國が攻めてきたのでした、北條時宗がよく戰つて雲霞のやうに押よせた大軍を見事に打ち破つたのを御存じでせう、こんなに強かつた元も色々と内亂があつたために初めて漢民族の明に亡ぼされてしまひました、豐臣秀吉の朝鮮征伐の時、明は朝鮮を助けて刃向ひましたが、程なく仲直りをして、明の使が、はるばると海を越えて大阪城にやつてきました、さうして「秀吉を日本國王にする」といふ無禮な手紙を持つてきたので、秀吉は大いに怒つて、明と戰ふために再び朝鮮征伐に出かけたことがありました、明は二百七十年の間満洲と支那に勢力をふるひましたが今度は満洲から興つた清のために亡ぼされてしまひました、撫順の東の興京といふところから努爾哈赤といふ偉い大將が出て明を追ひ拂つてそこに満住國をたてたのは三百二十年前のことです、これが後に明を亡ぼして全支那を平定し代々皇帝となられた清の太祖であります。

満

洲から清朝が今の北平に首都を定めて十二代の皇帝がつゞきました、新しい満洲國の元首さまである溥儀執政は宣統帝と申して十二代目の天子さまでした、皇位を退かれて二十年を經た今日、満洲三千萬の人々から迎へられて再び御祖先の地にお歸りになつたことはどんなに感慨深いことでせう、元來私達のいふ支那人は漢民族といつて黄河の川べりに起つて今日の支那をつくり満洲に住む民族を北夷などゝ野蕃人扱ひにしてゐました、萬里の長城といつてお屋敷の塀のやうな城壁が山海關からずつと西の方へ幾百里とつゞいてゐます、これは昔支那が外敵を防いだところです、だからお塀の外は支那とは別な満洲であつたことがよくわかります、そこに新らしい満洲國が生れたのは當然のことといはねばなりません。

萬里の長城を自動車道路に　當にならぬ支那の話

萬里の長城は今から凡そ二千餘年も以前秦の始皇帝といふ強い大將が外敵を防ぐために高いお塀のやうなものを二千五百哩もつくり、このほか用もないのに大へん大きな阿房宮といふ自分の御殿もつくりました、馬鹿のことをあほうといふやうになつたのはこれ以來のことです、お話は元へ戻りますがこの萬里の長城を修繕して自動車道路に使はうといふ計畫が支那政府で問題になつてきました、何でも口さきばかりでなかなか實行しない支那のことですから計畫だけでお流れになるだらうといはれてゐます

『満洲』といふ名はどうして生れた？

どうして、どこから満洲といふ名前が生れたのでせうか、これには色々な面白い説があります

×

満洲實錄といふ古い本には清の太祖努爾哈赤（ぬるはち）がまづ満洲一帶を平定してそこに「満洲」といふ新しい名前をつけたと書いてあります

×

一説には、祖の譲去したのちの、おくり名が「満住」といふ名であつたためともいひます

×

女眞族の酋長に「李満住」といふ人があつて、太祖の興つた渾河の上流には「満住」と名のつく人が非常に多かつた――これは朝鮮の古い本に書いてあります。

×

こうした似通つた言葉を次々と通つてゐるうちに、何べんも變化して次第に今日の名になつたのではないでせうか。

×

支那人のこ
とをロシア語でキタイスキーと言ひます、これは今の熱河省に興つて満洲に「遼」といふ國をたてた契丹族（キタイぞく）といふ民族の名をとつたものです、恰度それは今の支那全體を満洲民族（正確に言へば蒙古人との雜種族）の名で呼んでゐることになつて面白いではありませんか。

それから又、チベットから清朝に捧げた手紙のなかに「曼珠利大皇帝」といふ宛名を使つてゐます、これは印度の佛教文字で非常に尊敬した言葉になるさうです。

×

さて、このうちどれが今日の「満洲」の起源になつたかはつきりと判りませんが、或は

牡牛を倒し人を救ふ　感心な警察犬

ニューヨーク州のある農園に飼はれてゐたおとなしい牡牛が急に狂ひ出して、お掃除のために檻の中へ這入つた仲よしのネーフといふ勞働者にとびかゝつてきました、せまい檻の中で逃げ場をふさがれたネーフは何べんも角で突かれながら大聲で救ひを求めてゐますと、これを聞いた農園の飼犬が飛んできて猛りたつた牡牛のの元に咬みついたので漸く危い一命が助かりました、この飼犬は賢くて評判のよい警察犬でした

第卅五回　こどもの考へもの
これはへんだ　電氣スタンドでなし

これはどうもむづかしいぞ、寫眞の置き違ひでせうね、電氣のスタンドにしてはたれさがるはずのフサが上をむいてゐます、なんでも應接室や會社などにはたくさん使はれてゐるものださうです、何でせうか、わかつた方は來る三月五日までに大連市東公園町満洲日報社内「満日日曜附錄係」あてにハガキでお答へください、正解者にはいつもの樣に籤をひいて二十名に限りご褒美を差上げます

第卅三回の答　ソロバン

第三十三回の考へものはソロバンを裏から寫眞にとつたものでした相變らず正解者が多いので籤をひいて今度は左の方々にご褒美をあげることにしました、大連市内の方は當籤通知のハガキを持參して本社でご褒美とお引きかへください、沿線の方には直接お送りいたします

當籤者

▲撫順河本茂▲奉天河田宜昌▲同大神正保▲鞍山中野政志▲普蘭店岩切亨▲新京村上康夫▲四平街小野澤裕逸▲遼陽追誠司▲新京鈴木良子▲旅順橋本美代子▲大連金崎順▲同松下正敏▲同宮西一子▲同片岡鈴子▲同井手布美子▲同今津始▲同河本順子▲同石田芳雄▲同山形時子▲同佐野清子

なほ當籤者の方はご褒美の中にある森永のミルクキヤラメルやチヨコレートの空箱を必ずお菓子やさんの店先にある支那事變の「戰傷兵士を勞はりませう」と書いた箱の中にお入れください

おことはり

日曜練習課題の先週のお答へは第四面にあります

三千頭の馴鹿が
アラスカからカナダへ
二年まへから駈けつゞけてゐる
エスキモー人大喜び

動物が大きな群をつくつて移動することはご存じでせう、鼠の群や狼の群がシベリアの廣い野原を何萬と隊をくんで食物のないところから食物のあるところへ、寒いところから暖かいところへ幾十日も幾百里も進んでゆくことは度々です、今度アラスカの荒野を三千頭の馴鹿がドン〳〵東の方へ進行中です、しかも二年も前から駈けつゞけてこの頃やうやくカナダとアラスカの國境までやつてきました、此調子でゆくと今年の夏あたりカナダのマツケンジー河に到着するだらうとエスキモー人は手具脛ひいて待つてゐます、エスキモーは狩の上手な人種ですから一頭も殘さずにうちとめて、おいしい肉も澤山たべやう、よい毛皮の服もつくらうと、まだ馴鹿のこない半歳も前からホクホクものです、世界地圖を御覽なさい、アラスカは南北アメリカの一番西の端にあります（寫眞はトナカイ）

電氣仕掛のチウ助退治

アメリカのセント・ルイスで開かれた發明品展覽會で一番人氣のあつたのは電氣仕掛の鼠とり器でした、この鼠とり器は金屬のお皿に電氣を通し、その上に御馳走をのせておきますとチウ助さんがそれをみつけて失敬しやうとすると忽ち電氣死刑にあふ仕掛けに出來てゐます

歐洲大戰豫言の千里眼のお婆さん死す

十五年も前から歐洲大戰を言ひあてた千里眼の名人リスベート・ジードラーといふお婆さんが最近ドイツのベルリンでなくなりましたこのお婆さんはドイツ軍人の集まつた所で歐洲大戰の起る原因や、日時まで豫言しましたが、果して一九一四年の七月オーストリアの皇太子がピストルでお撃たれになつてセルビアとの戰爭が始まり世界の人々をアツと驚かせました、ドイツの參謀本部では戰爭毎に幾度もこのお婆さんに勝敗をみてもらひましたが一つとして間違つたことがなく最後にドイツが敗北する事までちやんと敎へてゐました

コドモ　ノ　オハナシ
ボク　ノ　マリ
マサモト・イサム

ボク　オカアサンカラ　マリ　ヲ　カツテ
モラツテ、ヒトリデ　ソノマリト　マイニチ
アソンデヰマシタ。
カベ　ニ　ナゲツケテ　ポント　ハネカヘ
ツテクルノヲ　ウケテヰタノデスガ　チカゴ
ロ　オヤネ　ヲ　コスコトヲ　オボエマシタ
ニイサンカラ　オシヘテモラツテ。
ニイサン　ガ　オウチ　ノ　マヘ　ニ　ヰ
テ　ボク　ガ　ウラ　ニ　イツテ　コシヤイ
コ　ヲ　シマス。
「イクヨー　イクヨー。」
ツテ　ニイサン　ガ　イフト　ボク　ガ
「アーイ。」
ト、イヒマス。スルト　シロイタマガ　オ
ヤネ　ノ　ウヘ　ヘ　スツト　タカク　ミエ
テ、ソレガ　モンドリウツテ　ボク　ノ　ア
タマ　ヲ　コシテ、ウシロ　ノ　ハラツパ
ノ　マンナカ　ヘ　ポント　オチマス。
ボク　ハ　コロガルヤウニシテ　オツカケ
テ　ユキマス。ボクガ　ヒロツテクルト　コ
ンドハ　ボクガ　オウチ　ノ　ハウ　ヘ　ム
イテ
「イクヨー。」
ト　イヒマス、ニイサンノ
「アーイ。」
ト　イフ　コエガ　キコエテキマス。
ボク　ハ　一シヤウケンメイデ　ナゲマス
ガ　ナカナカ　コエラレマセン。オヤネ　ノ
ナカホドカラ　アトガヘリシテ　オチテキマ
ス。ボク　ハ　イソイデ　マリ　ヲ　ヒロツ
テキマス。
「ナニシテルンダー。」
ト　ニイサンガ　ドナリマス。
「イクヨー。」
ト　イツテ　マタ　一シヤウケンメイデ
ナゲルト　コンド　ハ　ヤツト　オヤネヲ
コシマス。
ボク　ハ　ダマツテ　ニイサンノ　コエ
ヲ　マツテヰマス。ト
「イクヨー。」
ト　イヒマス。
「アーイ。」
ト　イフト　マリ　ガ　マタ　トンデキマ
ス。オヤネ　ノ　ウヘ　ニ　マリ　ガ　ミエ
タカラ　ボクハ　ウシロムキ　ニ　ナツテ
ムチウデ　ハシツテイキマシタ。
ナンダカ　マリ　ガ　ポント　ハネカヘツ
タノヲ　ミマシタガ　ソレキリ　ドコヘ　イ
ツタカ　ワカラナクナツタンデス。
アツチ　コツチ　サガシマシタガ　ミツカ
リマセン。
ボク　ハ　ナキゴヱデ、
「マリ　ガ　ナイヨー。」
ト　イフト、ニイサン　モ　ヤツテキテ
サガシテ　クレマシタ　ダケド　マリ　ハ
トウトウ　ナカツタンデス。
ボク　ハ　アクル　ヒ　モ　ハラツパ　ヘ
イツテ　サガシマシタ。
「ア、マタ　カツテアゲルカラ」
ト　オカアサン　ガ　オツシヤイマシタ。
アノマリニハ　ニイサン　ガ　チヤント　ボ
クノ　ナマヘ　ダト　イツテ　エーゴデ
M。コンナ　ジ　ヲ　カイテ　クレテ　アリ
マシタ。
ダカラ　ダレカ　ガ　ヒロツタラ　キツト
モツテキテ　クレルンデス。ガ、ダレモ　ヒロ
ツテキテ　クレマセン。
「マリ　ガ　ナイカラ　ツマンナイナア。」
マイニチ　サウ　イツテヰタラ　オカアサ
ン　ガ
「イマカラ　マリ　ヲ　カヒ　ニ　ユキマセ
ウカ。」
ト　イヒマシタ。
「ボク　モ　イクヨ。」トイツテ　イソイデ
フク　ヲ　キカヘテ　オカアサン　ト　フタ
リ　デ　デカケマシタ。
ウレシクテ、ウレシクテ。
ウラ　ヘ　デテ　ハラツパ　ヲ　ヌケテ
イクト、シナジン　ノ　チヒサイ　オウチ
ガ　ナランデ　ヰマシタ。
ソノ　アヒダ　デ　アカイ　キモノ　ヲ
キタ　シナジン　ノ　コドモ　ガ　タクサン
アソンデヰマシタ。
ボク　ハ　ソレ　ヲ　ミイミイ　ユキマシ
タラ、フイニ　ボク　ノ　アシモト　ヘ　コ
ロコロト　マリ　ガ　コロガツテキマシタ。
シナジン　ノ　コドモ　ガ　ナゲタンデス。
ボク　ハ　ハシツテイツテ　マリ　ヲ　ヒ
ロツテヤラウ　ト　シマシタ。
「シヤー　シヤー。」
ト　イフ　コエ　ガ　キコエマシタ。ボク
ハ　マリ　ヲ　ヒロツテ、ヒヨツトミルト
M　ト　イフ　ジ　ガ　カイテアリマシタ。
「ア、ボクンダ。」
サウ　オモツテ　シナジン　ノ　コドモ
ヲ　ミマシタラ、ミンナ　トテモ　ウレシサ
ウニ　ニコニコシテ、ボク　ノ　ハウニ　ム
イテ
「シヤー　シヤー。」
ト　イツテ　チ　ヲ　ダシテ　マツテヰル
ンデス。
「コレ　ボクンダヨ。」
ココロ　ノ　ウチ　デ　サウ　オモツタガ
ミンナ　ノ　エガホ　ヲ　ミルト、ボクハ
ダマツテ　ナゲテヤリマシタ。
シナジン　ノ　コドモタチ　ハ　キヤーキ
ヤー　イヒナガラ　コロガルヤウニシテ　ヒ
ロヒマシタ。
ボク　ハ　イソイデ　オカアサン　ノ　ソ
バ　ヘ　ハシツテユキマシタ。

春淺し・子らのかなづる明暗曲

痛む・小さき胸
試驗場風景五つ

ザラ紙の答案紙に噛ぢりついた痛ましい眞劍さをみてやつて下さい、試驗地獄の聲があがつて既に幾年、これを緩和すべき無試驗入學制度のために殘された受驗生は更に幾倍の試驗苦に喘がねばなりません、怒濤のやうな物凄い志望者の殺到を、デパートの盛況と同視すべきではありますまい、切實な大きな今日の社會問題です、惠まれない子供たちはその不運と不幸を自分の責任においてどんなに小さい胸を痛めることでせう

×　×

「ふむふむ……さうか」

中折のパパは試驗場から出てきたわが子の報告をきゝつゝ長嘆息を漏してゐます、親娘でのぞき込んだ試驗問題を持つ手は小さくふるへてゐるではありませんか

×　×

兄さんらしい金釦の滿鐵社員、セイラー服の姫さんと立ならんで賑かな談笑を交してはゐるが底に潜んだ不安さは打消すことさは出來ないいけたたましいベルがなると控室一杯のささやきがやんだ

「今度も、落ちついてやるんだよ」

激勵の言葉に無言のまま頷いて少女は立去るのでした

×　×

硝子越に聞える校庭の賑かなどよめきをよそに小さい子等は一心不亂です、遊びざかりの彼女等もセイラーの制服と女學生たる名譽を獲得するために一心不亂いぢらしい努力をつゞけてゐます

×　×

「何故この學校を志望しました？」

「働いて早くお父さんお母さんを安心させようと思つて……」

「ほう、感心ですね、運動は水泳がお得意ですね、水泳は面白いでせう」

緊張し切つた少女も巧なテストについ釣り込まれて無邪氣な笑顔をみせるが、俄に受驗を自覺したかのやうにまた堅くなつてしまひます

愛し兒の『非常時』
悲喜交々

林檎の如くはり切つてゴム毬のやうに快活な子供たちの世界にも矢張り暗い不安の影がある、新しい學帽とランド・セールに近く「一年生」たらんとする子らは力一杯の元氣で樂しいお唱歌をうたひつゞけてはゐるけれど、雲雀のやうに快活だつたお孃さんも、天眞らん漫そのまゝの坊やも、試驗苦に喘ぎながらいぢらしい勉强の强行軍をつゞけつゝ小さい心臟は不安と焦燥に大きくふるへてゐます、下級生から上級生へ益々自尊心を擴大する平穩な進級生にさへ「點數」の心配があり、「銀時計の約束」が解消される惧れが多分にあるとすれば芽出たく螢雪の功を積んで嬉しい花嫁姿を胸に描きつゝ校門を去らんとする彼女たちにも惱みがないと誰が言ひ得るでせうか、悲喜交々を織まぜた小さき子らの「非常時」にうつる淺春の明暗相はなんと皮肉な人生の縮圖ではありますまいか

もう幾つねたら……
こどもの「テンゴク」風景

うらゝかな早春の陽を浴びて無邪氣な園兒たちは小鳥のやうにはしやぎながら跳れ踊つてゐます、新しい學帽を被り、新しいランド・セールをつけて有頂天な少年少女たちも「一年生」たらんとする無上の誇りをどんなに嬉しく感じてゐるでせう

「もう幾つれたら學校へゆくの？……」

彼等にとつてお正月以上の期待である筈です、平和と歡喜にみちた天國のやうに純眞な子供の世界はなんと樂ましい明るさでせう

饒舌と哄笑
午さがりの校門朗か

學年試驗の憂欝と卒業の喜悦を織まぜて賑かな饒舌と哄笑が校門から吐き出されてゐる

「アタシ二番目の定義忘れちやつて…」

「駄目だつた」

アタシも…ゆうべの音樂會どうだつた」

「ステキよ、試驗と音樂會ミダブルの、よくないワ」

凡そ意味のない會話で彼女たちの憂欝はたちどころに解消してしまふのです

剛勇美人 女騎馬武者

木暮白茫

哀れ江波五郎の奇略に 長尾爲景が無念の最期

天文十二年のことです。加賀の國に一向宗土匪が起り、土地の豪族で、武勇の聞え高い、神保良衡江波五郎等と一手になりながら、長尾爲景に叛旗を飜へしました。爲景はその頃、北國に威を張り覇を稱へた猛將であつたから「小癪な奴ども、これぞ正しく龍車に向ふ蟷螂の斧だ。只一ひしぎに、取りひしぎくれん」と、早速出陣の用意をとゝのへ居城を後に、叛兵等の屯ぜる梅櫪野の方へ向ひました。梅櫪野といふのは、一望十里にわたる廣野で、森なり、小川なり茫々たる草は、ところにより、腰を浸するほど深く生ひ茂つて居りました。

爲景は勢ひを恃んで、最初から殆ど彼れ等を物の數とも思ひません。程なく、敵陣間近に進み寄ると、金切割の采配を、さつと打ち振つて「それ、者ども、かゝれや、かゝれ！」と、下知して、無二無三に突擊をはじめました。

この時、敵の先鋒は、江波五郎でありましたが、しばらく戰ひを交へ、懸命に取り支ふるうちに、次第に旗色が惡くなり、怺へかねたと覺しくて、そう／＼足並みしどろに、本陣の方へ逃げ出しました。

爲景はそれと見るより「やあ、醜き敵の振舞ひかな、その分ならば、追ひ擊ちにして、一人殘らず擊ち止めい！」と、みづから馬をまつ先に進め備へを亂して、一さんにその後を追つかけました。

ところが、丁度森と森との間の一きわしげく、茅萱の生ひ茂つたあたりへ差かゝつた時、爲景をはじめ、前後にあつた家臣ども、二十餘騎の一團は、あつと叫ぶ間もなく、人馬もろとも、地下幾條とも知れぬ大穴の底へ落ち込みました。

これぞ江波五郎の計略、わざと戰ひに敗けたやうに見せかけながら爲景を誘き出したもので主從がまんまと網の魚、罠の獸となつたと見るや、左右の森から、どつと伏勢が起り、又今まで、逃げ足の早かつた五郎の兵も、急に返して來て、三方より手痛く挾擊し、何の苦もなく爲景以下を討ち取りました。

そんなことゝは、夢にも知らずに、遲れ馳せに馳せつけた後續の一隊、主君の無殘なる最後を、且つ悲しみ且つ憤つて、いづれも必死の覺悟雄々しく、敵陣へ躍り込んだが、その中に、一だん人の目を惹く一騎の若武者がありました。

名ある勇士と思ひの外 花もはぢらふ女武者

容顏は花の如くに美はしく、緋縅の中二段を、ゆかりの紫に縅したる鎧を身にまとひ、半月の冑の緒を、しかと引き締め、片鎌の手槍を提たるさま、天晴れ勇ましき武者ぶりの中に、何處やら、優雅の面影もしのばれるやうなのが、まつ先驅けに、馬を飛ばして當るを幸ひ、忽ちのうちに、敵五六騎を突き伏せ、六七騎に傷を負はせ、猶も怯まず、去らず、縱橫無盡に荒れ狂ふ勢ひの烈しさ、すさまじさには、さしもの敵勢も「あれこそ、人ぢやない。正しく鬼神の出現ぢや」と、膽をつぶして驚き、怖れ、その槍先に、立ち向はんずるものは、一人もないのでした。

若武者は皿に染む手槍を引きしごいて、獅子王の羊の群れを狩り立てるやうに、前後となく、左右となく、八面應酬の素晴らしい早技に、敵を突きくづし／＼してゐましたが、神保良衡は、本陣の方より、遙かにこれを見ると「うむ、天晴れの若武者、必定爲景が小姓のうちに、名あるものであらう、殺すもいと惜く思はるゝが、誰かあれを生捕にするほどの勇者はないか」と、居合す近臣どもを顧みました。その言葉の下より「仰せ畏まりました。拙者首尾よく彼れを生捕にいたしませう」と、答へて、馬を乘り出したのは、大力無双の上に、打物業にも人にすぐれたる手並みのある越石縫殿でありました。

縫殿は、若武者のほとりへ近づくと「先刻よりの心にくき働き、敵ながら感じ入る。これは神保方に、さるものありと知られたる越石縫殿、相手にとつて不足はあるまい。いざ。見參！」と、名乘りかけざま、槍をあげて、若武者の冑を突きました。その突かれた機みに、冑は飛んで、大童になり、丈なす黑髮を、おどろに振り亂したのを、よく／＼見ると、年の頃は二十二三と覺しく、鐵漿拔き眉毛の薄化粧にほやかに、紫くろ／＼と齒を染めなし、丹をふくんだ花の唇、燃ゆるばかりの風情、まこと繪に見るやうに美しく、優しき女武者でありましたから、縫殿もあまりの思ひがけなさに、あつと仰天せずにはゐられませんでした。

「ほう、何のことだ。定めし名ある勇士であらうと思ひの外、花も羞らふ女武者とは……」

いさゝか張り合ひ拔けの態で、心のうちにつぶやいたが、この美人こそ、誰あらう、爲景の寵愛を一身にあつめた側女の松江といふもの、綺羅にも堪へぬ纎弱い姿に似もやらず、巴、板額を地下より呼び生けたやうな勇婦であつたから、爲景は戰陣の間にも、常に彼女を從へ、影の形に添ふ如く、々手痛き働きぶりを見せるのが例でありました。

たゞ遠まきに矢玉の霰

松江は馬の腹帶を締め直すために、爲景に遲れて、その先途を見屆けることが出來なかつたから、憤怨、悲傷の情やらん方なく、「一人たりとも、餘計に敵を打ち取り、好き相手に出會つたならば刺しちがへて、冥土の道連れにしよう」と、根かぎり、精かぎりに、只一騎、奮戰、奮鬪をつゞけるのでした。

縫殿に戰ひを挑まれると、なにかはためらふべき、疲れたる精神を勵まして、彼女は早速これを邀へ、火の出るばかりに、烈しく槍を合はせました。

二合……三合……四合……五合するうちにも、縫殿はいく分か侮る心があり、その上、手捕にしようとの考へもあるところだから、どうかすると、受け身になりがちのことが多いのでした。

「こりや、油斷がならぬ。寔に恐ろしい勇婦だ。うつかりすると、手捕にするどころか、あべこべにこつちが突き伏せられるかも知れぬ」

勇婦矢疵に生捕の憂目

やつとさう氣がついたものゝ、時は既に遲く、頹れかゝつた勢ひを、又盛り返すだけの餘裕は失はれました。

「えい、己れ、これでもか。これでもか」

疊かけて、彼女が突きかける鋭い槍先を、或は掻いくゞり、或は刎ね上げなどしながら、しばらく苦戰をつゞけるうちに、縫殿は馬のふとした躓きから、鞍つぼによろめいたところを、ぐさと一突き胸板を突き通され、敢なく、一命を落すことになりました。

さあ、それに、敵はます／＼怒りをなして、我れ手捕りにせん、討ち取らんとするものもなく、四方より、遠卷に取り圍んだ上、雨の如く、霰の如く、矢玉を射かけ、打ちかけるばかりでした。

「卑怯なる奴原、多寡が一人の敵を討ちとることが出來ずして、飛道具を用ふるとは何ごとぞ」

彼女は芙蓉のまなじりに血を注ぎ、齒をぎり／＼と噛み鳴らして口惜しがりもし、殘念がりもしたけれど、どうする譯にも行きませんでした。

手にした槍をからりと投げ捨て陣刀の鞘を拂つて、秋の蝗よりもしげく、身邊に飛び來る矢を、わづかに切り拂ひ／＼しましたが、その間にも、鎧に立つ矢は蓑毛の如く、だん／＼重なる矢疵の痛みに、さすがの勇婦も、いさゝか怯み氣味にならずにはゐられませんでした。

その樣子を、見るより早く、藤田主計といふものが、つと馬を馳せ寄せて、むんづとばかり組みつき、遂にこれを組み伏せた上、生捕にいたしました。

「貞女は二夫にまみえず」 遺書して見事に自刃

やがて戰ひ終つた後、松江は良衡の前に引き出され、一應の取調べを受けることになりました。矢疵に惱んで、いく分の衰へは見えるけれど、聞えた勇婦だけに少しも惡びれたさまはなく、殊上の鎧の健氣な覺悟は、その淸き眉目の間に、あり／＼とうかゞはれました。

敵となり、味方となるのも、戰ひの習ひ、その頃の武士の胸には溫かな情の血が通つて居りました。

「まつたく女には珍しき健氣もの。もし爲景の胤を孕んで居らぬやうなら、生命を助けつかはさう」

敵將の妻妾で、身ごもつたものは、生命を助ける譯にはゆかない。これが當時の定法とせられたのは、後に憂ひを殘さざらんがために外なりません。

良衡は旨を藤田主計にふくめて松江を彼に預けました。そのついでに、今ひとつ次のやうなことをつけ加へました。

「あれが、いよ／＼只の身であると決まつたら、まだ定まるもののない其方、宿の妻にいたしたらどうか。昔和田義盛が、巴御前を娶つて、剛勇朝比奈三郎を生せたためしもある。そのやうなことにもならば、其方ばかりの仕合せぢやない。つながる緣の予も、如何ばかり喜ばしいことか分らぬ」

主計は大きに喜びました。嫖緻といひ、勇力、早技と云ひ、世に類稀なる彼女を、妻にすることが出來れば、これに過ぐる幸福はないと思つたからでした。

我が家において、矢疵の養生をさせてゐる間に、主計はひそかに心をつけ、姙娠の有無を探りましたが、いゝあんばいに、そんな樣子は、ちつともないらしく見かけられました。

「よし、それではいよ／＼口說き落しにかゝるとしようか」

彼れは或る夜、奧の一室に、松江を訪づれて

「のう、松江どの、斯樣なことを申しては、お氣に觸るかも知れぬが、おん身の年ごろ賴母しきものにせられた人は、既に梅櫪野の露と消え果てられた。されば、今更誰に、遠慮もござるまい。拙者不肖なれども、神保方では、兎に角、多少は人に知られたもの、おん身とは梅櫪野以來の、淺からぬ誼みもござれば、この際、枉げて拙者の妻女となり下さる心はござらぬか」

と、面はゆさの中からも、熱心に口說き立てました。

松江は始終を聞いて、いとも興醒顏に

「お志のほどは、まことにお嬉しう、何ともお禮の申上げやうもございませぬ。さりながら、妾としても、只今卽答をいたす譯には參りませぬ故、どうぞ一兩日の間、ご返事を御延ばし下さりますやうに……」

と、哀願するやうに云ひました。

主計は心のうちに、

「かうなつたら、彼女も自分より外に、賴りにするものがないんだから、多分自分の望みを叶へるであらう」

と、さう思ひ／＼、その夜は、心もちよく臥床につきました。

すると、その翌日になると、「なまじ死におくれて、かゝる恥辱を見ることの口惜しさよ。貞女は二夫に見えず、まして、敵方に從ふなどは、聞くも汚らはし」と、一通の遺書をのこして、見事に彼女が自殺したのを見出しました。時に年二十三、まだ盛りを過ぎぬ身を、無殘の嵐にまかせたのでした。（終）

一年前の回顧

皇軍の活躍目覺し（二月六日）

隱忍をつゞけてゐたわが軍の積極的自衞戰はいよ／＼目覺ましく流石に無智蒙昧な支那兵も可成り痛切に身の程を知つたらうと思はれます、二十六日は敵の飛行機五機のうち二機を擊落せしめて鎧袖一觸見事に空軍の威嚴を示しました、この外嚴家橋の塹壕に日本刀で斬り込んだ若林少尉の武勇傳、わが砲の威力など、目覺しい活躍は數へるに違ありません、さうして二十七日午後には江灣鎭の堅城高く日章旗が輝きました

支那側に誠意なし（同二十七日）

わが代表部は聯盟理事國に對して一定條件の下に上海の日支休戰につき新提議をなし、認識不足の聯盟も日本の誠意を知つて斡旋の勞をとりましたが支那側は無鐵砲な強がりをいつて誠意のみるべきものもなく漸く峠を越えたと思はれた兩軍の對陣も再び戰況活潑となりわが軍は四明公所に砲彈の十字火を浴びせました

駐日四大使働く（同　上）

上海における日支の激戰は果然國際聯盟に大きな波紋を投じ駐日英、米、佛、伊の四大使は共同租界內のわが軍事行動を撤去されたい旨申込んできたが、芳澤外相は租界外人の生命利益の保護を念として何らその利益侵害をしてゐない旨回答すると同時に認識不足の聯盟理事國に對しても強硬態度をとることになりました、一方これに調子づいた無智な支那兵はいよ／＼積極的な抗戰をつゞけて各所に激戰が演ぜられました、又滿洲においては匪賊僞勇軍の跳梁を慮つて鐵道沿線から兩側五百米の地域に於て警戒の障碍となるべき穀物の播種を禁止する旨臧奉天省長から布告が發せられました

日本側の誠意通る（同二十八日）

無理解な國際聯盟は二十八日上海事件に關する秘密通牒を十二ケ國理事國代表に手交しましたが、日本側の戰鬪中止の誠意が漸く一般に判明したので強硬な空氣は多少緩和されました

全滿に建國の聲（同二十九日）

苛斂誅求の惡虐な軍閥政治を排して三千萬民衆の切實なる建國促進の聲が到るところにあがり二十九日には奉天で盛大な建國デモが行はれました、これと相呼應してチ、ハル、吉林、公主嶺、遼陽などでも割れるやうな人氣のうちに非常な熱を以て示威運動が各地に起りました、異樣な服裝をした蒙古のラマ僧百三十名が新國家への參加を要求してはる／＼と奉天にきました 多年わが恩政に浴してゐる旅大大衆と公議會その他各種の團體が中心となつて奮起し建國の烽火は一齊に全滿各地に揚がりました、同じく廿九日にはリットンを首班とする國際聯盟の支那調査團一行が橫濱につきました

滿洲國生る（三月一日）

さん／＼たる旭光を浴びて平和と希望に輝く滿洲國がいよ／＼成立されました、卽ち一日附を以て初めて滿洲國の名によつて世界に呼びかける建國通電を發しました、これと同時に學良軍閥の最も大きな搾取機關であつた各地の銀行も統一されて、新しい中央銀行が三千萬元の資本金を擁していよ／＼一齊に開店されました▲海の彼方アメリカでは空の人氣者リンディ大佐の赤ちやんが居なくなつて大騷ぎを演じました

支那側愈よ不遜（同　一日）

日本側の休戰根本條件たる支那軍の二十キロ撤退要求は不遜な回答によつて拒絕する一方その虛に乘じて陸續と軍を集中してゐるので、わが第〇〇師團を增派すると共に白川義則大將を上海派遣軍の總司令官に任命陸海軍共同作戰の下に二日朝大場鎭の堅壘を占據しました

支那軍遂に總退却（同　二日）

破竹の勢ひで二日前原〇團は大場鎭を突破して夕刻眞茹無電臺附近の敵兵を一掃、更に陸戰隊は北停車場を占據したので閘北方面に密集せる敵の大部隊も先を競つて總退却を行ひお氣の毒な程支離滅裂に陷つたので、自衞的立場を嚴正に守るわが軍としては一先づ軍事行動を打切ることになりました

滿洲國人の感激（同　上）

銃後に溢れる國民の熱誠は幾多の美談を産んでゐますが、わが軍の辛苦と華々しい活躍に感激した州內の滿洲國人有志三百五十名は零細な金を集めて滿洲號の資金へ獻金方を申し出ました

大國日本の襟度（同　三日）

上海派遣軍司令官白川大將は一方的に戰鬪行動中止の聲明を發して大國日本の襟度を示しました聲明は 日本軍の軍事行動は在留邦人保護のため已むなき手段であつて支那兵を目的通り追拂つたからはその挑戰がない限り戰鬪行動を中止する といふ威嚴と誠意にみちたものでした

聯盟總會開會（同　上）

上海事件を骨子とする日支紛爭に對する聯盟總會がいよ／＼三日ジュネーヴで開かれました

滿洲里に兵變（同　四日）

新國家に歸順したハイラル滿洲里の護路軍約千名は建國匆忙の間隙をねらつて遂に兵變を起し同地の在住邦人は危險に陷つた

中等學校入學志望者の日曜練習課題

先週のお答（一たんこれでお休みします）

算術

(1) 計算 略記

(答) イ. 0.4余0.0036　ロ. 4/13

(2) イ.○　ロ.□　ハ.△

(3) 18錢＋2錢＝20錢

18錢　20回

20錢　X回

反 20:18＝20:X

$X = \frac{18 \times 20}{20} = 18$回

(答) 18回で運べます。

(4) $\triangle \times \frac{11}{33} = 187$人

$187人 \div \frac{11}{33} = 561$人

(答) 志願者は561人です。

(5) 540錢−450錢＝90錢……もうけた金高

90錢÷450錢＝0.2

(答) 利益の步合は二割です。

【注意】 利益の割合は自分の出したお金卽ち原價に對する割合であることを忘れてはなりません

國語

一、大空に高くそびえてゐる高い山でも登らうとすれば登る道はあるのだ

此のやけつくやうな日中に蟻はどこをさして一生けんめいに行くのだらうか

二、(1)食物はほどほどにとらねば胃を害します

(2)出發せんとする折から雨が降りだした

(3)ヨーロッパは暖流の影響を受けて氣候が溫暖である

(4)あの人は快活といふよりはむしろおてんばの方だ

三、(1)編輯局をさす

(2)營業局をさす

(3)總務局　編輯局＝編輯　營業局＝販賣、廣告

四、(1)退始（×）──治

(2)郡（×）──群

(3)威勢（×）──勢

(4)程席（×）──度。底イ（×）──低。

供同（×）──共、

五、買フ。無智。乘ジ。安イ。品高。賣付ケ。見本。精良。使。實際。注文。對シ。粗惡。送。爲ス。事。

國史

一、(イ)欽明天皇の御代（一二一二年）に百濟から傳はつた。

(ロ)聖德太子や聖武天皇

(ハ)行基、空海、最澄

二、神代（4）　大和時代（5）　奈良時代（6）　平安朝（7）　鎌倉時代（1）　吉野朝（8）　室町時代（3）　戰國時代（9）　江戸時代（10）　明治大正時代（2）

三、(イ)鎖國…家光將軍

(ロ)寬政の治…家齊將軍

(ハ)幕府中興の政治…吉宗將軍

(ニ)通商條約…家定將軍

(ホ)大政奉還…慶喜將軍

四、三條實美、岩倉具視、大久保利通、西鄕隆盛、木戸孝允

五、(イ)下關條約　日淸戰爭の講和條約で、我が全權は伊藤博文、陸奧宗光、支那の全權は李鴻章で、明治二十八年四月下關で條約を結ぶ。其の條約

1、朝鮮の獨立を認む

2、遼東半島、臺灣、澎湖島を日本に讓る

3償金二億兩（我が三億五千萬圓）を出す

(ロ)天津條約

明治十七年の朝鮮事變の時、伊藤博文を淸國に遣はして、其の使臣李鴻章と天津で條約を結んだ。其の天津條約の內容は次の如くである。

1、兩國とも朝鮮に兵力をとゞめないこと

2、若し必要あらば互に通知した後に出兵すること

(ハ)ポーツマス條約

日露戰爭後明治三十八年九月五日米國のポーツマスで行はれた日露間の講和條約で、日本の全權は小村壽太郞、露國の全權はウイッテで世話した人は米國大統領ルーズベルトである。

條約は

1、露國は淸國より借受けた關東州を日本に讓ること

2、露國は長春、旅順間の鐵道及炭坑を日本に讓り渡すこと

3、露國は樺太の北緯五〇度以南を日本に讓り渡すこと

4、露國は日本の韓國に於ける權利を認めること、等

地理

一、日支貿易品（近年日支事件で多少異つてゐますが）

輸出　綿織物、砂糖、麥粉

輸入　綿、鐵鑛

二、工業が盛んになつた理由

1、石炭、鐵の產出が多い。

2、海外の植民地から原料を得易いからである。

主なる工業

紡績業、織物業、製鐵業。

三、世界大戰の結果國力が非常に衰へてゐたのに、其の後國民の努力によつて再び戰前の樣に榮えかけてゐる。そして學術の研究と其の應用の盛なことが特にえらいと思ふ。

四、日米貿易品の主なるものは

輸出　生糸、絹織物、陶器、茶

輸入　綿、木材、鐵及鐵材、機械類等。

五、米…印度、印度支那

砂糖…ジヤワ島、キユバ島。

生糸…日本、支那、

石油…アメリカ合衆國、スマトラ（ボルネオ）

六、神戸─門司─上海─ホンコン─シンガポール─コロンボ─マルセーユ─ロンドン。

七、1、ウラヂホストック…日本海にのぞむ港でシベリヤの門戸である。我が敦賀との間に定期航路が開かれてゐる。

2、ボンベー　印度にあつて綿小麥の輸出が盛な港である。

3、ベルリン　ドイツの首府である。

4、ケープタウン　南アフリカ聯邦にあつて其の門戸である

5、サンフランシスコ　アメリカ合衆國の西海岸にある良港で我が橫濱との間に定期航路が開かれてゐる。

理科

(一) 頭＝腦。胸＝肺。心臟。腹＝胃。腸（小腸、大腸）。肝臟、膵臟、脾臟、腎臟、膀胱

(二) A ヒフ　B 管

(三) 1含水炭素　2脂肪　3蛋白質　4ヴイタミン

(四) A(1)ヴイタミンA〜夜盲症　セムシ

(2)ヴイタミンB〜カクケ

(3)ヴイタミンC〜壞血病

B(1)ヴイタミンA　肝油、バタ、ハウレンサウ等

(2)ヴイタミンB　麥類、キヤベツ、トマト等

(3)ヴイタミンC　チシヤ、ミカン、タマネギ等

(五) A 1唾液　2胃液　3膽汁　4膵液　5腸液

B 蛋白質は水にとけやすいものに

脂肪は乳のやうなものに

澱粉は糖類に

變化せらる